

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number : 01-126736

(43) Date of publication of application : 18.05.1989

(51)Int.Cl. G06F 9/46
G06F 9/44

(21)Application number : 63-207998 (71)Applicant : WANG LAB INC

(22) Date of filing : 22.08.1988 (72) Inventor : KHOYI DANA
SOUCIE MARC S
SURPRENANT CAROLYN E
STERN LAURA O
PHAM LY-HUONG C

(30)Priority

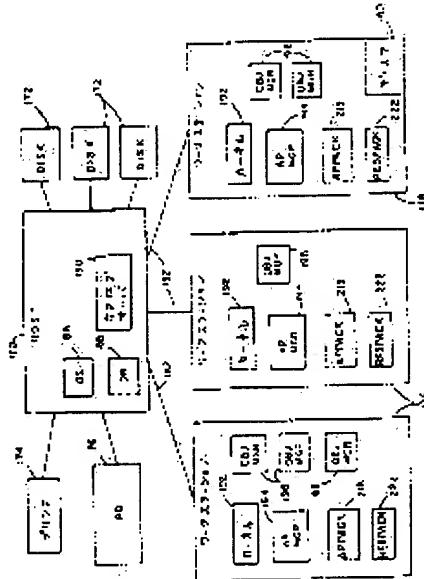
Priority number : 87 88622 Priority date : 21.08.1987 Priority country : US

(54) DATA PROCESSING SYSTEM

(57) Abstract:

PURPOSE: To share data resources among various programs by providing an open type frame work in a customizable computer system.

CONSTITUTION: An RESPACK 222 is the pack of services and functions used for accessing resources and correcting them. Some program or user is used, the device of the RESPACK 222 is used and the resources are prepared. Or existing resources are copied and the copied resources are corrected so as to match with program function and user specified requirements. In these cases, the customized resources are specified for the program, function, and user prepared and corrected for them.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

⑨ 日本国特許庁 (JP) ⑩ 特許出願公開
 ⑪ 公開特許公報 (A) 平1-126736

⑫ Int. Cl.¹G 06 F 9/46
9/44
9/46

識別記号

340
330
340

府内整理番号

B-7056-5B
Z-8724-5B
F-7056-5B

⑬ 公開 平成1年(1989)5月18日

審査請求 未請求 請求項の数 27 (全 87 頁)

⑭ 発明の名称 データ処理システム

⑮ 特願 昭63-207998

⑯ 出願 昭63(1988)8月22日

優先権主張 ⑰ 1987年8月21日⑮米国(US)⑯886622

⑰ 発明者 ダナ・コーア アメリカ合衆国マサチューセッツ州01826, ドラカント,
トウラウト・ブルツク・ロード 207⑰ 発明者 マーク・サン・ソウシ アメリカ合衆国マサチューセッツ州01879, タインズボ
ロ, シヤーパーン・アベニュー 33, ナンバー 8⑰ 出願人 ウォング・ラボラトリーズ・インコーポレー
ーションズ テッド アメリカ合衆国マサチューセッツ州01851, ローウエル,
ワン・インダストリアル・アベニュー (番地なし)

⑰ 代理人 弁理士 湯浅 恒三 外4名

最終頁に続く

明細書の抄書 (内容に変更なし)

明細書

1. [発明の名称]

データ処理システム

2. [特許請求の範囲]

1) データがタイプされたオブジェクトとして表示されるデータ処理システムにおいて、

(A) 少なくとも1タイプのオブジェクトに対して少なくとも1オペレーションを各々が実行するようにされた複数のオブジェクトマネージャと、

(B)

(C) リクエストしているオブジェクトマネージャからオブジェクトの識別とオペレーションの識別とを受け取り、

(D) 識別されたオブジェクトのタイプのオブジェクトに対して識別されたオペレーションを実行できるオブジェクトマネージャを識別し、および

(E) 識別されたオブジェクトマネージャを呼び出し、かつ識別されたオブジェクトマネ

ジャに対して識別されたオブジェクトに識別されたオペレーションを実行するようとのリクエストを通信するマネジメント手段

とを含むことを特徴とするデータ処理システム。

2) (A) タイプされたオブジェクトを表示するデータを記憶する手段と、

(B) 各々が少なくとも1タイプのオブジェクトに対して少なくとも1オペレーションを実行するようにされた複数のオブジェクトマネージャと、

(C) それに対して、いずれのオブジェクトマネージャもオブジェクトおよびオペレーションを識別できるマネジメント手段であって、その識別に応答して適当なオブジェクトマネージャを呼び出してオブジェクトに対してオペレーションを実行させるマネジメント手段とを含むことを特徴とするデータ処理システム。

3) 各々が少なくとも1タイプのオブジェクトに対して少なくとも1オペレーションを実行するようにされた複数のオブジェクトマネージャを

有するオブジェクトベースのデータ処理システムにおいて、アプリケーションマネージャが、

(A) リクエストしているオブジェクトマネージャからオブジェクトの識別とオペレーションの識別とを受け取る手段と、

(B) 識別されたオブジェクトのタイプのオブジェクトに識別されたオペレーションを実行できるオブジェクトマネージャを識別する手段と、

(C) 識別されたオブジェクトマネージャを呼び出し、識別されたオブジェクトマネージャに、識別されたオブジェクトに識別されたオペレーションを実行するようにとのリクエストを通過する手段とを

含むことを特徴とするデータ処理システム。

4) 請求項1に記載のシステムにおいて、複数のオブジェクトマネージャが、各タイプのオブジェクトに対して1組の標準オペレーションの各々を実行できるオブジェクトマネージャを含むことを特徴とするデータ処理システム。

5) 請求項2に記載のシステムにおいて、複数

-3-

スからなり、

(ii) マネジメント手段による受け取りが、マネージャプロセスによる、リクエストしているオブジェクトマネージャからのプロセス間通信の受け取りを含み、および

(iii) マネジメント手段による呼び出しが結果的にマネージャプロセスがオブジェクトマネージャプロセスを生成させるようにする

含むことを特徴とするデータ処理システム。

9) 請求項1に記載のシステムにおいて、マネジメント手段がオブジェクトをオブジェクトタイプに関連させるデータベースをアクセスする手段を含むことを特徴とするデータ処理システム。

10) 請求項1に記載のシステムにおいて、マネジメント手段がオブジェクトタイプをオブジェクトマネージャに関連させるデータベースをアクセスする手段を含むことを特徴とするデータ処理システム。

11) 請求項1に記載のシステムにおいて、リクエストしているオブジェクトマネージャにより

(2) のオブジェクトマネージャが各タイプのオブジェクトに対して一組の標準オペレーションの各々を実行できるオブジェクトマネージャを含むことを特徴とするデータ処理システム。

6) 請求項1に記載のシステムにおいて、各タイプのオブジェクトに対して省略時のオペレーションが定義されており、かつ複数のオブジェクトマネージャが各タイプのオブジェクトに対して対応する省略時オペレーションを実行できる少なくとも1個のオブジェクトマネージャを含むことを特徴とするデータ処理システム。

7) 請求項2に記載のシステムにおいて、各タイプのオブジェクトに対して省略時オペレーションが定義されており、複数のオブジェクトマネージャが各タイプのオブジェクトに対して対応する省略時オペレーションを実行できる少なくとも1個のオブジェクトマネージャを含むことを特徴とするデータ処理システム。

8) 請求項1に記載のシステムにおいて

(i) マネジメント手段がマネージャプロセ

-4-

提供されたオブジェクトの識別がリンク識別子からなることを特徴とするデータ処理システム。

12) タイプされたオブジェクトとしてデータが表示されるデータ処理システムにおいて、

(A) 少なくとも1タイプのオブジェクトに対して少なくとも1オペレーションを各々実行するようにされた複数のオブジェクトマネージャと、

(B)(C) オブジェクトをオブジェクトタイプと関連させ、

(B) リンク識別子を特定のオブジェクトと関連させ、

および(C) オブジェクトタイプをオブジェクトマネージャと関連させる

システムデータベースと、

(A)(B) リクエストしているオブジェクトマネージャからリンク識別子とオペレーションの識別とを受け取り、

(C) システムデータベースにアクセスしてリンク識別子が参照しているオブジェクトを識別し、

(D) システムデータベースにアクセスして識別されたオブジェクトのタイプを検出し、

(E) システムデータベースにアクセスして、識別されたオブジェクトのタイプのオブジェクトに識別されたオペレーションを実行できるオブジェクトマネージャを識別し、および

(F) 識別されたオブジェクトマネージャを呼び出し、識別されたオブジェクトマネージャに、識別されたオブジェクトに識別されたオペレーションを実行するようリクエストを通信するマネジメント手段、

とを含むことを特徴とするデータ処理システム。

18) リンクされたオブジェクトを含むデータ処理システムにおいて、

(A) 複数のオブジェクトマネージャと、
(B) 複数のオブジェクトと、
(C) 各リンクと関連したオブジェクトを識別する情報を記憶する記憶手段と、
(D) 記憶されたリンク情報をアクセスする手段であって、複数のオブジェクトマネージャの

-7-

19) リンクされたオブジェクトを含むデータ処理システムにおいて、

(A) 複数のオブジェクトマネージャと、
(B) リンクマーカを含む複数の親オブジェクトと、
(C) リンクマーカを含むオブジェクトからは分離しており、子供のオブジェクトをリンクに関係づける情報を記憶する手段と、
(D)(i) リクエストがリンクを識別することによりリンクされたオブジェクトを識別する場合に、リンクされたオブジェクトにオペレーションを実行すべきとのリクエストを受け取り、および

(ii) 記憶されたリンク情報をアクセスしとのオブジェクトがリクエストで識別されたリンクの子供オブジェクトであるか検出するために、各オブジェクトマネージャの各々にとって利用可能なリンクマネジメント手段とを含むことを特徴とするデータ処理システム。

17) 請求項16に記載のシステムにおいて、リ

(3) 全てに対してリンク情報を提供しうるアクセス手段と、

含むことを特徴とするデータ処理システム。

14) 請求項13に記載のシステムにおいて、前記記憶手段が、リンクがデータリンクであるか否かの指示を各リンクに対して含むことを特徴とするデータ処理システム。

15) 請求項13に記載のシステムにおいて、リンクの中の少なくともあるリンクは子供オブジェクトからのデータを親のオブジェクトにリンク結合させ、記憶手段が各リンクに対して、

(i) 子供オブジェクトからリンクされたデータが修正されるとき、

(ii) 親オブジェクトが開放されたとき、あるいは

(iii) 特別の更新リクエストがなされたときのみ、

リンクが更新されるべきことを各更新状態が指示できる更新状態の値を記憶することを特徴とするデータ処理システム。

-8-

リンクマネジメント手段が受け取られたリクエストに応答して識別されたリンク結合すみオブジェクトにリクエストされたオペレーションを実行するようオブジェクトマネージャを呼び出すことを特徴とするデータ処理システム。

18) 請求項17に記載のシステムにおいて、リンクマネジメント手段が応答するリクエストはリンク更新リクエストであることを特徴とするデータ処理システム。

19) 請求項16に記載のシステムにおいて、各リンクマーカが、該マーカが記憶されているオブジェクト内では一意であるリンク識別子を含み、かつリンクが親オブジェクトおよび対応するリンクマーカのリンク識別子を識別することにより識別されることを特徴とするデータ処理システム。

20) 請求項13に記載のシステムにおいて、リンクされたデータのコピイを記憶する、リンクされたデータのコピイの記手段をさらに含むことを特徴とするデータ処理システム。

21) 請求項20に記載のシステムにおいて、リ

ンクされたデータのコピイの記憶手段が、別のオブジェクトへのデータリンクを有する各オブジェクトに対応する個別のファイルにおいて記憶することを特徴とするデータ処理システム。

22) ユーザの入力のあるものが第1のプロセスに導かれ、ユーザの入力の他のものが第2のプロセスに導かれるマルチ処理システムにおいて、マッチメーカーが、

(A) 複数のプロセスのいずれかから、指示しているプロセスの果すデータ交換の役割の指示を受け取る手段と、

(B) 受け取られた役割の指示を記憶する手段と、

(C) 各々の受け取られた役割の指示が記憶された役割の指示と適合するか否かを検出するマッチ手段と

(D) そのプロセスから受け取った役割の指示が別のプロセスから受け取られた役割の指示と適合した旨をプロセスに通知する手段とを含むことを特徴とするマルチ処理システム。

(4)

23) 請求項22に記載のシステムにおいて、そのデータ交換役割が適合するプロセスの間の通信を設ける手段をさらに含むことを特徴とするマルチ処理システム。

24) 請求項22に記載のシステムにおいて、データ交換役割が、コピイ、移動、共用および位置づけオペレーションを含むことを特徴とするマルチ処理システム。

25) ユーザの入力のあるものが第1のプロセスに導かれ、ユーザの入力の他のものが第2のプロセスに導かれるマルチ処理システムにおいて、マッチメーカーのサポートを得て第1のプロセスと第2のプロセスとの間でユーザ主導のデータ交換を行う方法が、

(A) ユーザが、第1のプロセスがデータ交換オペレーションにおいて果すべき役割を規定した入力を第1のプロセスに提供し、

(B) 第1のプロセスが、第1のプロセスに対して規定された役割の指示をマッチメーカーに通知し、

-11-

-12-

(C) ユーザが、第2のプロセスがデータ交換オペレーションにおいて果すべき役割を指示する入力を第2のプロセスに提供し、

(D) 第2のプロセスが、第2のプロセスに対して規定された役割の指示をマッチメーカーに通知し、

(E) 第2のプロセスに対して規定された役割が第1のプロセスに対して規定された役割と適合することをマッチメーカーが検出し、

(F) マッチメーカーが第1と第2のプロセスの間で通信を設定する過程を含むことを特徴とするデータ交換の方法。

26) 請求項25に記載の方法において、前記の通信を設定する過程が各プロセスに適合したことの検出を通知し、かつ各プロセスに、該プロセスが他のプロセスとの通信において用いるコードを提供することを特徴とするデータ交換の方法。

27) 請求項25に記載の方法においてデータ交換の役割が、コピイ、移動、共用および位置づけオペレーションを含むことを特徴とするデータ交

換の方法。

3. [発明の詳細な説明]

産業上の利用分野

本発明はカストマイズ可能なコンピュータシステムに適し、特に種々のプログラム間でデータ資源を共用するメカニズムを備えたシステムに関する。

従来技術及び発明が解決すべき課題

データ処理システムにおいて繰返して起る多数の主要で一般的な問題領域があり、これら問題領域はデータおよび情報処理アプリケーションのタイプの範囲やユーザーの数やタイプの増加に伴い現代のシステムにおいて益々注目されてきている。これらの領域は特に均一なシステムや環境におけるアプリケーション、データの統合、新しいアプリケーションとデータタイプとを既存のアプリケーションやデータタイプと統合させるために、新しいアプリケーションやデータタイプを既存システムに追加できる能力、アプリケーションを更新しうる能力、特にビジネス上の利害やデータの応

用規模が国際的になるにつれてプログラムやデータを一方の言語から他方の言語に変換できる能力、種々のユーザがデータを共用できること、特にタイムリーに特定のデータを共用することにより各ユーザがデータの特定ボディの最新バージョンを有することができること、および一方のフォーム(form)あるいはデータ構造から他方のフォームまたは構造にデータを転換両方交換しうる能力を含む。

ユーザはグラフをドキュメントに含めたいと思うことがある。ユーザがグラフをドキュメントの文脈内から離脱できるようにする既存の方法はドキュメントのエディタのグラフ編集機能を強化することである。この方法は、(例えば音声の注釈のように)さらに新しいタイプのデータをドキュメントに統合するために、ドキュメントエディタを再度修正する必要があるという欠点を有する。事実、各エディタは各々の新しいタイプのデータを扱うよう個々に拡張されねばならない。

従来技術のあるシステムは、全てのデータタイ

(5) プが「オブジェクト」と称される標準化したデータ構造に常駐するオブジェクトベースのシステムを構成することによりこれらの問題を解決しようとしたが、この従来技術のシステムは全体的に、これらの問題を十分に解決することに失敗した。特に、従来技術のシステムは一般的に2種類の一方に該当する。第1の、古い方の種類のシステムにおいては、データタイプや適用プログラムに対する制約が殆んど無く、その結果、新しいアプリケーションやデータタイプを追加することは容易であるものの統合したシステムとユーザ環境を提供することは困難で、かつユーザとデータタイプの間でデータ通信することが極めて難しい。第2の、より最近の種類のシステムにおいては、例えばオブジェクトベースのシステムであって、定義したシステム環境を提供しようと試みてきた。この方法では、ユーザおよびデータタイプ間での通信できる能力を向上させる統合されたシステムとユーザ環境を提供する。しかしながら、前記種類のシステムに対して繰返し起る問題はシステム

の定義自体および定義されたオブジェクトベースのシステムを管理する上で必要とされるオペレーティングシステムのタイププログラムとが、もしそれらが初期に検討され、かつ定義されたアプリケーションとデータタイプとに適合しない場合新しいアプリケーションやデータタイプを追加する能力を阻害することである。

問題を解決する手段

本発明は、タイプされたオブジェクト、オブジェクトマネージャおよび適当なオブジェクトマネージャを呼び出しオブジェクトに対してオペレーションを実行する汎用化された呼び出しメカニズムにより高度に統合されていて、しかも拡張可能なシステムを提供する。

本発明によるシステムは中央のオペレーティングシステムタイプのオブジェクト管理システムは利用しないが、オペレーティングシステムタイプのタスクおよび多くの汎用化したアプリケーションプログラムタイプのタスクを実行するあるグループのオブジェクト管理データ構造と複数の、一

般的ルーチンの「バック」とを提供する。ルーチン「バック」は、オブジェクト管理データ構造に対してオペレートすることにより、オブジェクトマネージャがオブジェクト管理機能を実行するために全てのオブジェクトマネージャがアクセス可能で、かつ使用しうる一般的なオブジェクト管理ルーチンのバックを含む。この方法により、單にオブジェクトマネージャを設置し、そのオブジェクトマネージャを用いてオブジェクト管理データ構造において適当なエントリを生成することにより新しいオブジェクトタイプおよび新しいオブジェクトマネージャあるいはアプリケーションプログラムを既存のシステムに容易に追加しうる。

オブジェクト管理に關係したデータ構造の間に、個々のオブジェクトおよびオブジェクトの間のリンクを管理するために使用するオブジェクトカタログと、オブジェクトとオブジェクトに対して実行するオペレーションとを対応するオブジェクトマネージャに關係づけるために使用するオブジェクトマネージャテーブルと、オブジェクトの

作成に使用されるオブジェクトプロトタイプテーブルとがある。オブジェクトカタログは本システムに登録する全てのオブジェクトのオブジェクトテーブルを含む。またオブジェクトカタログは、オブジェクトテーブルにおけるいずれかのオブジェクトへ、あるいはそこからの各リンクのレコードを有するリンクテーブルを含む。

オブジェクトマネージャテーブルは複数のオブジェクトマネージャが、各オブジェクトタイプに対する一次オブジェクトマネージャを含む。いずれか所定のオブジェクトタイプをオペレートするようにさせる。特定のオブジェクトに対してオペレートするよう呼び出された特定のオブジェクトマネージャは実行すべきオペレーションのタイプによって決まり、あるオブジェクトマネージャは1タイプ以上のオブジェクトをオペレートしうる。オブジェクトタイプ、実行すべきオペレーションおよび対応するオブジェクトマネージャとの間の関係づけはオブジェクトマネージャテーブルを介して実行される。即ち、ユーザが所定のオブジェ

(6) クトに対してオペレーションを実行することを選択すると、オブジェクト管理ルーチンは、そのオブジェクトタイプの対応するエントリとオペレーションをオブジェクトマネージャテーブルから読み取り、呼び出すべき対応のオブジェクトマネージャを検出する。

オブジェクトタイプテーブルは新しいオブジェクトの作成に使用される情報を含む。オブジェクトタイプテーブルは本システムに設置された各タイプのオブジェクトの記憶されたプロトタイプコピーをアクセスする手段を提供する。いずれかの所定のタイプの新しいオブジェクトは、オブジェクトのプロトタイプコピーのコピーを作ることにより任意に作成することができ、アロトタイプオブジェクトのコピーが次いで、ユーザにより任意に修正あるいはオペレートされる新しいオブジェクトとなる。プロファイルエディタを用いて新しいオブジェクト用の対応する新しいプロファイルを作成し、かつ必要に応じて基本的なプロファイルのコピーを修正し、オブジェクトの修正された

特性を反映させることができる。

また、本発明のシステムは、例えばオブジェクトあるいはデータ構造の部分のようなデータ構造をリンク即ち接続させる手段を提供する。リンクング(linking)は、また、一方のデータ構造から他のデータ構造へデータあるいは情報をダイナミックにコピーできるようにすることによって、窓で先のデータ構造に、原封データ構造に変換する。リンクされたデータの最新のバージョンを提供することができる。

リンクは、「子供」のオブジェクトと称される一方のオブジェクトを「親」のオブジェクトと称する別のオブジェクトに接続する手段と見做してよい。子供オブジェクトを親オブジェクトに連結する他に、リンクはまた子供のオブジェクトのデータの一部を親のオブジェクトへリンクするために使用できる。子供のオブジェクトから親のオブジェクトへのデータのリンクングは、リンクされるデータは親オブジェクトの一部となるのではなくむしろ子供のオブジェクトの一部のままであると

いう点において、一方のオブジェクトから他方のオブジェクトへデータをコピーすることは区別される。リンクされたデータは子供オブジェクト内部のみおよび子供オブジェクトタイプと指定されたオブジェクトマネージャのみにより閲覧できる。

データは動的にも静的にもリンクできる。動的リンク連結の場合、データの現在のバージョンが子供オブジェクトから読み取られ、リンクが「更新」される毎に親オブジェクトに提供される。前述のようすに、動的リンクは例えば、親オブジェクトがオペレートされる、即ち開放され、表示され、編集され、あるいはプリントされる毎に更新しうる。また、リンクの更新は定期的間隔で開始され、あるいは子供オブジェクトに対するオペレーションに固定されることによって、子供オブジェクトが何らかの要領で修正されたり、オペレートされると常に更新が発生する。

本発明によるシステムは、異なるタイプのデータ構造の間でデータの交換を行うための改良されたシステムを提供する。データ交換メカニズムは

第1の局面においては、所定のデータ構造に対する各オブジェクトマネージャが、データが交換されているデータ構造のタイプに応じて1個以上の種々の交換フォーマットを使用しうる、複数のデータ交換フォーマットを提供する。本発明の実施例においては、本システムはヨクラスの交換フォーマットを提供する。第1のクラスは、種々のタイプのデータ構造と種々の内部フォーマットとの間のデータ交換に使用される一般的なフォーマットを含む。第2のクラスは同じタイプのデータ構造であるが内部データフォーマットの異なるデータ構造の間のデータ交換に使用されるカテゴリ特定のフォーマットを含み、第3のクラスは同じタイプで同じ内部フォーマットのデータ構造の間のデータ交換用の専用フォーマットを含む。

第2の局面において、本発明によるデータ交換メカニズムは、2個のデータ構造のオブジェクトマネージャが利用可能の交換フォーマットに関して通信でき、データ交換用フォーマットの選択を調整するマッチメーカー機構を提供する。

-28-

ジャ

- 1.1.1 オブジェクトタイプ:フォルダ
- 1.2. リンク
- 1.3. プロファイル
- 1.4. 資源
- 1.5. オペレーティングシステムとルーチンバック
- 2 アーキテクチャ上の概要
- 3 オブジェクトとファイル
- 4 データ統合
 - 4.1. 完て先オブジェクトのユーザへの見掛け
 - 4.2. あるデータの統合概念を示す例
- 5 リンク
 - 5.1. リンクの更新
 - 5.1.1. いつ更新が起るか?
 - 5.1.2. リンク更新オペレーションは再帰を要す
 - 5.2. はめ込みリンクを有するデータをコピイ
 - 5.3. リンクマーカ
 - 5.4. リンク仕様

-25-

(7) 本発明の目的は、種々のアプリケーションプログラムを統合する開放型のフレームワークを提供することである。この点に関して、「開放型」とは既存のアプリケーションの修正を必要とすることなく新しいアプリケーションを既存のアプリケーションと統合すべきことを意味する。

本発明の別の目的は、アプリケーションが基本的に独立したままでありうるもの、依然として相互に効果的に通信、かつ協働できるシステムを提供することである。

本発明のその他の特徴、目的および利点は本発明の実施例の以下の説明を読み、かつ図面を検討した後は当該技術分野の専門家には理解される。

実施例

以下の説明は、本発明の現在の好適な実施例を組み入れたコンピュータシステムの構成とオペレーションとに因するものである。

詳細な説明の概要

1 概念

1.1. オブジェクトおよびオブジェクトマネー

-24-

5.5. オブジェクトおよびリンクの構造(フリージング)

6 物理構成(第1A図・第1B図および第1C図)

7 表示システムのあるエレメントについて

8 システムデータ構造

8.1. システムデータベース

- 8.1.1. オブジェクトタイプテーブル
- 8.1.2. オブジェクトマネージャテーブル
- 8.1.3. オブジェクトプロトタイプテーブル
- 8.1.4. カストマイゼーションテーブル
- 8.1.5. ライブリティーブル
- 8.1.6. ポリユームテーブル
- 8.1.7. システム構成テーブル
- 8.2. オブジェクトカタログ
- 8.2.1. オブジェクトテーブル
- 8.2.2. リンクテーブル
- 8.2.3. ファイルリストテーブル
- 8.2.4. フォルダテーブル
- 8.2.5. フィールドNITファイル
- 8.2.6. オブジェクトNITファイル

-217-

-26-

- 8.2.7. 削除オブジェクトテーブル
- 8.3. リンクパラレルファイル
- 9 オブジェクトマネージャ呼び出し
 - 9.1. カーネルを直接用いることによる呼び出し
 - 9.2. スタートアップリクエスト
 - 9.3. APPACKによる呼び出し
- 10 オブジェクトマネージャテーブル(第3図)
- 11 オブジェクトプロトタイプテーブル(第4図)
- 12 オブジェクトカタログ(第5図、第6図および第7図)
 - 12.1. カタログサーバプロセス
 - 13 リンクおよびリンクパラレルファイル(第8図)
 - 14 コピー、移動および共用
 - 15 マッチメーカー(組み合わせ決定プログラム)
 - 15.1. マッチメーカーの目的と全体作図
 - 15.2. マッチメーカープロトコル
 - 15.2.1. 原始プロトコル
 - 15.2.2. 場所プロトコル

-27-

する

- 19.1.5. APrereate()…作成リクエストを発する
- 19.1.6. APrerchangeLink()…リンク変更リクエストを見する
- 19.1.7. APrerprint()…プリントリクエストを見する
- 19.1.8. APrerupdate()…リンク更新リクエストを見する
- 19.1.9. APrerecopy()…オブジェクトをコピーする
- 19.1.10. APrerdelink()…リンクを削除する
- 19.1.11. APrerelocate()…オブジェクトを再配置する
- 19.1.12. APrerimport()…外部のオブジェクトをインポートする
- 19.1.13. APrinvoke()…アプリケーションを呼び出す
- 19.2. オペレーションサポート

-29-

- (8) 15.2.3. オブジェクト間のMOVEオペレーションの後のUNDOの処理
- 16 データ交換(第9図)
- 17 資源
 - 17.1. 資源ファイル
 - 17.2. 資源(第10A図)
 - 17.3. 資源エディタ
- 18 資源カストマイゼーション
 - 18.1. カストマイズした資源による一般的なカストマイゼーション
 - 18.2. カストマイゼーションID
- 19 APPACK機能呼び出し
 - 19.1. 呼び出しサービス
 - 19.1.1. APrqstart()…スタートリクエストを発する
 - 19.1.2. APrqedit()…エディットリクエストを発する
 - 19.1.3. APrqread()…読み取りリクエストを発する
 - 19.1.4. APrqexec()…実行リクエストを発する

-28-

- 19.2.1. APrimit()…アプリケーションリクエスト処理の初期設定をする
- 19.2.2. APrereply()…リクエストに対して応答する
- 19.2.3. APrereinit()…APPACKイベント(事象)の仕様を初期設定する
- 19.2.4. APrereaction()…APPACKイベントに対するアクションコードをセットする
- 19.2.5. APrerremove()…APPACKイベント仕様を除去する
- 19.2.6. APrtest()…APPACKメッセージイベントをテストする
- 19.2.7. APrioninit()…アクティブオペレーションに対するRIOIDを取得する
- 19.2.8. APrsegwait()…APPACKメッセージを待機する
- 19.2.9. APoprequest()…オペレーションリクエストを送る
- 19.2.10. APrsegrequest()…リクエストメッセージを解釈する

-218-

-30-

19.2.11. `Apoptinish()`—オペレーションを停止する

19.3. マッチメーカーのオペレーション

19.3.1. `Apreserve()`—オペレーションに対するマッチメーカーを予約する

19.3.2. `Apunpost()`—マッチメーカーに対するオペレーションを通知する

19.3.3. `Apunconnect()`—一致したアプリケーションに接続する

19.4. リンク交換

19.4.1. `LNXpinit()`—リンクストリームの構成を開始する

19.4.2. `LNXprestart()`—ストリームをリンクにリセットする

19.4.3. `LNXpalink()`—リンクをストリームに入れる

19.4.4. `LNXpnewlink()`—新しいリンクをストリームに入れる

19.4.5. `LNXpfinish()`—リンクストリームの構成を終了する

—31—

リームに入れる

19.5.5. `TXXpfont()`—現在のフォントを変更する

19.5.6. `TXXpattr()`—テキストの属性をセットする

19.5.7. `TXXpdiacritic()`—区別的発音符を挿入する

19.5.8. `TXXpstrikethru()`—ストライクスルー(Strike-Through)キャラクタをセットする

19.5.9. `TXXpscript()`—スクリプトオフセットをセットする

19.5.10. `TXXpractical()`—垂直降下移動指令を出す

19.5.11. `TXXphorizontal()`—水平移動指令を出す

19.5.12. `TXXpspacing()`—行間間隔指令を出す

19.5.13. `TXXplanguage()`—言語変更指令を出す

19.5.14. `TXXpalink()`—リンクをストリーム

(9) 19.4.6. `LNXginit()`—リンクストリームの読み取りを開始する

19.4.7. `LNXgrestart()`—ストリームをリンクにリセットする

19.4.8. `LNXglink()`—次のリンクをストリームで取得(GET)する

19.4.9. `LNXgseek()`—ストリームで次のリンクをルックアップする

19.4.10. `LNXgskip()`—ストリームでの次のリンクをスキップする

19.4.11. `LNXgfinish()`—リンクストリームの読み取りを終了する

19.5. テキストの交換

19.5.1. `TXXpinit()`—テキストストリームの構成を開始する

19.5.2. `TXXprestart()`—テキストにストリームをリセットする

19.5.3. `TXXpstring()`—テキストストリングをストリームに入れる

19.5.4. `TXXpchar()`—单一キャラクタをスト

—32—

に入れる

19.5.15. `TXXpfinish()`—テキストストリームの構成を終了する

19.5.16. `TXXginit()`—テキストストリームの読み取りを開始する

19.5.17. `TXXgrestart()`—ストリームをバニラ(Vanilla)テキストにリセットする

19.5.18. `TXXgnext()`—データの次のタイプを入力ストリームで取得する

19.5.19. `TXXgstringsize()`—次のストリングの長さを取得する

19.5.20. `TXXgstring()`—ストリームから次のテキストストリングを取得する

19.5.21. `TXXgchar()`—ストリームから次のキャラクタを取得する

19.5.22. `TXXgfont()`—現在のフォントを取得する

19.5.23. `TXXgattr()`—テキストの属性を取得する

19.5.24. `TXXgdiacritic()`—区別的発音符

—33—

—219—

—34—

を取 する

- 19.5.25. TXGetrikethru() -ストライクスルーキャラクタを取得する
- 19.5.26. TXGetscript() -スクリプトオフセットを取得する
- 19.5.27. TXGetvertical() -垂直降下移動を取得する
- 19.5.28. TXGethorizontal() -水平移動を取得する
- 19.5.29. TXGetspacing() -行間間隔を取得する
- 19.5.30. TXGetlanguage() -ストリームから言語変更指令を取得する
- 19.5.31. TXGetfinish() -テキストストリームの読み取りを終了する

19.6. レコードの交換

- 19.6.1. REXpinit() -バニラレコードストリームの構成を開始する
- 19.6.2. REXprestart() -バニラレコードへストリームをリセットする

-35-

- 19.6.13. REXgettype() -次のレコードタイプを取得する
- 19.6.14. REXheader() -ヘッダレコード情報を取得する
- 19.6.15. REXgetdesc() -次のフィールド記述子を取得する
- 19.6.16. REXgetdata() -次のデータフィールドを取得する
- 19.6.17. REXnext() -次のレコードタイプまでスキップする
- 19.6.18. REXgetfinish() -バニラレコードストリームの読み取りを終了する

20 RESPACK 機能呼び出し

20.1. 資源ファイルアクセス機能

- 20.1.1. RESopen() -資源ファイルを開ける
- 20.1.2. RESlist() -資源ファイルのリストを開ける
- 20.1.3. RESclose() -資源ファイルを閉じ

20.2. 資源アクセス機能

(10) 19.6.3. REXpheader() -ヘッダレコードを構成する

19.6.4. REXpinit() -レコード記述子を開始する

19.6.5. REXpdesc() -フィールド記述子を構成する

19.6.6. REXpfini() -レコード記述子を終了する

19.6.7. REXpinit() -データレコードを開始する

19.6.8. REXpdata() -データフィールドを構成する

19.6.9. REXpfini() -データレコードを終了する

19.6.10. REXpfinish() -バニラレコードストリームの構成を終了する

19.6.11. REXinit() -バニラレコードストリームの読み取りを開始する

19.6.12. REXrestart() -ストリームをバニラレコードにリセットする

-36-

20.2.1. RESget() -資源を取得する

20.2.2. RESget() -多段資源を取得する

20.2.3. RESpoint() -資源に対するポインターを取得する

20.2.4. RESrelease() -資源を解放する

20.2.5. RESread() -資源を読み取る

20.2.6. RESlookup() -資源を所定の名前で見つける

20.2.7. RESgtinfo() -資源に関する情報を取得する

20.3. 資源ファイルの管理

- 20.3.1. RESforeste() -資源ファイルを作成する
- 20.3.2. RESfedit() -資源ファイルを修正する
- 20.3.3. RESfrew() -資源ファイルを検査する
- 20.3.4. RESfcommit() -ファイルの修正を行う
- 20.3.5. RESgtinfo() -ファイルに関する情報

-37-

-220-

-38-

情報を取得する

20.3.6. RESptinfo() - ファイルに関する情報

情報を入れる

20.3.7. RESavail() - 未使用の資源 ID を取得する

20.3.8. RESgtnext() - 次の資源情報を取得する

20.3.9. RESgtprev() - 以前の資源情報を取得する

20.3.10. REScheckpt() - 資源ファイル更新のチェックポイント

20.3.11. RESrevert() - 最後のチェックポイントへ復帰する

20.3.12. RESfreeze() - 資源ファイルバージョン番号を凍結する

20.3.13. RESgtver() - 資源ファイルバージョン番号を取得する

20.3.14. RESptver() - 資源ファイルバージョン番号を入れる

20.4. 資源編集機能

-39-

20.5.3. RESixadd() - 資源インデックスエントリを追加する

20.5.4. RESixdelete() - 資源インデックスエントリを削除する

20.5.5. RESixfini() - 資源インデックスの構成を終了する

20.5.6. RESixlookup() - 資源インデックスエントリをルックアップする

20.5.7. RESixlookup() - USHORTエントリをルックアップする

20.5.8. RESixlookup() - ULONGエントリをルックアップする

20.5.9. RESixslookup() - ストリングエントリをルックアップする

20.5.10. RESixufind() - USHORTエントリを見つける

20.5.11. RESixffind() - ULONGエントリを見つける

20.5.12. RESixsfind() - ストリングエントリを見つける

(11) 20.4.1. RESrdcur() - 資源の現在のバージョンを読み取る

20.4.2. RESgtcur() - 現在の資源情報を取得する

20.4.3. REScreate() - 資源を作成する

20.4.4. RESwrite() - 資源を書き込む

20.4.5. RESrewrite() - 資源を重ね書きする

20.4.6. RESptinfo() - 資源についての情報を入れる

20.4.7. RESmove() - 資源を新しい位置へ移す

20.4.8. RESptnm() - 資源の番号を付け直す

20.4.9. RESmerge() - 資源リストをファイルに併合する

20.4.10. RESdelete() - 資源を削除する

20.5. 資源インデックス機能

20.5.1. RESixinit() - 資源インデックスの構成を開始する

20.5.2. RESixprep() - 隠存インデックスの修正を始める

-40-

20.5.13. RESixget() - 資源インデックスでエントリを取得する

20.5.14. RESixindex() - 資源インデックスでエントリを取得する

20.5.15. RESixinfo() - 資源インデックスに関する情報を取得する

20.6. パッチスタイルでの資源の作成

20.6.1. REScreate() - パッチスタイルの資源ファイルを作成する

20.6.2. RESadd() - 資源ファイルへ資源を追加する

20.6.3. RESclose() - 資源ファイル構成を終了する

20.7. ユーザプロファイルサポート機能

20.7.1. RESptconfad() - セストマイゼーション ID をセットする

20.7.2. RESapendif() - プロファイルで資源を編集する

1. 概念

1.1. オブジェクトとオブジェクトマネージャ

本発明のシステムは「オブジェクトベースの」様に記述される一般的な種類のシステムの1つである。即ち、情報は「オブジェクト」と称される構造に記憶される。現在好適な実施例の実現において、ほとんどのオブジェクトはそれぞれ従来のコンピュータファイルシステムの1個以上のファイルに対応する。

さらにオブジェクトに関して、本発明によるシステムはフォルダとして前述したタイプを含む基本的には無限のオブジェクト「タイプ」の使用を可能とし、本システムにより実行すべきデータ、情報あるいは演算の各形態に対してあるタイプのオブジェクトがある。即ち、本発明によるシステムはオブジェクトとシステムとの間で最小のインターフェースのみ定義し、いずれかのオブジェクトの内部構造あるいは形態は定義しない。そのため、本発明によるシステム内のオブジェクトはデータ、プログラムあるいはその他の情報用の汎用コンテナとして見做してよく、内部構造即ち特定のオブジェクトの形態は実行すべきオペレーションの要

-43-

ータに(又はデータで)オペレートする一次手段であるデータベースオブジェクトマネージャを関連させている。

しかしながら、特定タイプのオブジェクトに対してオペレートするオブジェクトマネージャはそのオブジェクトタイプ用の一次オブジェクトマネージャに限定されないことに注目すべきである。さらに特定のオブジェクトに対してオペレートするよう呼び出された特定のオブジェクトマネージャは実行すべきオペレーションのタイプによって変わる。本発明によるシステムはいずれか所定のオブジェクトタイプに対してオペレートする複数のオブジェクトマネージャを提供し、あるオブジェクトマネージャ、例えばあるユーティリティは1個以上のタイプのオブジェクトに対してオペレートしうる一次オブジェクトマネージャは、もしユーザが異なったプログラムを選定していないとすれば、特定のオブジェクトタイプに対してオペレーションすべく省略被により呼び出される單なるオブジェクトマネージャである。

-45-

(12) 件あ いは記憶すべきデータあるいは情報のタイプにより定義される。

オブジェクトに作用(オペレート)するプログラムは「オブジェクトマネージャ」として知られ、あるいは場合によって「エディタ」、「アプリケーションプログラム」あるいは「アプリケーション」と称される。「アプリケーション」という用語はまた、單一のオブジェクトタイプをオペレートするオブジェクトマネージャのコレクション(集まり)を参照するために使用される。各タイプのオブジェクトは、そのタイプのオブジェクトに記憶されているデータあるいは情報をオペレートする一次手段として構成あるいは意図した少なくとも1個のオブジェクトマネージャを関連させている。例えば、システムは、ワードプロセッシングに対して「ドキュメントタイプ」のオブジェクトをサポートでき、そのオブジェクトタイプに関連したワードプロセッシングオブジェクトマネージャがある。同様に、「データベースタイプ」のオブジェクトは、データベースタイプのオブジェクトに記憶したデ

-44-

典型的には、オブジェクトマネージャは單一タイプのオブジェクトのデータに対してオペレートするが、ある場合にはプログラムが1つのオブジェクトタイプ以上のオブジェクトマネージャとなるよう記述することが望ましい。さらに、オブジェクトデータ(例えばファイルコピイ)を解釈しないオペレーションを実行せず、したがって各種タイプのオブジェクトに対して用いられる各種のユーティリティプログラムがある。

1.1.1. オブジェクトタイプ: フォルダ

フォルダは構成ツールとして用いられる。フォルダタイプのオブジェクトはそれが含んでいるリンクに対して主として用いられる。例えば、グループのオブジェクトは、全てを單一のフォルダオブジェクトに連結することにより論理的に相互に関連づけることができる。いずれのオブジェクトと同様に、フォルダ自体をフォルダに連結することができる。各フォルダには、フォルダの目的についてのユーザのコメント、フォルダのオブジェクトに対して何をすべきかの指令等の情報を含み

-222-

-46-

うるファイルが関連している。そのようなデータが無い場合も多いので、典型的なフォルダの有無は單にそれに連結したオブジェクトのリストのみであり、この場合、基本的にはフォルダにあるのはオブジェクトカタログでのエントリ、主としてリンクテーブルのエントリのみである。

フォルダは、リンクがいずれのデータにもはめ込まれていないのでリンクマーカを何ら必要としない。フォルダのリンク間の順序はリンクマーカがはめ込まれている順序によって決められるのではなく、リンクテーブルに記憶されているリンク ID の値により決定される。

フォルダは、それがリンクを有しているオブジェクトからはデータを何ら連結しない(即ち、フォルダはリンク・パラレル・ファイルを何ら必要としない)。フォルダは全てのオブジェクトの間の関係を示すリンクを正に用いるということである。

本システムの各ユーザは一次フォルダを有する。ユーザがシステムの資源へのアクセスを得るのはこの一次手段によるものである。典型的に各ユー

-47-

オブジェクトが直接的あるいは間接的にリンクされている。「親」とか「子供」という用語はリンクの方向を指すのであって、リンクされたオブジェクト間での階層を意味するものではない。

以下の説明で述べるように、リンクはまた子供オブジェクトの一部を親オブジェクトに、かつ子供オブジェクト全体をリンクするために使用し得る。さらに、いずれの数のオブジェクトや、オブジェクトの部分をリンクを介して相互に連結することができ、かつリンクの方向は階層的に限定されはしない。

1.3. アプロファイル

アプロファイルは、例えばシステム、オブジェクトあるいはリンクのような何かについてユーザが見ることのできる情報である。オブジェクトアプロファイルに含まれる情報はオブジェクトタイプによって左右される。ドキュメントタイプのオブジェクトに対して、オブジェクトアプロファイルは、例えばフォントリスト、グローバルフォーマット情報およびアリンクティングパラメータのようなオ

(13) ザの一次フォルダに連結され、各ユーザにある種の共通のシステム資源へのアクセスを提供する一次システムフォルダがある。さらに、ユーザの一次フォルダの全てはシステムフォルダに連結されている。

1.2. リンク

システムの情報は主としてオブジェクトの内部に含まれているが、オブジェクトの方は「リンク」と称される機構を介して相互に連結している。リンクは概念的には、「子供」オブジェクトと称せられる一方のオブジェクトが、「親」オブジェクトと称される別のオブジェクトに「接続」されるようとする手段と見做すことができる。各オブジェクトはある意味では、各オブジェクトが常に少なくとも1個のリンクを連結し、そのリンクを介して少なくとも1個の親のオブジェクトに連結するという点で子供のオブジェクトである。この点については、以下に説明するように、各ユーザは少なくとも1個の親オブジェクトを有し、該オブジェクトに対して、前記ユーザに連結したその他の全ての

-48-

オブジェクト自体に記憶された情報と共にオブジェクトテーブルに記憶された何らかの情報を含む。

1.4. 資源

「資源」とは、プログラムが使用するが、プログラムで実行可能なコードの一部としては記憶されないデータである。そのようなデータの例はアイコン、言語依存のテキスト、メッセージ、テキストフォント、フォーム、日付および時間並びにプレゼンテーションフォーマットを含む。したがって、資源はそのようなプログラムデータを、それが関連したプログラムから分離し、かつ独立して記憶する手段である。

プログラムデータを資源に入れることにより、その中の情報をプログラムが実行可能なコードに影響を与えることなくカストマイズ即ち変更することができるようとする。例えば、ワードアロセッシングデータベースおよびスプレッドシートプログラムの英語、仏語および独語バージョンは單に、対応する資源の英語、仏語および独語バージョンを提供することにより生成することができる。ア

-49-

-223-

-50-

ログラムの各バージョンにおいては、関連した資源に常駐するアログラムデータのみを変えればよく、アログラムの実行可能なコードは不变のままである。さらに、資源を使用することによりオブジェクトマネージャとその他のアログラムが共通のアログラムデータを共用できるようにし、そのため個々のオブジェクトマネージャとその他のアログラムのサイズと記憶要件を減少させる。

また資源にデータを記憶することにより個々のユーザに対してアログラムの外観とオペレーションを容易にカストマイゼーションできるようにする。資源のユーザ特定のカストマイズしたバージョンをユーザのユーザアロファイルに記憶することができる。ユーザアロファイルに介在するいずれかのカストマイズした資源を自動的にそれらの標準的なカウンタパート(相当物)と必要に応じて自動的に(かつ資源を用いてアログラムに見えないようにして)代替させる機構が提供される。

1.5. オペレーティングシステムとルーチンバック

コンピュータシステムは典型的には、オペレー

(14) ティングシステムと称されるアログラムのグループを含む。オペレーティングシステムは、システムの全体オペレーションを制御し、かつ促進し、該システムのユーザに対して選定した基本的で一般的なサービスオペレーションを提供するアログラムのコレクションと見做すことができる。オペレーティングシステムのそのようなサービスやオペレーションの例としてはプロセス管理、イベント管理、記憶管理、入出力操作、物理的アドレス交換論理、图形/テキストおよびディスプレイ(表示)操作、ファイルアクセスおよび管理オペレーションおよび数学的演算を含む。

オペレーティングシステムの従来からの見解では特定のアプリケーションアログラムに対して特定あるいは一意的でない全ての機能やオペレーションはオペレーティングシステムにより実行されるべきである。さらに、伝統的な見方ではオペレーティングシステムを緊密に集積化し、かつアログラムの相互依存グループと見做しており、オペレーティングシステムは一般的に、アプリケ

ションアログラムが現在および将来にわたって希望する全ての機能を設計者が想定するアログラムの一体構造として設計されている。オペレーティングシステムが相対的にセノリシック的で、かつ複雑であり、その結果オペレーティングシステムを構成するアログラムと相互関係があるため、オペレーティングシステムを修正したり、変更したり、更新したり別の特徴を追加することは相対的に困難である。

本発明によるオペレーティングシステムは、まずオペレーティングシステムにより実行される実際の機能とサービスとが最小に低減されるという点で従来のオペレーティングシステムと相違する。後述のように、本発明によるオペレーティングシステムは基本的にはプロセス、イベントおよび記憶管理機能と、物理的アドレス交換論理のみを実行する。

第2に、通常オペレーティングシステムにより実行されるその他の機能やサービスはアプリケーションアログラム自体で通常実行される多くの機

能やオペレーションと共にルーチンのライブラリによって実行される。「バック」と本明細書で称するルーチンのライブラリはオペレーティングシステムとアプリケーションアログラムの双方から独立して存在している。以下の説明で述べるように、バック内に含まれたルーチンは全体的な広範の適用性を有し、かつオペレーティングシステムとアプリケーションアログラムのサポート機能の双方に対して有用なるよう構成した、短くて、一般的で、單一目的のルーチンから構成されている。バックルーチンにより実行されるサービスと機能とは限定的ではないが、入出力操作、图形/テキストおよびディスプレイ操作、ファイルアクセスおよび管理オペレーションおよび数学的演算を含む。

また後述のように、各バックは、それらが実行するタイプあるいはそれらがオペレートするオブジェクトのタイプにより関係づけられる一組のルーチン即ち機能を含んでいる。さらに、所定のバックの全てのルーチンには均一なインターフェー

スあるいは呼び出しおよび復帰シーケンスを備えており、かつバックは特にバックヘッダファイルと制御ロック毎にバックが制御するオブジェクトに関する情報のロックに関して一定のフォーマットに合致する必要がある。

オペレーティングシステムの多様なサービスや機能およびアプリケーションプログラム内で通常提供される多くのオペレーションに対してルーチンのバックを用いることによりシステムのアーキテクチャと構成のフレキシビリティを大きく向上させる。機能およびサービスは容易かつ迅速に、さらにシステムのその他の機能を阻害するか、さらなければ圧迫することなく追加あるいは変更ができる。さらに、バックを使用することにより、通常個々の各アプリケーションプログラムに組み入れられる多くのオペレーションや機能が多くのアプリケーションプログラムにより共用されうるという点でアプリケーションプログラムのサイズや複雑さを低減させる。また標準化したインターフェースを備えたルーチンバックを使用すること

-56-

システム呼び出しを行いその結果オブジェクトマネージャを呼び出すことになるがアプリケーションマネージャプロセスと通信することによりオブジェクトマネージャを呼び出す。

2. アーキテクチャ上の問題

本発明はタイプしたオブジェクトの処理(マニピュレーション)を含む。種々のオブジェクトが、例えば以下に述べるような情報の種々形態を示すように構成されている。ドキュメントオブジェクトはテキストとそれに関連するフォーマット化情報を表示する。スプレッドシートオブジェクトは数学的モデル化情報を表示する。イメージオブジェクトは写真タイプのピクチャを表示する。

各タイプのオブジェクトに対して、そのタイプのオブジェクトに対してオペレートしうる1個以上の「オブジェクトマネージャ」がある。オブジェクトマネージャは大略アプリケーションプログラムに対応する。例えば、スプレッドシートプログラムがある。これはオペレーティングシステムのプログラムと区別されて「アプリケーション」と理

(15) により、多くのオペレーション、およびシステム、ユーザおよび他のアプリケーションプログラムに対するインターフェースが定義され、標準化されたルーチンバックインターフェースにより定義され、かつ該インターフェースに合致するようにされる点で種々のアプリケーションの統合を促進させる。

好適な実施例においては、これらのルーチンは共用されたサブルーチンライブラリに記憶され、実行時に必要に応じ動的(ダイナミック)にリンクされる。ある場合には、バックライブラリからのルーチンのコピイをプログラムの実行可能コードに含めることが望ましいが、この方法はアプリケーションプログラムの物理的サイズを増大させる。

以下の説明においてある種の機能を実行するルーチンを参照する場合、該ルーチンはその機能を直接独自で、あるいはシステム呼び出しを行うか、あるいは別のプロセスと一連のプロセス間通信を行うことにより達成することを理解すべきである。例えば、APPACKルーチンAPIInvoke()は、最終的に

-56-

解されうる。また、「スプレッドシート」タイプのオブジェクトの「マネージャ」あるいは「エディタ」とも理解しうる。

オブジェクトの構造と解釈とを定義するのはオブジェクトのオブジェクトマネージャである。オブジェクトタイプのコレクションは拡張可能である。既存タイプの情報は、それぞれ既存のタイプが相互に統合されているのと同じで、各々が将来タイプの情報と統合しうる。新しいタイプのオブジェクトを操作しうるプログラム(即ち、オブジェクトマネージャ)を追加することにより新しいオブジェクトタイプを本システムに追加することができる。新しいタイプのオブジェクトを操作しうる能力は一回実現されればよい。新しいオブジェクトマネージャを追加すると、新しいタイプのオブジェクトは、以前に存在のオブジェクトマネージャを修正することなく前に存在のオブジェクトへリンクしたり、データを交換したりでき、あるいは統合されたようになる。

拡張可能な統合を促進するということは、各オ

プロジェクトタイプに対して、標準的なセットのリクエストを全てサポートするオブジェクトマネージャがあるということである。さらに、これらのリクエストはアプリケーションとは独立した単一の標準的プロトコルによりオブジェクトマネージャの間で通信される。この態様に絶対的に困窮する必要はない。しかしながら例外の数が増加するにつれて、データ統合に対するこの方法から得られる利点が減少していく。

標準的なリクエストやプロトコルが十分な程度の統合を提供しない場合が発生すれば、専用リクエストやプロトコルを定義して標準的なセットと共存するようになる。このように、この拡張可能な方法は、適当に応じ密密な連絡を阻止することなく最低レベルの統合のみを定義する。専用プロトコルが適当である場合の一例はスマートシートアプリケーションとグラフィング(図示)アプリケーションとの間の通信である。

全てのオブジェクトマネージャに対して利用可能な1組のアプリケーション統合サービスがある。

-59-

クトマネージャのオペレーションにより達成される。時事通信は、テキストと関連のフォーマット化情報とを記憶するよう構成されたオブジェクトの1タイプであるタイプドキュメントのオブジェクトに記憶される。この例の特定のドキュメントオブジェクトは、写真タイプのピクチャを記憶するよう構成されたオブジェクトである「イメージ」タイプの個別のオブジェクトに対するリンクを含む。当該ページの表示は、テキストを検索し表示しているドキュメントオブジェクトマネージャと、ピクチャを検索し表示しているイメージオブジェクトマネージャとにより達成される。ピクチャに対するリンクと必要なオペレーション(表示)とを記載する情報は、アプリケーション統合サービスの助けをかりてドキュメントオブジェクトマネージャからイメージオブジェクトマネージャまで通信される。

本発明の実施例によるコンピュータシステムは、複数のプログラムを同時に有効に実行する機能を含んでいる。これはマルチタスキングあるいはマ

(16) これらのサービスはいずれか特定のタイプのオブジェクトの「知識」を何ら具体化しているものではない。むしろ前記サービスは各種タイプのオブジェクトの操作を調整するためにオブジェクトマネージャが使用するものである。特に、これらのサービスは適当なオブジェクトタイプに特定的な「知識」を具体化するオブジェクトマネージャをサポートしやすくする。

アプリケーション統合サービスの名称の由来は、それらが個々のアプリケーション(即ち、オブジェクトマネージャ)がユーザに対して他のアプリケーションのそれとデータのオペレーションおよび操作とを統合しうるよう見せかける機構であるためである。ユーザに対しては、テキストとピクチャの双方を有する時事通信の1頁をディスプレイすることは、ユーザにはドキュメントとして知られる单一のエンティティでピクチャとテキストとが統合されたことを示す。本発明によれば、この効果は、アプリケーション統合サービスを用いることにより調整された、2つの異なるオブジェ

-60-

ルチアロセッシングとして知られていて、同時に実行するプログラムの各々はタスクあるいはアロセスとして知られている。

本発明のシステムにおいては、アプリケーションマネージャがある。アプリケーションマネージャはオブジェクトマネージャの処理の基となる。即ち一般的には、オブジェクトマネージャは相互に對して同様であって、アプリケーションマネージャの子供である。

アプリケーション統合サービスは部分的にはアプリケーションマネージャによって、また部分的には1組の共通のサブルーチン即ち機能によって提供される。オブジェクトマネージャの原始コードの本体の組み込みうる1組の機能呼び出しが利用しうる。この組の機能はAPPACKとして知られている。APPACK機能呼び出しは、それによりオブジェクトマネージャがアプリケーションマネージャのサービスを利用するメカニズムである。一般的にAPPACK機能はアプリケーションマネージャアロセスへアロセス間メッセージを送り、かつそこから

アプロセス間メッセージを受取る。APPACK機能自体は共用のサブルーチンライブラリから呼び出し可能であって、あるいはプログラムリンク時にオブジェクトマネージャの実行可能本体へ直接組み入れることができる。

APPACKにより提供されるサービスは以下のカテゴリーに分類できる。即ち、呼び出し、データ交換、突き合わせ(マッチメーリング)、オブジェクト管理およびリンク管理である。

アプリケーション統合サービスの中で最も強力なサービスは「呼び出し」サービスである。これらサービスを取得するために介する最も一般的なメカニズムはAPInvoke()として知られるAPPACK機能であって、これは以下詳述する。特定の目的(例えばオブジェクトからデータをプリントするAPPrint()や、リンクにわたってデータを更新するAPrequpdate())で呼び出すためにその他のAPPACK機能も利用できる。

呼び出しサービスはいずれのオブジェクトマネージャも(例えばリンク仕様により)あるデータを

(17) 規定し、そのデータに関してオペレーションを実行できるようにし、適当なオブジェクトマネージャを識別し、かつ呼び出し、その結果呼び出されたオブジェクトマネージャが特定のタイプのデータを何ら扱うことなく希望するオペレーションが実行されるようにする。例えば、ドキュメントオブジェクトマネージャは、それぞれ同等の容易さで、かつイメージあるいはオーディオ(音声)データのいずれかを操作するよう構成することなくピクチャを表示したり、音声メッセージを再生できるようにする。

標準的なプロトコルを実行する役割を果す以外に、呼び出しサービスはまた、2個のオブジェクトマネージャの間で連絡を行い、統いて各オブジェクトマネージャが専用プロトコルに基いて連絡するようにするためにも利用できる。

データ交換サービスは、データに対して類似の内部表示を共用しえない2個のオブジェクトマネージャの間でデータを転送するために共通のデータタイプに対して標準的な表示を提供する。これ

らのサービスはデータの形態と転送の手段の双方をマスクすることによって、それらを使用するプログラムはデータの意味のある中味にのみ関係すればよい。

マッチメーリング(組合わせ決定)サービスはユーザ主導のデータ転送を設定するために使用される(これはデータ交換サービスを用いて完了するオペレーションである)。これらのサービスはデータ転送元(ソース)と受信者との間の交渉を促進する。

オブジェクト管理サービスとリンク管理サービスとを使用することは、本システムのオブジェクトおよびリンク機能を利用するオブジェクトマネージャにとって必要である。オブジェクト管理サービスはオブジェクトのアクセス、ネーミングおよび操作に関する基準を定義する。リンク管理サービスはオブジェクトマネージャが、それについてオブジェクトマネージャが何ら直接の「知識」を有さないタイプのオブジェクトへのリンクを保てるようになる。

3. オブジェクトとファイル

本発明のシステムにおいては、ほとんどのオブジェクトタイプに対して、各オブジェクトは(出来れば1個以上のファイルの)個別のファイルに記憶される。しかしながらこれは必要な要件でない。ファイルとしてのオブジェクトを実行することの利点は、あるオブジェクトのオペレーションはアプリケーション統合サービス(例えばオブジェクトの作成、オブジェクトのコピイ)により直接容易に実行できるということである。

本発明のシステムにおいては、インヘリタンス(inheritance)の形態は規定されている。ファイルベースのオブジェクトに対して実行しうるある種のオブジェクト管理オペレーションはAPPACKにより直接サポートされる。即ち、オブジェクトの作成、オブジェクトのコピイ、オブジェクトの名前の付け直し、オブジェクトの削除およびオブジェクトの凍結である。前記オペレーション中の1つがファイルベースのオブジェクトに対して要求されると、オブジェクトマネージャテーブルが

そのオブジェクトに対するオブジェクトマネージャがオペレーションを実行している旨指示し、その場合オブジェクトマネージャが呼び出され、オペレーションリクエストが該オブジェクトマネージャへ通される。APPACKはファイルベースのオブジェクトに対してこれらのオペレーションを実行しうるのみであるので、これらのオペレーションは非ファイルベースのオブジェクトにより引き継がれえない。

各オブジェクトタイプが別のタイプをその親として識別しうるさらに一般的なインヘリタンスを実行しうる。そのような状況においては、子供のタイプに対して特に定義されていないオペレーションは親のタイプのオブジェクトマネージャにより子供タイプのオブジェクトに対して実行しうる。これは新しいオブジェクトタイプを作成しやすくするという利点を有する。他方、インヘリタンスが生成されていないシステムはそれ自体より単純で高性能のシステムとなる。

4. データ統合

-67-

リンクにより達成され、共用されたデータは実際には行き先内には記憶されない。さらに、リンクは他のリンクがすでに参照しているものと同ビデータを参照する。即ち、同じ記憶されたデータが「共用」されるのである。共用の効果は共用されたデータへの各リンクが更新されると(更新のタイミングは他の個所で論じられているリンク更新フラグによって左右される)、その変更を明示することである。

「コピイする」ことはコピイされたデータの記憶と、原始データの記憶とが区別され、そのため一方が他方に影響を与えることなく変更可能であるという点で共用とは相違する。換言すれば、実際のデータの新しいコピイが作られる。さらに、コピイされたデータは2種類の要領で処理できる。即ち、行き先オブジェクトにおいて「内部化」するか、行き先オブジェクトにより「密閉化」できる。もしコピイされたデータが行き先オブジェクトで記憶しうるタイプのものであるとすれば、コピイされたデータは行き先オブジェクトにおいて内部

(18) データ統合を改良する本発明によるシステムの利点を理解する上で広範囲の緊密に関連し合った概念の間の区別を理解することが有用である。例えば、ユーザは「原創(ソース)」オブジェクトの全て、あるいは一部である既存のデータが新しい場所(以前に存在していたかあるいはデータを受取るためにのみ作成しうる「行き先(宛て先)」のオブジェクトにおける場所)へ「コピイ」「移動」あるいは「共用」オペレーションにより現われるようになり、これらのオペレーション各自は他の2つのオペレーションとは相違している。さらに、コピイあるいは移動オペレーションは、コピイあるいは移動されたデータがその行き先(行き先オブジェクト相当のオブジェクトマネージャによりユーザからかくされている行き先)で「内部化(internalized)」あるいは「密閉化(encapsulated)」されるように実行することができる。

行き先オブジェクトへのデータの「共用」とは、データは行き先オブジェクトにあるように見えることを意味し、これは共用されたデータに対して

-68-

化され、これはデータが行き先オブジェクトのデータ構造において直接記憶されることを意味し、内部化されたデータはオブジェクトに記憶されたいずれかの他のデータとは区別できなくなる。コピイされたデータが行き先オブジェクトで記憶できないタイプのものである場合、データを記憶しうるタイプの新しいオブジェクトが作成され、この新しいオブジェクトへのリンクが行き先オブジェクトに追加される。この場合(密閉化)、行き先オブジェクトは間接的に、コピイされたデータを取容する。

各アプリケーションはデータを密閉化するリクエストに応答する必要がある。応答の最も単純な方法は、データを含むオブジェクト全体のコピイを作り、その新しく作成されたオブジェクトを参照するリンク仕様を提供するものである。この単純な方法は、密閉化すべきデータがオブジェクト全体の中の極めて小さい部分である場合は非効率的である。このように、各アプリケーションは出来るだけ少ないデータをコピイすることによりデ

ータ密閉化のリクエストに応答するように構成すべきである。換言すれば、出来ればアプリケーションは全体オブジェクトより小さいもの、好ましくは希望するデータのみをコピイすべきである。チャート(図表)アプリケーションは完全なチャートを作りうるのみであるため、チャートを密閉化するには、たとえチャートの一部のみ所望であってもチャートオブジェクト全体のコピイを必要とする。別の極端な場合、ドキュメントオブジェクトマネージャは必要とされるものの近辺までを抽出しうる。イラストレーションオブジェクトマネージャはさらに別の場合である。それは希望する領域の外に来るイラストレーションエレメントはコピイしない。それは、たとえ部分的であっても希望する領域に入るエレメントを、該エレメントを希望領域のサイズまで切り取ることなくコピイする。このように、希望する領域より外側のイラストレーションの部分は密閉化されたデータ内で表示される。

「移動」は原始データが削除されている以外コピ

-71-

データはオブジェクトに直接記憶されるのと正確に同じ要領で編集できないので、何らかの方法で事实上区別がつかないようにすることが好ましい。(それがリンクされているオブジェクトに対して外部のタイプであるか否かには関係なく)リンクされているデータは個別にリンクされたデータ上で編集オペレーションを呼び出すことにより編集される。リンクされているデータのあるものは、固有のデータと相互作用しえないほど異なったタイプであっても依然として固有のデータと共に可視的に現われる可能性がある(外部データを表示するため、宛て先のオブジェクトマネージャはAPPACKを介して、そのようなデータを表示できるオブジェクトマネージャを呼び出す)。これは「隔離された」データとして知られている。たとえ隔離されたデータがオブジェクトにおける他のデータと同じタイプのものであったとしてもデータ隔離が用いられるような状況がある。例えば、ドキュメントのピクチャと関連した見出しが單に固定位置に修正されず、かつドキュメントの他のテキス

(19) イすることと似たようなものである。移動の宛て先が著しいデータ損失を伴ってデータを受取りうるとすれば(例えば、宛て先がリンクをサポートしないとすれば)、ユーザはそのような警告を受け、移動オペレーションを止める機会が与えられる。

4.1. ユーザに対する宛て先オブジェクトの見掛け

前述の説明は宛て先オブジェクトが内部的に、共用されたデータ、コピイされたデータあるいは移動したデータを表示する態様に焦点を当ててきた。若干離れた論議はそのデータがユーザに提供される態様である。一旦データが内部化されると、宛て先オブジェクトに記憶された他のデータとは相違しない。ユーザに対するその見掛けも必然的に相違せず、該オブジェクトの他のデータと共に編集可能である。宛て先オブジェクトにより扱いうるタイプであるが(共用されているため)リンクされているタイプのデータは宛て先オブジェクトに実際に記憶されたデータとは区別のつかない態様でユーザに提供されうる。しかしながら、前記

-72-

トとフォーマット化されずに現われることがある。このように、見出しがテキストとしてでなくむしろイメージとして効果的に扱いうる。

隔離が可能でない場合、統合されたプレゼンテーション(表示)の最小の形態は「アイコンによる表示」であって、リンクされたデータの介在を示すアイコンが宛て先オブジェクトのディスプレイの適当な位置に表示される。他のオブジェクトへのリンクをサポートする全てのアプリケーションは少なくともアイコンによりディスプレイをサポートすべきである。リンクがデータ交換を指示しない場合(即ち、リンクがリンク仕様を含まない場合)アイコンによるディスプレイはリンクングアプリケーションが成しうる最良のものである。このように、フォルダオブジェクトはアイコン以外でユーザに現われることは全くない。

4.2. あるデータ統合概念を示す例

以下の例は前述したデータ統合概念のあるものを示す。

第1のドキュメントがチャートを含む。これは

-73-

-229-

-74-

チャートを記憶するに適したオブジェクトへのリンクを含むドキュメントオブジェクトにより達成される。ユーザは第2のドキュメントを作成する。ユーザは(例えばマウスを動かし、関連の箇を入れることにより)第1のドキュメントでチャートを選択し、次いで「共用」キーを押す(あるいは他の手段では共用命令を呼び出す)。次いでユーザはチャートが現われるべき第2のドキュメントの位置を指し、次いで「プレース(位置指示)」キーを押す(あるいは他の手段ではプレース命令を呼び出す)。次いで、チャートは第2のドキュメントに現われる。次いでユーザは、第2のドキュメントの内部からチャートを選択し、編集キーを押し、チャートオブジェクトマネージャを呼び出す。ユーザはチャート内で変更する。次いで、ユーザは第1のドキュメントを再び開き、第2のドキュメントの内部からユーザが行ったばかりの変更を含むチャートを観察する。この例においては、チャート自体のコピーが一枚ある。共用オペレーションによりチャートへのリンクのコピーの第2のド

-75-

前記の例を更に展開して検討する。ユーザが第1のドキュメントにあるピクチャを第2のドキュメントに組み入れたいと思う。ユーザがこれを実行したいのは、前述のテキストのように、しかし前述のチャートのようではなく、ピクチャの見掛けの各々は他のドキュメントのピクチャを変えることなく変えるからである。ユーザは、第1のドキュメントのピクチャを選択し、コピイのキーを押し、第2のドキュメントにおける希望位置を指し、プレースキーを押すことによりこの作業を達成する。このためピクチャを含むピクチャオブジェクトのコピーを作り、かつこの新しく作成されたピクチャオブジェクトへのリンクを第2のドキュメントにおいて作成する。

この例を1ステップ先まで引続を検討する。ユーザが第1のドキュメントのテキストの文が同一形態で常に第2のドキュメントに現われ、その文で行った何らかの変更が双方のドキュメントに現われるようにならうと思う。ユーザはこのことを、希望する文を選択し、共用キーを押し、第2のド

(20) キュメントを作成したので單一のチャートに2箇所のリンクがあることになる。

引続この例を検討する。ユーザが第2のドキュメントにおいて第1のドキュメントのそれと似たテキストのあるパラグラフを利用したいと思う。ユーザはこのテキストが現われるべき第2のドキュメントにおける箇所を指しプレースキーを押す。(宛て先オペレーション(アレース)と原始オペレーション(コピイ、移動あるいは共用すること)はいずれの順番でも呼び出し可能である。次いで、ユーザは第1のドキュメントまで進み、テキストのパラグラフを選択し、コピイのキーを押す。次いでユーザは第2のドキュメントに戻り、パラグラフが希望位置に現われるか観察する。ユーザはそのパラグラフを編集する。後でユーザは第1のドキュメントに戻り、原始テキストが変わってないか、即ち第2のドキュメントでコピイしたテキストを編集することにより第1のドキュメントの原始テキストに何らかの変化をもたらしていないか観察する。

-76-

キュメントにおける位置を指し、プレースキーを押すことにより達成する。第1のドキュメントを記憶するオブジェクトを識別し、かつ(ドキュメントオブジェクトマネージャが理解しうる要領で)選択されたテキストの文を識別するリンク仕様を含むリンクが第2のドキュメントで作成される。

データの「内部化」と「外部化」との区別は前述の例を参照して表示しうる。ドキュメントオブジェクトはテキストを記憶するよう構成されたものであるため、第2のドキュメントにコピイされたテキストのパラグラフは、第2のドキュメントを記憶したドキュメントオブジェクトにおいて内部化される。このことはコピイされたテキストが前記第2のドキュメントに記憶された他のテキストと共に直接記憶されたことを意味する。対照的に、第2のドキュメントにコピイされたピクチャは外部化される。この理由は宛て先オブジェクト(ドキュメントマネージャ)が直接ピクチャデータを記憶できないからである。チャートと文とが(コピイされるのでなくむしろ)それぞれ共用される

-77-

-230-

-78-

ので、それらはそれぞれ(内部化されるのではなくむしろ)第2のドキュメントにおいて密閉化される。

オブジェクトがデータを内部化するにつれて、このデータはオブジェクトにすでに存在しているデータと区別がつかなくなる。内部化したデータは編集でき、あるいは前に存在していたデータと共に直接操作できる。密閉化したデータを編集するために、ユーザは密閉化したデータを選択し、編集命令を出すことにより、密閉化したデータが記憶されているタイプのオブジェクトを扱うことの出来るオブジェクトマネージャを呼び出す必要がある。何故ならこの差により密閉化されたデータは典型的にはユーザに対して可視マーキングを(例えばボックスで囲んだり、文字上の属性で表示したりして)付されるからである。

前述の例においては、ユーザは必ずしもピクチャデータがテキストデータとは別に記憶されていることに気をつけておく必要がないが、ユーザは、ピクチャを編集するには新しいウインドウを開く

-79-

5. リンク

5.1. リンクの更新

5.1.1. いつ更新が起るか

リンクにより子供のオブジェクトからのデータが親のオブジェクトに現われるようになる。概念的には、子供のオブジェクトにおけるリンクされたデータが修正されると、その修正は親のオブジェクトにおいて明示すべきである。直感的にリンク結合を達成する実行によりシステムに対して強度の性能要求を課しうる。

本発明によるシステムはリンクパラレルファイルと、広範囲の代替的なリンク更新状態とを用いてシステムに対するリンク結合による負荷を低減し、一方ユーザに対してリンク結合の利点を提供している。リンクパラレルファイルは親のオブジェクトが容易にアクセスしうるリンク結合のデータのコピーを記憶するための便利な倉庫である。もしこのコピーを連続的に使う場合、親オブジェクトは常に子供オブジェクトにおいてデータを正確に反映することになる。しかしながら、実際的

(21) ことになるエキストラオペレーションが必要なことを知る必要がある。

前述の例で示される別の点は、オブジェクトの全て、あるいは一部に対して前記の統合オペレーションを実行しうることである。前述のように、オブジェクトが「コピー」され、データが「密閉化」されると、新しいオブジェクトが作成されてそのデータを記憶し、かつ新しいオブジェクトに対するリンクが宛て先オブジェクトで作成される。コピーすべくユーザが選択したデータがオブジェクトの種一部である場合、新しく作成されたオブジェクトは(1)原始オブジェクト全体のコピー、(2)希望する部分のみ、あるいは選択されたものより大きいが全体よりは小さい部分のコピーを含むことができ、特定の場合のデータの量はオブジェクトのタイプ、および可能性としては選択された部分と選択されない部分との間の関係によって変わる。新しいオブジェクトが選択したデータ以上のものを含む場合、リンク仕様が選択した部分を識別する。

-80-

な問題として、もしリンクパラレルファイルがある重要な時点、例えば子供のオブジェクトにおけるデータが変るときとか、あるいは親のオブジェクトに対してオペレーションが実行されるときに更新されるとすれば同じ結果を達成することができる。各リンクは、該リンクの状態に適合するよう選択しうる関連の更新状態を有する。更新状態とは、本明細書の詳細な説明において述べるようにリンクパラレルファイルにおけるエントリでのフィールドである。更新状態に対して現在定義されている値は、マニュアル(Mannual)、ファーストタイム(First Time)およびダイナミック(Dynamic)である。一般的に、ユーザが親オブジェクトを観察している間に子供オブジェクトにおいては何ら変化は発生しない。このように、ほとんどのリンクはユーザが親のオブジェクトに作用する毎に、即ち「ファーストタイム」の更新状態のときにのみ更新されればよい。もしユーザがスプレッドシートで作業すると同時にスプレッドシートからリンクされた数でドキュメントを観察し

たい場合、およびユーザがドキュメントが常に現在のスプレッドシートの値を反映しているか調べたい場合、そのリンクの更新状態を「ダイナミック」にセットすべきで、このためスプレッドシートが正される毎に更新オペレーションを発生させる。

5.1.2. リンク更新オペレーションは再帰を要す

リンク更新オペレーションは再帰を要する可能性がある。「リンク更新」に含まれたデータには「別のリンク」がはめ込まれている。この「別のリンク」における更新状態のフラグの状態に応じて、元の更新オペレーションを完了させるためにこの「別のリンク」に対して更新オペレーションを実行する必要がある。「別のリンク」により基準化されるデータ自体は、はめ込まれたリンクを含む。このように、リンク更新オペレーションが完了することはリンクにより指示される深さまでの入れ子関係の更新オペレーションの完了を含む。

リンクとオブジェクトとが階層関係に構成されるとは限らないので、一連のシリーズが後存ルー

-83-

場合にリンクを処理する順序を決める。リンクが作成される場合、そのコピイフラグの初期値は、ユーザあるいはアプリケーションが規定したリンクを作成しないならば省略値のルールによりセットされる。その結果はコピイオペレーションがユーザの期待する結果を度々達成する。コピイフラグをセットする省略値ルールは以下の通りである。リンクされたオブジェクトがリンクを含むオブジェクト内から作成されると、コピイフラグはリンクされたデータがコピイされるようにセットされる。さもなければ、コピイフラグは、リンク(リンクされたデータでなく)がコピイされようとしてセットされる。

5.3. リンクマーク

リンクマークはオブジェクトのデータの本体に含まれリンクされたデータの存在を指示する。オブジェクトのデータはそのオブジェクトタイプに典型的に独特のフォーマット(オブジェクトのオブジェクトマネージャのみに「知られる」必要のあるフォーマット)に記述されるので、リンクマス

(22) アを形成することができる。單純な例としては、
第1のオブジェクトが、第2のオブジェクトの一部を基準とした第1のリンクを含み、第2のオブジェクトが第1のリンクを含む第1のオブジェクトの部分を基準とする場合である。本発明のシステムは更新オペレーションが循環的であって、エラーを発することを検出する。代替的システムでは単に1回の循環、データが安定するまで(このようなことは発生しない)の循環、あるいは間欠的な循環を含む。

5.2. はめ込みリンクを有するデータをコピイ

他のオブジェクトへのリンクを含むオブジェクトをコピイする場合、この参照されたデータをいかに処理するかの問題が発生する。リンクあるいはデータ自体がコピイしうる。ユーザは、例えば以下の例が示すように種々の状態において種々の結果を所望することがある。

本発明のシステムにおいては、各リンクと関連した「コピイフラグ」がある。コピイフラグの値が、リンクを含むオブジェクトがコピイされる

-84-

タのフォーマットもアプリケーションに依存している。リンクマスターは少なくともオブジェクトを読み取るアプリケーションがリンク ID の値を決定できるようにする必要がある。リンク ID はリンクに関する別の情報がリンクテーブルから検索できるようにする。

アプリケーション設計者は子供のオブジェクトのオブジェクトタイプをリンクマーカに含めるよう選択すればよい。このため、子供のオブジェクトのオブジェクトマネージャを呼び出す前に(子供のオブジェクトのオブジェクトマネージャを識別するに必要であるが、(タイプに関する情報を検索するアプリケーション統合サービスにより)オブジェクトテーブルの探索を排除することにより性能を向上させよう。

リンクマスターは、リンクマスターを含むオブジェクトにおけるデータが修正されると、残りのデータに関するリンクマスターの位置は出来るだけ密にユーザの期待に対応するよう設計すべきである。以下の2種類の実行を検討する。即

-85-

-232-

-86-

ち(1)データファイルのどこにリンクが論理的に位置していたかを示すバイトカウントを備えたりンクIDのテーブル(2)前記データの関連位置に埋め込まれたリンクIDが続くエスケープシーケンスである。第1の例によりマークで識別したリンクは、リンクマスクに先行するデータが追加されたり、あるいは削除されると移動しているよう見える。少なくともドキュメントに関しては、第2の代案がより堅密にユーザの期待に対応する。

前節に述べる第1の実行により示すように、リンクマークはリンクされたデータが現われるべき親のオブジェクトのデータの位置に物理的に記憶される必要はない。

5.4. リンク仕様

そこを横切ってデータが通りうる各リンクに対して、リンク仕様がある。フォルダオブジェクトへのリンクは決してリンク仕様を含むことはない。フォルダはオブジェクトの構成を作成するために使用するオブジェクトであり、かつオブジェクト自体は何ら実質的なデータを含まないため、リン

-87-

クで別のデータが規定される。

スプレッドシート用のリンク仕様は、絶対的な座標あるいは名前付き範囲のいずれかで規定されるある範囲のセルである。スプレッドシートの変更により、スプレッドシートのユーザより容易に理解される要領によりリンク仕様によりいずれのセルが規定されるか作用する(例えば、絶対的な座標が使用されると、規定された組のセルは、その範囲の左側のコラムが削除されると変化する)。

ドキュメントオブジェクト用のリンク仕様は讀者に異なる方法をとる。ドキュメントの一部がリンクすべく規定されると、ドキュメントの規定された部分は現在の位置から除去され、ドキュメント内のシェルフ(「欄」)に位置される。その部分が以下常駐していた位置には新しく作成されたシェルフへの索引が位置される。リンク仕様がこのシェルフを識別する。ドキュメントエディタがリンクされたマテリアルのようにシェルフ上のマテリアルを取り扱う。シェルフ上のマテリアルは適当な位置でドキュメントで表示されるが、シェル

(23) ク仕様は必要でない。

リンク仕様は、リンクされたデータがリンクされたオブジェクトの全体であることを示し、あるいは特定の部分を識別することができる。リンク仕様の解釈はリンクされたオブジェクトのオブジェクトマネージャにより実行される。即ち、リンク仕様は特定のアプリケーションに係るものである。リンクされたオブジェクトが修正された後リンク仕様の解釈が出来るだけユーザの期待に対応するようリンク仕様の実現を考えることが望ましい。リンク仕様を実現する以下の方法がこの点を示す。データベースオブジェクト用のリンク仕様は質問仕様である。このタイプのリンク仕様はユーザの期待に対応するという希望する結果を特に十分達成する。

図示のためのリンク仕様は以下の形態である。3頁1インチ下2インチ横から始まって、2インチ長さで3インチ幅の長方形の部分を用いる。これにより図示のある頁が入るウインドウを規定する。その頁のピクチャがシフトされる結果、リン

-88-

フ上のマテリアルはそのシェルフでの収集オペレーションを特別に呼び出さずには収集することはできない。このように、ユーザはドキュメントのテキストのあるものを共用している別のオブジェクトにおいてドキュメントに対する変更が明示される様様を容易に理解する。シェルフの外側での変更は何ら効果なく、シェルフ上の変更はリンクを横切って見られる直接変更したデータである。

5.5. オブジェクトとリンクの凍結

オブジェクトは凍結できる。凍結されたオブジェクトは決して修正することができない。本発明によるシステムに対する規則はオブジェクトが一旦凍結されたものとしてマーキングされると、再び凍結したとマーキングされることは無いことである。コピイは凍結したオブジェクトからつくることができ、コピイは修正することができる。オブジェクトは、オブジェクトカタログのそのオブジェクトのレコードにおいて「凍結」フラグを設計することにより凍結したものと識別される。

リンクは凍結することができる。これはリンク

の更新状態をマニュアルにセットすることにより実行される。マニュアルの更新状態のリンクにより提供されたデータは、次のときにリンクを新しいデータで更新すべきとのリクエストがなされるまで一定のままである。リンクの更新状態がマニュアルであると、リンクに関連したデータが完て先オブジェクトのリンクバラレルファイルに記憶されるコピーとなる。このデータはユーザが更新オペレーションを要求するまでは不变のままであるが、前記の要求時データの新しいコピーが作られる。リンクの更新状態がマニュアルにセットされると、更新オペレーションが実行され、リンクバラレルファイルにデータがあることを保証する。

オブジェクトに対する凍結したリンクはそのオブジェクトの修正可能性には影響しない。該リンクはその特定のリンクを通して視たオブジェクトの外観のみを凍結する。前記外観を含むデータは(完て先オブジェクト即ちリンクを含むオブジェクトである)リンクバラレルファイルに記憶され、リンクが作られているオブジェクト(原始オブジェ

-91-

特定の構成においては、高速(4メガビット/秒)の直列データリンク182を介して各ワークステーション178に接続されたウォングV Sミニコンピュータで、ワークステーションは各々モトローラ(Motorola)68020プロセッサである。この構成において、ホストコンピュータはV Sオペレーティングシステムを実行し、オブジェクトカタログとシのデータベーステーブルのあるものを管理するために汎用の関連データベースシステムを使用し、かつシステムのデータベースの整理に対してより単純なツールを用いる。(以下説明する)カタログサーバプロセッサ190がV Sで実行する。各ディスク172は1個以上のボリュームとして構成され、その各々はオブジェクトおよびその他のファイルを記憶するために使用され、かつ対応するオブジェクトカタログを含む。一方のボリュームがシステムデータベースを含む、各ワークステーション178は必要に応じてマルチタスキングカーネル192、アプリケーションマネージャプロセス194、および1個以上のオブジェクトマネージャ196を実行

(24) クト)は依然として修正可能である。

6. 物理的構成(第1 A図、第1 B図および第1 C図)

第1 A図、第1 B図および第1 C図は本発明を組み込みうる情報処理システムのブロック図である。

第1 A図を参照すれば、顯著なディスク記憶容量172、リンク174およびその他の共用の周辺装置176を備えたホストコンピュータ170は複数のインテリジェントワークステーション178に接続されている。各ワークステーション178は仮想メモリをサポートするメモリ管理を備えたコンピュータを含む。ワークステーションは局部的に接続された周辺装置を含んでよいが、典型的にはホストコンピュータ170に接続された周辺装置174および176を使用する。ワークステーション178はローカルディスク記憶装置180を含んでよく、その場合、仮想メモリシステムはホストコンピュータのディスク172へでなく、むしろ局部的にページング出来る。

-92-

する。APPACKルーチン218とRESPACKルーチン222とかワークステーションに介在し、そこで実行している各種のオブジェクトマネージャ196により呼び出される。

代替形態(第1 C図)においては、ワークステーションはローカルエリヤネットワーク154上の対等なものとして接続され、前記ネットワークには共用資源用サーバ(例えばファイルサーバ158、プリンタサーバ)および例えばミニコンピュータあるいはメインフレームコンピュータのような共用計算資源も接続されている。

さらに別の代替構成(第1 B図)においては、(キーボード118とディスプレイ120とを含む)タム(dumb)ワークステーションが(メモリースペース110と中央処理装置116とを含む)ホストコンピュータに取り付けられている。この構成において、オブジェクトマネージャとアプリケーションマネージャとは、ワークステーションでなくむしろホストコンピュータで実行される。

第1 B図を参照すれば、全体的な情報処理シス

・ テム、即ち、プログラムにより制御され、かつシステム100のユーザにより指示されてデータあるいは情報に対してオペレーションを実行するコンピュータシステムのプロック図が示されている。図示のように、システム100はメモリースペース110、即ちオペレーションを実行する上でシステム100上でアクセス可能で且つ該システムにより使用可能なメモリースペース、を含み、該スペースにおいてユーザによる指示と制御とによって対応するデータ構造に対して各種のオペレーションを実行するためのアログラムやオペレートすべきデータ構造が常駐する。図示のように、メモリースペース110は、現在使用中のデータ構造やアログラムを記憶するためのメインメモリと、現在使用中でないデータ構造やアログラムを記憶するための、1個以上のディスクドライブのような大記憶メモリ114から構成されている。前記システム100にはまた、システムのオペレーションを実行するためにアログラムに対して応答する中央処理装置(CPU)116が含まれている。ユーザの入力に対してキー

-95-

第1C図を参照すれば、本発明を組み込みうる第2の情報処理システム(システム150)が示されている。該システム150は、單一のCPU116と、多數のユーザが共用しうるメインメモリ112との代りに、システム150が、それぞれが單一のユーザに供しうる複数のCPU116とメインメモリ112とを備える点においてシステム100と相違する。しかしながらシステム150はシステム100と同様に、現在使用されていないアログラム124を記憶する單一の大容量メモリ114とデータ構造126とを備え、單一の大容量メモリ114も本システムの全てのユーザにより共用される。

図示のように、システム150は一般的に第1B図に示すシステム100と同じ基本的エレメントを含む。しかしながら、システム150は複数の処理装置152から構成され、該処理装置の方はファイルサーバ158にバス154を介して接続され、該サーバの方はシステム150の中央に配置の大容量メモリ114に接続されている。各処理装置152、即ちワクステーションの方はCPU116と、メインメ

(25) ボード118が設けられ、かつユーザにオペレーションを可視表示するためにディスプレイが設けられている。また、システム100はシステム100へ、かつそこからの情報入出力を供給するためにテレコミュニケーション、ネットワークインターフェースおよびプリンタのような1個以上の周辺装置122を含んでもよい。これら周辺装置122のあるものはシステム100のメモリースペース110内に含めてよいことに注目すべきである。

システム100のメモリースペース110に常駐するアログラムとデータ構造とを参照すれば、これらのエレメントはユーザの指示でデータ構造に対してオペレーションを実行するアログラム124と、オペレートされるデータ構造126とを含む。また、本システムのオペレーションを導き、監視し且つ調整する機能を提供するオペレーティングシステムのアログラム128と、本システムとキーボード118、ディスプレイ120および周辺装置122との間での情報の転送を制御する入力/出力アログラム130とが含まれている。

-96-

モリ112と入力/出力装置158とからなり、該入力/出力装置158は例えばキーボード118、ディスプレイ120および周辺装置122とを含む。

システム100におけるように、現在使用中のアログラム126とデータ構造128、オペレーティングシステムのアログラム128と入力/出力アログラム130とは各処理装置152のメインメモリ112に常駐し、入力/出力装置を介して処理装置152と対話しているユーザの指示によってオペレーションを実行する。イナクティブ(inactive)アログラム124とデータ構造126とは單一の中央に配置の大容量メモリ114に常駐し、大容量メモリ114と、処理装置152の個々のメインメモリ112との間をファイルサーバ158とバス154により転送される。この点に関して、ファイルサーバ158は処理装置152からのリクエストを読み取ったり書込むよう応答し、データ構造126とアログラム124とを、ユーザのオペレーションにより要求されるに応じて大容量メモリ114と処理装置152との間で読み取ったり書込んだりする。さらに、オペレーティングシステムア

・ ログラム128と入力／出力プログラム130とは大容量メモリ114において記憶されかつ必要に応じて例えば処理装置152の開始時に大容量メモリ114から処理装置152のメインメモリ112へロードしうる。これらの目的に対して、ファイルサーバ158は例えばインテリジェントドライブシステムのような専用ファイルサーバより構成するか、あるいはシステムユーザの指示とリクエストにより更に別のオペレーションを実行しうる汎用コンピュータから構成すればよい。

7. 表示システムのあるエレメントについて

本発明のシステムのエレメントのあるものには、システムデータ構造、アプリケーションパック(APPACK)218、関連した資源パック(RESPACK)222を備えた資源がある。

システムデータ構造は本システムの管理に関係した複数のデータ構造体、その中のオブジェクトおよびオブジェクトマネージャと資源とである。システムデータ構造はシステムの一次フォルダ、システムのデータベース250および1個以上のオ

-99-

のボリュームがある場合、該システムにおけるオブジェクトカタログは1個以上である。その他のシステムにおいては、オブジェクトとファイルとは单一のオブジェクトカタログに取扱しうる。オブジェクトカタログはボリュームにある全てのオブジェクトの中オブジェクト識別子により割り出されたオブジェクトテーブルを含む。さらに、オブジェクトカタログはオブジェクトテーブルにエントリを有する各オブジェクトへ、あるいはそこからの各リンクに関する基本的情報を含む。

データリンクを有するオブジェクトカタログにおいて各類のオブジェクトに関するリンクパラレルファイル266がある。特定のオブジェクトに関するリンクパラレルファイル266はそのオブジェクトの二次データファイルに帰属する。

ユーザが所定のオブジェクトに対してオペレーションを行うよう選択すると、APPACK218のルーチンがそのオブジェクトのオブジェクトタイプ、オペレーションおよび可能なオブジェクトマネージャテーブルからの言語を読み取り呼び出すべき

(26) オブジェクトカタログ252とを含む。第2図に示すように、システムベース250はオブジェクトタイプテーブル254、オブジェクトマネージャテーブル256、およびオブジェクトプロトタイプテーブル258とを含む。第5図に示すように、オブジェクトカタログ252はオブジェクトテーブル260、リンクテーブル262およびファイルリストテーブル264とを含む。リンク平行ファイル266も、それらが公に入手しうる情報(例えば、更新状態、表示状態および表示モードフィールド)を含む範囲まではシステムデータ構造である。

APPACK218の方は、オブジェクトマネージャの統合、オブジェクト管理、オブジェクトマネージャの呼び出しおよびオブジェクトマネージャの「突き合わせ」およびオブジェクト間でのデータの交換に対するサービスと機能とのパックからなる。

ある場合には、特定のシステムにおけるオブジェクトとファイルとは「ボリューム」に構成され、特定のオブジェクトカタログは所定のボリューム内でのオブジェクトへのエントリを含み、1個以上

-100-

対応のオブジェクトマネージャを検出する。特定のオブジェクトに対してオペレートするよう呼び出された特定のオブジェクトマネージャは実行すべきオペレーションのタイプにより変わり、かつあるオブジェクトマネージャは1タイプ以上のオブジェクトにオペレートすることができる。

オブジェクトプロトタイプテーブルはプロトタイプのオブジェクトを識別する。オブジェクトプロトタイプは対応するタイプのオブジェクトの基本的な省略特性を含む。オブジェクトプロトタイプテーブルは、そのためにプロトタイプが存在するシステムに取り付けたオブジェクトの各タイプのプロトタイプコピイを識別する手段を提供する。そのためにプロトタイプの存在するいずれかのタイプの新しいオブジェクトが、オブジェクトプロトタイプのコピイを作ることにより作成され、プロトタイプオブジェクトのコピイはユーザにより修正されたり、オペレートされる新しいオブジェクトとなる。プロファイルエディタは新しいオブジェクトに対して対応する新しいプロファイル

ルを作成し、かつ必要に応じてオブジェクトの修正された特性を反映するために基本的アロファイルのコピイを修正するために使用しうる。

ユーザは、例えば書式文字であるデータをすでに含む新しいタイプのオブジェクトを作成できる。ユーザは前述のようにプロトタイプオブジェクトの適当なコピイをつくることにより新しいプランクオブジェクトを作成する。次いでユーザはアロトタイプオブジェクトに現われるべきデータを入力し、必要に応じてオブジェクトアロファイルを修正し、オブジェクトアロトタイプテーブルにこの新しいアロトタイプオブジェクトのエントリを位置する。次いで、この新しいアロトタイプオブジェクトは、アロトタイプオブジェクトのコピイを作ることによりプランクのアロトタイプオブジェクトと同様にオブジェクトを作成するために使用され、アロトタイプにユーザにより入力されたデータがアロトタイプの各コピイに現われる。

資源は、プログラムにより使用されるが、いずれのプログラムの実行可能コードの一部として記

(27) 値されないデータのブロックである。これらの資源は、一般的に、例えば各種のオペレーティングシステムやユーザのインタフェース機能により本システムにより使用されるが、個々のプログラムにより使用される。1個以上のシステム資源を含む。さらに、資源は、特に本システムのユーザと特に関連し(ユーザファイルに記憶された)1個以上の資源を含みうる。

RESPACKは資源にアクセスしつつそれを修正するために使用するサービスや機能のパックである。いずれかのプログラムあるいはユーザを用いてRESPACKの装置を用いて資源を作成するか、あるいは既存資源をコピイし、かつコピイした資源をプログラム、機能またはユーザの特定の要件に合うようコピイした資源を修正しうる。これらの場合は、カストマイズされた資源がそのため作成あるいは修正されたプログラム、機能あるいはユーザに対して特定的となり、後述のように、プログラムあるいはユーザの関連ファイルの対応する修正によりそのプログラム機能あるいはユーザと

関連するようになる。その後カストマイズされた資源は元の未修正資源の代りに用いられる。

8.2.2. リンクテーブル

リンクテーブルはカタログのオブジェクトを参照したか、あるいは該オブジェクトによるレコードを含む。1個のカタログにおけるオブジェクト間のリンクに対して、2個のカタログの各々におけるリンクテーブルにはエントリがある。

2.2(a) 親のバーマネント I.D - 12バイト 親のオブジェクトバーマネント I.D

2.2(b) 親の現在の位置 - 28バイト

オブジェクトの現在の位置はそのオブジェクト I.D(4バイト)、それがカタログ化されたボリュームの識別子(8バイト)、およびそのボリュームが位置しているシステムの識別子(16バイト)である。該システムの識別子は、それがこのレコードと同じシステムにあるときは零である。ボリュームの識別子はもしそれがこのレコードと同じボリュームにあれば零である。

2.2(c) リンク I.D - 4バイト

親のオブジェクト内で独特のもの。リンク I.D は親のオブジェクトのリンクマーカに記憶される。このリンク I.D が特定のオブジェクトにおけるいずれか特定のリンクマーカに対応したリンクテーブルからのレコードの検索を可能とする。

2.2(d) リンクタイプ - 1バイト

可能の値としては下記を含む。

子供:通常の値

バージョン:リンクされたオブジェクトは親のオブジェクトのバージョンである

反復:リンクされたオブジェクトは親のオブジェクトのコピイである

2.2(e) データリンク - 1ビット

このリンクに対応するリンクパララルアイルエントリにエントリがあるか否かセットされる。

2.2(f) 子供のバーマネント I.D - 12バイト

子供のオブジェクトバーマネント I.D

2.2(g) 子供の現在の位置 - 28バイト

2.2(h) 子供のタイプ - 4バイト

(28) レコードの物理的削除が延期される。

2.2(i) 子供のタイトル - 64 バイト

性能を向上させるためにリンクレコードに保持された子供のオブジェクトのタイトルフィールドのコピー

2.2(j) 子供の著者 - 82 バイト

性能を向上させるためにリンクレコードに保持された子供のオブジェクトの著者のコピー

2.2(k) コピーフラッグ - 1 ビット

もしセットされると、子供のオブジェクトは親のオブジェクトがコピーされるとコピーされる。もしセットされていないとすれば、子供のオブジェクトへのリンクがコピーされる。

2.2(l) 注釈 - 252 バイト

リンクを記述するためにユーザが定義しうる自由テキスト

2.2(m) 削除フラッグ - 1 バイト

このリンクレコードが削除すべきかセッタされる。この使用はデータベースシステムの内部へのものである。このため都合のよいときまでリンク

-107-

その元の名前空間(例えばファイル名あるいはデータベースの名前とレコード番号との組合せ)におけるオブジェクト部分の名前。

2.3(d) 連属フラッグ - 1 バイト

その部分がこのテーブルとは異なるシステムに位置するかセッタされる。

2.3.4. フォルダテーブル

フォルダテーブルはオブジェクトテーブルにおける各フォルダ用のレコードを含む。

2.4(a) フォルダオブジェクトID - 4 バイト

フォルダオブジェクトのオブジェクトID

2.4(b) 作成ロケーション - 84 バイト

このフォルダにおいて作成されたオブジェクトを置くべき記憶位置

2.4(c) 生成ファイルクラス - 1 バイト

このフォルダにおいて作成された全てのオブジェクトのクラス

2.4(d) 生成ドキュメントライブリ - 1 バイト

別のボリュームあるいはシステムに対してこのリンクレコードをそのコピーと同期すべきかセッタされる。

2.2.3. ファイルリストテーブル

ファイルリストテーブルはその主要な部分以外のオブジェクトの各部分に対するレコードを含む。これらの部分は典型的にはファイルであるが、例えばレコードのような何か別のもの。リンクバラルファイルはこのテーブルにリストされる。

2.3(a) レコードの一連番号 - 4 バイト

このファイルリストのレコードに対する独特の識別子

2.3(b) オブジェクトID - 4 バイト

このレコードにおいてそのオブジェクト部分(例えばファイル)が一部であるオブジェクトのオブジェクトレコードの識別子。

2.3(c) オブジェクト部分の位置 - 64 バイト

-108-

このフォルダにおいて作成されたドキュメントオブジェクトを置くべきオブジェクトライブリ

2.2.5. フィールドWITファイル

フィールドWITファイルはオブジェクトテーブルのWIT(「テキストのワード」)の索引付けされたフィールドにおける各ワードに対するレコードを含む。

2.2.6. オブジェクトWITファイル

オブジェクトWITファイルはWITの索引付けされたドキュメントの各ワードに対するレコードを含む。

2.2.7. 削除したオブジェクトテーブル

削除したオブジェクトテーブルはオブジェクトWITテーブルにおいて索引付けられそれ以来削除された各オブジェクト用のレコードを含む。

2.7(a) レコードの一連番号 - 4 バイト

レコードの一意な識別子

2.7(b) オブジェクトID - 4 バイト

削除したドキュメントのオブジェクトテーブルのレコードを識別する。

-109-

-238-

-110-

8.3 リンクパラレルファイル

ボリュームは多くのリンクパラレルファイルを含むことができる。各プロジェクトに対して、少なくとも1個のデータリンク(リンク仕様を含むリンク)がはめ込まれたリンクパラレルファイルがある。リンク平行ファイルはデータ転送に使用可能のリンクに関する情報を含む。リンクパラレルファイルは前記リンクを含む各オブジェクトに対して存在する。

8(a) 更新状態-1バイト

リンクが更新されるときを制御する。以下の値を有しうる。

マニュアル:特にリクエストされると更新が行われる

ファーストタイム:親のオブジェクトの開放毎にせいぜい1回更新が行われ、かつ子供のオブジェクトが最初にアクセスされたとき更新が行われる

ダイナミック:子供のオブジェクトが変化する毎に更新が行われる

-111-

ことができる。

オートマチック:リンクされたデータがユーザ内に入れば常にリンクされたデータを表示する。

オンライン:特にリクエストされたときのみリンクされたデータを表示する。さもなければ、リンクされたデータと親のデータとの関係に応じて、アイコンあるいはタイトルのみが表示されるか、あるいはオブジェクトが現われると(例えばドキュメントにイメージが現われると)空のスペースが表示されうる

8(d) リンク仕様ヘッダ

各リンク仕様に先行する標準情報は以下のフィールドを含む:

バージョン:8バイト

リンク仕様を作成した子供オブジェクトのオブジェクトマネージャのバージョンを識別する。このため、アプリケーションの改訂を促進し、一方リンク仕様をサポートする。

空域タイプ:4バイト

親オブジェクトに通す際それを通して子供のデ

(29) 8(b) ディスプレイモード-1バイト

リンクを示すためにユーザが調べるものを作成する。

データ:リンクされたデータが表示される。

アイコン/タイトル:子供のオブジェクトのタイトルと、および/または子供のタイプのオブジェクトを示すアイコンが表示される。アイコンまたはタイトルの選択はアプリケーションに依存する。

8(c) ディスプレイ状態-1バイト

ディスプレイモードフィールドが、リンクされたデータがユーザに対して表示されるべきことを指示すると、ディスプレイ状態フィールドはリンクされたデータがユーザに対して表示されるときを制御する。表示しているリンクされたデータに関して多大のオーバヘッドがある可能性があり、例えばユーザは常にピクチャがドキュメントに現われるようすることよりもドキュメントを通じて迅速にスクロールできることを好む。このフィールドによりユーザがこの性能の選択を表現する。

-112-

ータが変換されるフォーマット。

長さ:4バイト

後続のリンク仕様情報のバイトの数

8(e) リンク仕様情報-可変長

子供オブジェクトのタイプに細部依存する。このフィールドはリンクにより参照される子供オブジェクト内のデータを識別するために(リンクがその中にはめ込まれているオブジェクトのオブジェクトマネージャあるいはアプリケーション統合サービスによるのでなく)子供のタイプのオブジェクトのオブジェクトマネージャにより解釈される。

8(f) リンクされたデータのコピー-可変長
リンクされたデータのコピーを含む。

9. オブジェクトマネージャ呼び出し

9.1. カーネルを直接用いることによる呼び出し

上

オブジェクトマネージャは呼び出しプログラムの子供のオブジェクトのプロセスとして別のプログラムがオブジェクトマネージャを直接呼び出す。

ことにより呼び出すことができる。しかしながら、オブジェクトマネージャの呼び出しは典型的にはAPPACK呼び出し機構(例えばAPredit(), APIinvoke())の1つを別のプログラムが呼び出すことにより開始される。

2種類のアプリケーションが非標準的なプロトコルを介してやりとりする必要のないときでさえ、カーネル呼び出しによる直接呼び出しに対して(専用リクエストを用いて)APPACK呼び出し機構の使用の選択の方が利点がある。例えばAPPACKはアプリケーション間のやりとりの設定により高レベルの援助を提供する。さらに、2種類の通信アプリケーションは相互から、双方の連続したオペレーションを独立して分離させることができる。これはAPPACK呼び出しが用いられると、双方のプロセスがアプリケーションマネージャプロセスの子供であり、2つの通信プロセスの一方が他方の子供とならないためである。

9.2. スタートアップリクエスト

本発明のシステムはオブジェクトに対して実行

-115-

でよいのでオプションのリクエストと称されている。

標準リクエストに加え専用リクエストをサポートするよういずれのアプリケーションも構成しうる。このため、必要とするどのような特殊のリクエストもどのアプリケーションも定義し、一方APPACKによりサポートされた基本的呼び出し機構を用いれるようとする。大量のオブジェクトタイプに対しても特定の専用リクエストは一般的にサポートされないので、典型的にはその他のアプリケーションがそのようなリクエストを出すことはない。それにもかかわらず、アプリケーションのある組合せは特別仕様のリクエストから新しい利点を得て、そのためそれら自身の特異なリクエストを共に定義し、サポートする。

基本的には、専用リクエストと標準リクエストとの間の差異はリクエストをサポートするアプリケーションの数である。特定のアプリケーションの構成者は専用リクエストの定義を広く公表するよう選択しうる。その他の者がリクエストに

(30) しうる多數の一般的オペレーションをサポートする。これらのオペレーションは「スタートアップリクエスト」と称される。その理由はまず、それらが実行すべきオペレーションに対するリクエストとして開始され、第2に各リクエストがオペレーションあるいはプロセスを開始させるからである。

本発明のシステムの重要な特徴は、概ねいずれのオペレーションも概ね全てのタイプのオブジェクトに対して実行しうるよう一組のオペレーションが定義されることである。本発明のシステムのオブジェクトマネージャは、実用上あるいは有意味に出来るだけ多くの標準的リクエストがオブジェクトの各タイプに対してサポートされるよう構成されている。ファイルベースのオブジェクトに対して、標準的リクエストのあるものはAPPACKにより直接実行しうる。これは、APPACKにより実行されるファイルベースのオペレーションが不十分である場合、オブジェクトのタイプに対するオブジェクトマネージャによりサポートされるのみ

-116-

対応するにはオブジェクトマネージャを修正するに十分有用なリクエストを見出すことができる。その結果、そのリクエストは事実上の標準リクエストとなる。

(APPACKにより典型的には直接実行される「オプションの」リクエストを含む)標準リクエストは以下の通りである:

START:省略オペレーションを実行する。多くのタイプのオブジェクトに対して、省略時オペレーションはユーザーにより構築するようオブジェクトを開くことである。何らオブジェクトが規定されなければ、典型的な省略時オペレーションがユーザーが新しいオブジェクトを作成できるようにする。

EDIT:ユーザーがオブジェクトを構築できるようにする。

READ:ユーザーがオブジェクトを構築できるが、修正はできないようにする。

RUN:規定したオブジェクトを実行する。オブジェクトマネージャは選択あるいはプログラムロ

ーダとして機能する。

PRINT:プリントするようオブジェクトを整列させる。このリクエストにより規定されたオプションはユーザがプリントパラメータを提供するか、あるいは省略時パラメータを使用すべきかを指示する。

UPDATE LINK:特定のリンク仕様により指定されたデータの最終バージョンを親のオブジェクトに通信する。もしリンク仕様が有効でなければ、子供のオブジェクトマネージャがウインドウを開き、ユーザがリンクを再規定できるようにすべきである。

RESPECIFY LINK:ウインドウを開放し、ユーザがリンク仕様を変えるようにする。子供のオブジェクトマネージャは(現在規定されているデータを示して)子供のオブジェクトの関連部分を表示し、かつユーザが種々データを規定できるようにする。

EDIT OBJECT PROFILE:ウインドウを開き、ユーザが子供のオブジェクトのプロファイルを編集

-119-

る順序で)受け入れ可能交換フォーマットのリストを含む、マッチメーカーを備えたAPMNOPCONVERTINオペレーションを通知すべきである。次いで、マッチメーカーによりマッチメッセージが発行され、2個のオブジェクトマネージャ間の接続が作られデータを転送する。

COMPACT:規定されたオブジェクトにおけるデータ記憶をコンパクトにする。少なくともメッセージの完了、あるいはエラーメッセージの確認を含むブレティン(bulletin)をリクエスト元へ送る。

RECOVER:規定されたオブジェクト内のデータ記憶を回復する。メッセージの完了あるいはエラーメッセージの確認を含むブレティンをリクエスト元へ送る。

WORD LIST:オブジェクトにおける全てのワードのリストをコンパイルし、ブレティンをリクエスト元へ送る。ワードはパニラテキスト交換フォーマットを用いて戻される。それらの順番はフレーズオリエンティッドな索引付けのサポートに重要である。

(31) できるようにする。オブジェクトプロファイルに含まれている情報の性質はオブジェクトタイプによって変わる。

CUSTOMIZE:ユーザが、リクエストを受取るオブジェクトマネージャの挙動をカスタマイズできるようにする。修正可能な特性が関連のデータを資源に記憶させている。カスタマイズされた資源はこのオペレーションの結果である。ほとんどのプログラムはカスタマイズ可能な挙動オプションを有しておらず、そのためこのリクエストをサポートしない。

CONVERT OUT:規定されたオブジェクトの中味全体を提供する。そのようなリクエストを受け取ると、オブジェクトマネージャは、(情報損失の増える順序で)提供しうる交換フォーマットのリストを含む、マッチメーカーを備えたAPMNOPCONVERTOUTオペレーションを通知する。

CONVERT IN:新しいオブジェクト受取りデータを作成する。そのようなリクエストを受け取ると、オブジェクトマネージャは(情報損失の増え

-120-

CREATE:(オプション)

新しいオブジェクトを作成する。

COPY:(オプション)

既存オブジェクトのコピーを作成する。

RENAME:(オプション)

オブジェクトのユーザの可視の名前を変更する。

DELETE:(オプション)

オブジェクトを削除する。

FREEZE:(オプション)

オブジェクトを凍結する(例えば、オブジェクトテーブルのオブジェクトのレコードのフィールドを修正する)

IMPORT:(オプション)

既存ファイルを取り上げオブジェクトとする。

9.3. APPACKによる呼び出し

APPACKによるオブジェクトマネージャの呼び出しを用いることに係るステップの順序は一般的に次の通りである。

(a) リクエスト元が、リンクを頭削してAPPACK開始リクエストルーチンの1つを呼び出す(特に

-121-

-241-

-122-

汎用APIinvoke()機能が用いられた場合より多くのパラメータが規定しうる)。

(b) APPACKルーチンがリクエストをリクエスト元のメールボックス名と共にアプリケーションマネージャプロセスへ送る。

(c) アプリケーションマネージャは(オペレートすべきオブジェクトのタイプに基き)リクエストをハンドルする必要のあるオブジェクトマネージャはどれか規定し、かつどのリクエストを規定すべきかを決め、必要とされたオブジェクトマネージャの例を実行する新しいプロセスをつくる(これがこのオペレーションにおける「サーバ」である)。

(d) 新しく呼び出されたオブジェクトマネージャの初期設定の一部として、アプリケーションマネージャにそのリクエストと関連の情報を依頼する。

(e) そのリクエストが受け入れ可能であれば、サーバは、オペレーションを進行すべきことを示して、(データは常にコンシューマに対するサー

(32) バの方向に流れる必要はないが、コンシューマとしても知られる)リクエスト元へ答えを送る。もしリクエスト元により規定されたり、あるいはリクエストの性質が絶対的なものであれば、リクエスト元とサーバとの間が接続される。

(f) もしデータに対してリクエストがなされたとすれば、データ交換が前記接続を通して実行される。アプリケーションマネージャはもはやインタラクションの一部ではなくなる。

(g) リクエスト元とサーバとがオペレーションを終了すると、それらは接続を停止する。

APPACKルーチンはリクエストの発信の細部を扱う。前記ルーチンは通信に使用されるメールボックスを定義し、それ自身のメッセージを作り、特にリクエスト用ルーチン(例えばAPprint()、であって、APIinvoke()ではない)への呼び出しの場合呼び出しを完了させるために(かつある場合は通信が何ら必要とされない場合はオペレーションを完了させるために)必要な事象の処理の全てを実行する。呼び出されたAPPACKスタートアップ

(startup)機能が復帰すると、オペレーションは中断するか、あるいは新しいオブジェクトマネージャが開始され満足のいく答えを出している。通信が要求されるとすれば、リクエスト元とサーバとは各自、さらに別の通信で用いる共通のオペレーションIDが提供される。オペレーションが終了すれば、双方がAPpopfinish()を呼び出す。

標準的機能のいずれかをサポートするオブジェクトマネージャが開始され、(リクエストが何らユーザインタラクションを含まないこともあるので)ウインドウを開く前に、APIinit()を呼び出しスタートアップリクエストとパラメータとを取得すべきである。次いで、オブジェクトマネージャはリクエストを受けうるか決定すべきかであって、このことは典型的には、規定されたオブジェクトを聞き、リンク仕様を有効にする(これはリクエスト元が依然として答えを持っているので、迅速にすべきである)ことを含む。もしリクエストを受けないとすれば、オブジェクトマネージャは(リクエストを拒否する理由をつけて)APreject()

を呼び出し、かつクリヤにして出していくべきである。もしリクエストを受けつけできるならば、このことがAPreject()を用いて報告されるべきである。リクエスト元との通信が必要とされれば、リクエスト元からのメッセージを待機し、その後オペレーション特有の通信が進行する。もしオペレーションがリクエスト元との通信を必要しないとすれば、オブジェクトマネージャはオペレーションを完了させるよう進行し、完了するとAPpopfinish()を用いて状態を報告すべきである。

10. オブジェクトマネージャ(第3回)

特定オブジェクトにオペレートすべく呼び出された特定のオブジェクトマネージャはオブジェクトタイプによって変わり、かつさらに実行すべきオペレーションのタイプによって変わり、例えばワード処理のような言語依存型オペレーションにおいてはオペレートすべきオブジェクトで用いられる特定の言語によって変わりうる。

第3回を参照すれば、テーブルのデータフィールドのあるものを示すオブジェクトマネージャテ

ーブル258の構図が示されている。オブジェクトマネージャーテーブル258は複数のオブジェクトマネージャーテーブルのエントリ500から構成されている。各オブジェクトマネージャーテーブルのエントリ500の方はオブジェクトタイプ、オペレーションのタイプ、即ち前記オブジェクトタイプに対して実行すべきリクエスト、適用可能なら言語および特定のリクエストを実行すべき対応するオブジェクトマネージャの識別との組合せに対応する。各オブジェクトマネージャーテーブルのエントリ500はオブジェクトタイプフィールド502、リクエストフィールド504およびオブジェクトマネージャ識別子フィールド506とを含む。

前記フィールドの各々を検討すれば、オブジェクトタイプフィールド502はオブジェクトタイプコードを含む。リクエストフィールド504の方はオブジェクトマネージャーテーブルエントリ500で識別されたタイプのオブジェクトに対して、あるいは関連して実行しうるオペレーションに対応するコードを含む。最後に、オブジェクトマネー

(33) ジャイロフィールド508は、特定のオブジェクトに対してリクエストされたオペレーションを実行するよう呼び出された特定のオブジェクトマネージャのファイル名を含む。

オブジェクトマネージャーテーブルは以下のように使用しうる。ユーザに対してオブジェクトを表示するためにオブジェクト1つにおいてデータを読み取る過程においてオブジェクトマネージャはリンクマーカを見い出しうる。リンクマーカはリンクIDを含む。このリンクIDはリンクマーカがはじめ込まれたオブジェクト(このリンクに関する「親の」オブジェクト)のパーマネントIDと共にリンクテーブルにおいてそのリンクと対応するレコードを探索するために使用しうる。このリンクレコードはリンクされたオブジェクトのタイプを識別するフィールドを含む(オブジェクトテーブルへのキーとしてリンクレコードにおいて子供のパーマネントIDを用いることにより子供のオブジェクトのオブジェクトタイプを取得しうるので、このフィールドは必要とされない)。子供のオブ

ジェクトに対するこのタイプコードは「ディスプレイ」のリクエストのコードと共にオブジェクトマネージャーテーブルにおけるレコードを識別するために使用される。そのレコードのオブジェクトマネージャIDはリンクされたオブジェクトに対して必要とされるディスプレイオペレーションを実行しうるプログラム用のファイル名である。

11. オブジェクトプロトタイプテーブル(第4図)

第4図を参照すれば、オブジェクトプロトタイプテーブル258は本システムに取り付けられたオブジェクトの各タイプの記憶したプロトタイプコピーをアクセスする手段を提供する。第4図に示すように、各プロトタイプテーブル258は複数のオブジェクトプロトタイプエントリ600より構成され、各オブジェクトプロトタイプエントリ600は單一のユニークなオブジェクトプロトタイプに対応する。

各オブジェクトプロトタイプエントリ600はオブジェクトタイプフィールド602、言語フィールド604およびプロトタイプ識別子フィールド606か

ら構成されている。オブジェクトタイプフィールド602と言語フィールド604とがオブジェクトプロトタイプエントリ600をアクセスする「キー」を構成し、一方プロトタイプIDフィールド606は、各キーに対して、対応するプロトタイプオブジェクトを識別するためにオブジェクトプロトタイプエントリ600から読み出した情報を含む。前記フィールドの各々を検討すれば、オブジェクトタイプフィールド602は、そのプロトタイプがオブジェクトプロトタイプエントリ600により識別されるオブジェクトのタイプの識別子を含む。言語フィールド604の方は、そのプロトタイプがオブジェクトプロトタイプエントリ600により識別されるオブジェクトのタイプの特定バージョンが言語依存型である場合の特定の言語を識別するコードを含む。例えばドキュメントオブジェクト、およびしたがってそれらのプロトタイプが、第1のタイプが英語のドキュメント、第2のタイプが仏語のドキュメントおよび第3のタイプが仏語のドキュメントというように区別される数種のドキュメン

トタイプオブジェクトのプロトタイプがありうる。最後に、プロトタイプIDフィールド806は、そのタイプのオブジェクトのプロトタイプコピを含むファイルのファイル名を含む。

ユーザは例えばメニュー・ピック(menu pick)を介してオブジェクトタイプと、および可能ならオブジェクトの言語バージョンを識別することにより所定タイプの新しいオブジェクトを作成しうる。次いでオブジェクトタイプ識別子と言語コードとがオブジェクトプロトタイプテーブル258で対応するオブジェクトプロトタイプエントリ800を探しキーとして用いられ、対応するプロトタイプオブジェクトを含むファイルの名前がオブジェクトプロトタイプエントリ800から読みとられる。次いでファイルコードユーティリティを呼び出すためにプロトタイプファイル名が使用され、前記ユーティリティの方はプロトタイプの新しいコピイを作る。新しいオブジェクトに対するエントリが次いでオブジェクトテーブルにおいて作成される。

ユーザは次いで、そのオブジェクトタイプのオ

(34)

ブジェクトマネージャを呼び出し、そのオブジェクトに対してオペレートするかあるいはそのオブジェクトタイプのプロファイルエディタを呼び出し、必要に応じ、あるいは希望に応じ新しく作成されたオブジェクトをカストマイズできる。もしユーザが新しいオブジェクトタイプの作成を希望していたとすれば、ユーザは適当なプロファイルエディタを用いて必要に応じ、あるいは希望に応じ新しく作成されたオブジェクトのプロファイルをカストマイズし、あるいはプロトタイプで所望されているデータを入力しうる。次いで、ユーザはユーティリティを呼び出して新しいオブジェクトタイプに対応する新しいオブジェクトプロトタイプエントリ800を作成し、かつこの新しいオブジェクトプロトタイプエントリ800をオブジェクトプロトタイプテーブル258に位置させる。次いで、ユーザは新しいタイプの新しいオブジェクトを前述のオペレーションを介して意のままに作成しうる。

12. オブジェクトカタログ(第5図、第6図および第7図)

第5図を参照すれば、オブジェクトカタログ252の構造と構成とが示されている。オブジェクトカタログ252はオブジェクトテーブル260、リンクテーブル262およびファイルリストテーブル264とを含むものとして示されている。これらはオブジェクトと、オブジェクトへのリンクについての情報を含む。

第6図を参照すれば、オブジェクトテーブル260は1個以上のオブジェクトレコード360から構成されている。オブジェクトカタログ252に含まれた各オブジェクトに対して1個のオブジェクトレコード360がある。各オブジェクトレコード360は、オブジェクト識別子362、オブジェクトタイプコード364およびオブジェクト位置の指示366とを含む複数のフィールドに構成された情報を含む。

第7図を参照すれば、リンクテーブル262は1個以上のリンクレコード370から構成されている。オブジェクトテーブル260でカタログ化されたオブジェクトへ、あるいはそこからの各リンクに対

-181-

-182-

して1個のリンクレコード370がある。各リンクレコード370は、親のオブジェクト識別子372、リンク識別子374、子供のオブジェクト識別子376、リンクタイプコード378、データリンクフラッグ380およびコピイフラッグ382とを含む複数のフィールドに構成された情報を含む。また、子供のオブジェクトの現在の位置もリンクテーブル262に記憶しうる。

コピイフラッグフィールド382は親のオブジェクトの識別子372によって識別されたオブジェクトをコピイするために使用される。親のオブジェクト400のコピイが作られると、リンクを親のオブジェクトと共にコピイするか、あるいは子供のオブジェクト識別子376により識別されたオブジェクトのリンクされたデータをコピイする必要がある。リンクまたは、リンクにより参照されるデータがコピイされるか否かはコピイフラッグフィールド382の状態によって決まる。

本発明のシステムにおいて、採用された規則は、もしリンクされたオブジェクトが親のオブジェク

トの内部から作成されたとすれば、子供のオブジェクト即ちそこからリンクされたデータはコピーされるか、あるいはリンクがコピーされるということである。例えばもしユーザがチャート(図表)を用い、そのためドキュメントタイプの親のオブジェクト内からの、あるいはその部分としてのチャートタイプの子供のオブジェクトは親のオブジェクトと重複するとすれば、親のオブジェクトのコピーはチャートの新しいコピーを含む。チャートのこのコピーは親のオブジェクトのコピーと同様、原始バージョンと独立して修正しうる。しかしながらもしリンクが以前に存在していた親のオブジェクトと以前存在していた子供のオブジェクトとの間で作成されたとすれば、子供のオブジェクトのリンクされたデータよりもむしろリンクの方がコピーされる。

12.1. カタログサーバプロセス

本発明の好適実施例においては、オブジェクトカタログはホストコンピュータあるいはファイルサーバ(例えば第1A図、第1B図および第1C

(35) 図のそれぞれ170,116または156)に対して実行するカタログサーバ190を用いて実施される。前記ホストコンピュータは中央の大容量メモリ(例えば、172,110,114)を支配する。代案は記憶されたカタログデータへの直接アクセスをカタログからの情報を必要とする(あるいはカタログに情報を追加する)各プロセスが出来るようにさせることである。

カタログサーバを用いることの利点のあるものは以下の通りである。カタログサーバはカタログファイルを常に開放しうるよう連続的に使用されるプロセスであって、カタログサーバの使用によりカタログにアクセスする各々の個別プロセスに対してカタログを開けておく必要性を排除する。同様に、カタログサーバは、さもなければさらに実行が困難となるバッファリングを提供しうる。カタログへのアクセスを必要として個々のプロセス全部が記憶されたカタログデータへの直接アクセスを提供されたとすれば、カタログの効果的な機密性を実行することが困難で、カタログサーバ

を使用することにより機密性を向上させることができる。

13. リンクおよびリンクパラレルファイル(第8図)

前述のように、本システムにおける全ての情報、データおよびプログラムはオブジェクト内に含まれ、オブジェクトの方はリンクを介して相互に関連する。リンクは、「子供」のオブジェクトと称される一方のオブジェクトが「親」のオブジェクトと称される他方のオブジェクトに接続される手段と見做すことができる。各オブジェクトは典型的には少なくとも1個のリンクに対して子供である。例えば、各ユーザは少なくとも1個の一次フォルダオブジェクト即ちフォルダを有し、該フォルダにはユーザが直接あるいは間接的にリンクされる。いずれの数のオブジェクト、あるいはオブジェクトの部分もリンクを介して相互に接続ことができ、リンクの順序および方向は階層的に限定されない。

子供のオブジェクトを親のオブジェクトに結合することの他に、リンクはまた、子供のオブジェクトのデータの全て、あるいは一部を親のオブ

ジェクトに結合するためにも使用しうる。子供のオブジェクトから親のオブジェクトへのデータの結合は、結合されるデータが親のオブジェクトの一部となるのではなく、子供のオブジェクトの一部のままであるという点において一方のオブジェクトから他方のオブジェクトへデータをコピーすることは区別される。後述のように、リンクされたデータは子供のオブジェクト内のみで、子供のオブジェクトタイプに指定したオブジェクトマネージャによってのみ編集しうる。

さて第8図を参照すれば、リンクパラレルファイル288と、子供のオブジェクト404からの(子供のデータ408の)リンクされたデータ407が親のオブジェクト400に結合されている親のオブジェクト400と子供のオブジェクト404との間のリンクとが示されている。第8図に示され、かつ以下説明するリンク構造とリンクパラレルファイル288とはまた、リンクパラレルファイルが含まれていないことおよび子供のオブジェクトに何らリンクされたデータの無いことを除いて(例えばオブジェ

クトをフォルダタイプオブジェクトに結合する場合)非データリンクのリンクにも適用されることに注目すべきである。

第8図に示すように、リンクの主要エレメントとしては、親のデータ402を含む親のオブジェクト、子供のデータ408を含む子供のオブジェクト404および少なくとも1個のリンクパラレルファイルのエントリ408を含むリンクパラレルファイル286とを含む。

親のオブジェクト400にリンクすべき子供のデータ408の部分はリンクされたデータ407として子供のデータ406において示され、このリンクされたデータ407が親のデータ402にリンクすべき位置は親のオブジェクト400におけるリンクマーカ420の1つであるリンクマーカ420aによって示されている。

まず親のオブジェクト400、特に前述のリンクマーカ420aを参照すれば、各リンクマスターは対応する他のオブジェクト、あるいは別のオブジェクトのデータがそこを通じて例えば親のオブジェク

(36) ト400のような親のオブジェクトにリンクされる関連リンクへの基準である。各リンクマーカは、親オブジェクト内の対応するリンクを独特の方法で識別するリンクIDを含む。さらに、各リンクマーカは、リンクされた子供のオブジェクトあるいは子供のオブジェクトからのリンクされたデータが「現われる」親オブジェクトでの個所をマークする。

親オブジェクト400のリンクパラレルファイル286は親オブジェクト400にはめ込まれた各データリンク用のリンクパラレルファイルエントリ408を含む。これらリンクパラレルファイルエントリ408の各々は、親オブジェクト400に現われるべき子供オブジェクトのデータを識別する情報を含む。

リンクプロファイルフィールド422はリンクとリンクされたデータの状態に関するある基本的情報を提供する。特に、リンクプロファイルフィールド422は、フィールドの更新状態、ディスプレイモードおよびディスプレイ状態とを含む、親オブジェクト400におけるリンクとリンクされたデータと

の外観と作用とに関する情報を含む。

更新状態フィールドの値は、いつ対応するリンク286が更新されるか、即ち子供オブジェクト404の新しい現在のコピー並びに子供オブジェクト404からのリンクされたデータが取得され、親オブジェクト400に提供されるかを決める。リンクのこの更新は自動的に、即ちユーザが何ら干渉することなく行われ、ある事象が発生すると、即ちユーザがリクエストしたときのみマニュアルとなるか、あるいはそれらの組合せとなる。

自動更新に対して更新状態フィールドが設定されると、親オブジェクト400のオブジェクトマネージャは、親オブジェクトのオブジェクトマネージャが決めるときに、子供オブジェクト404のコピーである子供オブジェクトのデータを自動的に取得し、一時的に記憶させることができる。このことは例えば、リンクされたデータ407を表示あるいはプリントする等、あるいは親オブジェクト400が開始する等、即ち親オブジェクト400に対するオペレーションの開始時に発生する。また、本

システムはダイナミック更新即ち、子供オブジェクト404に対するオペレーションにより更新が開始され、そのため子供オブジェクト404における変化が、子供オブジェクト404が変ると親オブジェクト400に自動的に現われる。しかしながら、マニュアル更新にマニュアル状態フィールドが設定されると、リンクはユーザにより特別のリクエストあるいは指令のときのみ更新される。

ディスプレイモードフィールドはセット可能のフィールドを含み、該フィールドは対応するリンクを親のオブジェクト400で表示する様様を選択できるようにする。オブジェクトのタイトル、オブジェクトのタイプを示すアイコン、子供オブジェクトのデータを示すことにより、あるいはこれらをいずれか組合せることによりリンクを示すことができる。

ディスプレイ状態フィールドをセッティングすることにより、親オブジェクト400でデータ用にとったおいた領域が例えばCRTディスプレイのような可視表示でユーザに見えると、下記するリ

・ ンク仕様に含まれているデータが自動的に表示されるか否かを示す。ディスプレイ状態フィールドが「自動ディスプレイ」にセットされると、リンクされた子供オブジェクト404のデータが、親オブジェクト400の領域がユーザに見えてくると常に表示される。ディスプレイ状態フィールドが「オン・コマンド(指令)ディスプレイ」にセットされると、リンクされた子供オブジェクト404のデータが、ユーザによるディスプレイに対する特別の指令が出るとときのみディスプレイされる。もしユーザが「オン・コマンド・ディスプレイ」モードにある間にリンクされたデータをディスプレイせよとの指令を出さないとすれば、リンクは例えばリンクされた子供オブジェクト404のデータにとつておいた領域の外形と、例えばアイコンあるいはリンクのタイトルのようなリンクされた領域の短い指示とにより表示される。ディスプレイ状態フィールドのセッティングと作用とは、もしディスプレイモードフィールドがリンクされたデータを表示しないよう、即ちリンクをタイトルあるいは

-143-

いずれの子供オブジェクトのデータが親オブジェクト400にどのような形態で提供されるか検出するため子供オブジェクトのオブジェクトマネージャにより用いられる。この目的に対して、リンク仕様フィールド438に常駐する情報が、前述のようにリンクが更新される毎にAPPACK218更新ルーチンにより子供オブジェクトのオブジェクトマネージャに戻される。子供オブジェクトのオブジェクトマネージャが次いでこの情報を解釈して、リンク仕様によりどの子供オブジェクト404のデータが示されるか、どのような形態でリンクされたデータが親オブジェクト400に提供されるか検出し、かつ期待した形態でリンクされたデータを親オブジェクト400へ提供する。

リンク仕様フィールド438を参照すれば、これはそれぞれヘッダフィールドとリンク仕様情報フィールドと称される2ブロックのフィールドから構成されている。ヘッダフィールドは主として子供オブジェクト404の記述する情報を含み、一方リンク仕様情報フィールドは子供オブジェクトのリ

(37) はアイコン、あるいはタイトルとアイコンの組合せによってのみ表示するようセットされると適用できないことに注目すべきである。

リンク仕様フィールド438は、リンクプロファイルフィールド422で述べたように親オブジェクトのリンクの表示と作用よりもむしろ子供オブジェクト404からのリンクされたデータを記述する情報を含む。

リンク仕様フィールド422に含まれた情報は、子供オブジェクト404からのリンクされたデータ(リンクされたデータ407)が親オブジェクトで表示され、かつ使用される順序を決めるために、親オブジェクト400のオブジェクトマネージャでなく、むしろ親オブジェクトにより使用される。対照的に、以下説明するように、リンク仕様フィールド438の情報がリンクパラレルファイルのエントリ408で提供され、そのため親オブジェクト400と関連するが、その中の情報は親オブジェクトのオブジェクトマネージャにより使用されない。その代りに、リンク仕様フィールド438の情報は、

-144-

リンクされたデータを記述する情報を含む。

第6図に示すように、まずヘッダフィールドを参照すれば、該ヘッダフィールドはバージョンのフィールドと、長さのフィールドと、および交換タイプのフィールドとを含む。バージョンフィールドは元々リンク仕様を作成した子供のオブジェクトマネージャの特定バージョンを識別する。長さのフィールドはリンク仕様データの長さを指示する。交換タイプフィールドは子供オブジェクトから親オブジェクトまで、リンクされたデータをやりとりする上で使用すべきデータ交換フォーマットを示す。

交換タイプフィールドに関して、オブジェクトの各タイプは異なるタイプあるいは異なるデータのフォーマットを有することがある。したがって、リンクの子供オブジェクト404と親オブジェクト400とは異なる形態のデータを有することが可能である。例えば、ピクチャ、チャートあるいは図面のようなピクチャあるいはグラフィック(図形)データはグラフィックタイプの子供のオブジェク

-145-

-247-

-146-

トからドキュメントタイプの親のオブジェクトへリンクできる。多くの場合、リンクされたデータは親オブジェクトにおけるものと同じタイプのものでよく、あるいはデータが子供データタイプから、情報を僅か、あるいは全く喪失することなく親のデータタイプまで部分的あるいは完全に交換しうるに十分類似でよい。しかしながら、その他の場合、リンクされたデータは、親オブジェクトで直接使用可能なタイプに容易には交換しえない。

オブジェクトの間でのデータの交換は、原始オブジェクト即ち子供オブジェクトのデータのタイプと宛て先の、即ち親のオブジェクトのデータのタイプとによって左右される。もしデータタイプが同一あるいは十分近似であるならば、データは直接交換され、データをほとんど、あるいは全く交換せず、即ち情報をほとんど、あるいは全く喪失することなく宛て先オブジェクトにおいて直接使用することができる。しかしながら、もしデータタイプが十分異なっているとすれば交換は困難であり、あるいはデータは宛て先オブジェクトに

-147-

に含まれた子供データ408の部分と識別するデータ識別フィールドとを指示することにより子供データ408でのリンクされたデータ407の位置を指示する位置フィールドを含む。

子供データ408は、リンクされたデータ407が親オブジェクト400にリンクされた後で収集、あるいは変更または修正が可能であり、かつ子供オブジェクト404の変更はリンクされたデータ407の位置や識別に影響を与えることを注目すべきである。したがって、リンクされたデータ407の位置や識別が指示される這樣、即ち位置フィールドやデータ識別フィールドに位置すべく選択した情報のタイプは出来るだけ子供データ408に対する変更に敏感でないことが必要である。リンクされたデータ407が位置され、かつ識別される這樣はリンクされたデータ407あるいはリンクされたデータ407を囲む子供のデータ406がリンク仕様を無効にすることなく変化できるようにするか、あるいは子供オブジェクト408のオブジェクトマネージャが変更のなされた後リンクされたデータ407の位

(38) おいて直接即ち宛て先オブジェクトのデータの一部として使用することができない。この場合、ある程度情報損失があり、かつ後述するように原始オブジェクトのデータは出来るだけ良く、宛て先オブジェクトのデータに「はめ込む」必要がある。

オブジェクト間のデータ交換は「マッチメーカー」と称するAPPACKファシリティの援助を得て達成することができる。マッチメーカーはデータ交換オペレーションの2箇所の終りに関連した2個のオブジェクトマネージャが相互に識別し合い、かつ共通のデータ交換フォーマットを識別しやすくさせるために使用される。

さて、リンク仕様情報フィールドを参照すれば、これらのフィールドは前述のように子供オブジェクト404からリンクすべきデータを記載している。リンク情報フィールドの特定の構造はオブジェクトのタイプによって左右される。一方のフォーマットにおいて、リンク情報フィールドは、例えば子供データ408におけるリンクされたデータ407の始めを指示し、かつリンクされたデータ407内

-148-

置や識別の再設定できるようにさせる。例えば、位置フィールドとデータ識別フィールドとに記憶されている情報は、子供データ408の領域に対するリンクされたデータ407の識別された領域を位置づけることができる。さらに、データ識別はリンクされたデータ407でのカーソルの初期位置を含むことを注目すべきである。

最後に、リンクパラレルファイルのエントリ408の最後のフィールドを参照すれば、リンクパラレルファイルエントリ408はリンクされたデータのコピィフィールド458を含むことが示されている。前述のように、子供オブジェクト404からのリンクされたデータは、アイコン、タイトルあるいはリンクされたデータ自体、あるいはこれらのいずれかの組合せにより親オブジェクト400においてユーザーに表示される。リンクされたデータコピィのフィールド458は、リンクされたデータがアイコンあるいはタイトルとの組合せ如何を問わずデータ自体により可視表示される場合に、子供オブジェクト404からのリンクされたデータのコピ

イを記す手段である。リンクされたデータがユーザに可視表示される際表示されるのはリンクされたデータコピイのフィールド458に記憶されたりリンクされたデータのコピイである。リンクされたコピイがアイコンあるいはタイトルのみにより表示されると、リンクされたデータコピイのフィールド458は何らデータを含む必要はない。

リンクが形成され、リンクが更新される毎にリンクされたデータの新しい現在のコピイが子供のオブジェクト404から受取られ、リンクされたデータコピイのフィールド458に記憶される。

第8図にはまた、リンクテーブル262とオブジェクトテーブル260とのリンクに対する役割も示されている。リンクマーク420aと親オブジェクト400のIDとがリンクテーブル262のエントリを探すために使用される。このエントリは、子供オブジェクト404に対応するオブジェクトテーブルにおけるエントリを探すために使用する子供識別情報を含む。オブジェクトテーブル260におけるこのエントリは子供オブジェクト404を探すために使用

-151-

より共用オペレーションは本システムのユーザにとっては、原始オブジェクトからのデータのコピイが各オペレーションにおいて完て先オブジェクトに現われる点で基本的に類似に見えるであろう。コピイと移動オペレーションは、原始データのコピイが完て先オブジェクト「内に位置され」かつ下記するある例外内で、完て先オブジェクトの一部となる点で類似である。コピイと移動オペレーションとの主たる相違は、移動オペレーションにおいて、原始データは原始オブジェクトから削除され、一方コピイオペレーションにおいて原始データが原始オブジェクトにおいて不変のまま残る。コピイと移動オペレーションとは以下説明するように、コピイされたデータあるいは移動されたデータが完て先オブジェクトにおいて、該完て先オブジェクトのオブジェクトマネージャがコピイされ、あるいは移動されたデータのタイプに対してオペレート出来る程度まで完て先オブジェクトにおいてオペレートできるという点でさらに類似である。

一方のオブジェクトから別のオブジェクトへの

(39) する情報を含む。

14. コピイ、移動および共用

本発明によるシステムにおいて実施可能のコピイ、移動および共用オペレーションについての以下の説明は、先に説明してきたこれらオペレーションの局面を要約し、さらにこれらオペレーションの別の局面を説明するものである。前記オペレーションについての以下の説明は、種々オブジェクトの間でのコピイ、移動および共用オペレーションに特に關するものであることを注目すべきである。これらのオペレーションは單一のオブジェクト内で実施可能であるが、共用オペレーションを除いて、あるオブジェクト内でオペレーションが実施される正確な方法と手段とは、同連のオブジェクトマネージャにより決定される。しかしながら、オブジェクト内のデータの共用は、全てのオブジェクトマネージャがオブジェクト間の共用をサポートする訳ではないが、オブジェクト間の共用と同じ要領で、かつ同じ手段により実行される。

本発明によるシステムにおけるコピイ、移動お

-152-

データの共用は、共用されたデータが他のオブジェクトの一部となるのでなく子供オブジェクトの一部として留まるという点で一方のオブジェクトから別のオブジェクトへのデータのコピイや移動とは區別される。共用されたデータはリンクにより親のオブジェクトで利用可能とされる。共用されたデータは子供オブジェクト内でのみ、かつ子供オブジェクトタイプに指定されたオブジェクトマネージャのみによって編集可能である。

共用は、リンクが「更新」されうるためデータのコピイあるいは移動とさらに區別される。コピイあるいは移動オペレーションに対してそのような進行中のキャラクタはない。共用オペレーションから生じるデータは後のリンク更新オペレーションにより変化しうる。完て先オブジェクトをオペレートする毎、例えば開放したり、表示したり、編集したり、あるいはプリントする毎に更新するようリンクをセットしうる。あるいは原始オブジェクトが修正されれば常に更新するようリンクをセットしてもよい。あるいは、リンクはマニュ

アルで更新するようセットしてもよく、この場合共用されたデータは更新が特にリクエストされるまで効果的に「凍結」される。

コピーと移動とは、コピーあるいは移動されたデータを含む宛て先オブジェクトの部分に対してコピーあるいは移動オペレーションが実行されると、宛て先オブジェクトに常駐しているコピーあるいは移動されたデータが処理されるという点において共用とさらに相違する。即ち、コピーあるいは移動されたデータはデータタイプに関し以下さらに説明する度度内で宛て先オブジェクトの一部として処理され、宛て先オブジェクトにおける他の原始部分と同じ要領でコピーあるいは移動する。この点に関して、データ交換に関し前述したように、データ交換フォーマットはデータ交換のデータ流れの間データタイプを変えるための配備はしてあることに注目すべきである。即ち、宛て先オブジェクトのそれとは異なるタイプの先にコピーあるいは移動したデータは、コピーあるいは移動されつつある宛て先オブジェクトの部分に

-155-

クされたデータは宛て先オブジェクトのオブジェクトマネージャによりオペレートはされえぬが、原始オブジェクトマネージャにより原始オブジェクトにおいてオペレートされねばならない。

別のオブジェクトからリンクされたデータを含むオブジェクトの一部をコピーあるいは移動させるべき場合、リンクされたデータあるいは実際のリンクされたデータへのリンクがコピーあるいは移動されるか否かは、リンクをはめ込んだオブジェクトがどのようにして作成されたかにより決定される。本発明によるシステムにおいては、採用された規則は、もし原始オブジェクトが別のオブジェクト内から作成された場合、リンクされたデータはコピーされるということである。例えば、もしユーザがドキュメントタイプのオブジェクトのドキュメント内から、かつその一部としてチャートを、したがってチャートタイプの原始オブジェクトを作成し、次いでドキュメントオブジェクトあるいはリンクされたチャートタイプデータを含むドキュメントオブジェクトの部分を複製し

(40) はめ込まれているのが判る。そのような場合に前述のように本発明のシステムにおけるデータストリームの転送に採用した規則では、マッチメーカー810のオペレーションにより定義されるデータストリーム用の初期交換タイプあるいはデータフォーマットがあることである。別のデータタイプが例えばリンクマーカあるいはリンクされたデータのようなストリームへ挿入されるとすれば、データタイプの変更と新しいフォーマットなどを示す指示コードが前記ストリームの中へ挿入され、適当なデータフォーマットの交換により呼び出しを促進し、データ転送/変換ルーチン808を新しいデータタイプに切り換える。例えば、データストリームの挿入された部分の終りにおいてデータタイプが再び変わると同じオペレーションが用いられ、交換フォーマットは原始データタイプに戻る。

対照的に、リンクは効果的にデータのコピーを原始オブジェクトから宛て先オブジェクトまで転送するが、リンクされたデータは実際には宛て先オブジェクトの一部部分ではない。例えば、リン

-156-

ドキュメントオブジェクトのこの部分をコピーしたとすれば、ドキュメントオブジェクトのそのコピーはチャートの新しいコピーへのリンクを含む。このチャートのコピーは、ドキュメントのオブジェクトのコピーと同様原始バージョンとは独立して修正できる。しかしながら、もしリンクが先に存在していたドキュメントオブジェクトと先に存在していたチャートオブジェクトの間で作成されたとすれば、リンクされたデータよりもむしろリンクがコピーされ、その結果第1のドキュメントと同じチャートオブジェクトのリンクを備えたドキュメントのコピーを作ることになる(即ち、前記チャートに対する変更が双方のドキュメントに現われることになる)。

原始データが宛て先データと類似かあるいは同一の場合、直接あるいは交換後、コピーされ、移動され、あるいは共用された原始データは宛て先データに「混入されるか」あるいは「はめ込まれる」ようになる。コピーあるいは移動されたデータの場合、コピーあるいは移動されたデータは宛て先

-157-

-250-

-158-

オブジェクトマネージャにより編集可能である。しかしながら、共用されたデータの場合、かつ共用されたデータがコピー、移動あるいは削除される場合、該データは原始オブジェクトにおいてのみ、かつ原始オブジェクトのオブジェクトマネージャによってのみ編集可能である。宛て先オブジェクトのオブジェクトマネージャは共用されたデータを独自の内部データフォーマットに変換可能であるが、共用されたデータを独自のデータに組み入れることはなく、いずれにしても原始データを編集できず、共用データを「マークし保持する」必要がある。ユーザがデータが編集されつつあるオブジェクトの直接その一部でなく、共用されているのであることに気が付くようデータをユーザに対して可視マークを付けるべきである。「マークされ、保持されている」データの場合、宛て先オブジェクトのリンク平行ファイルのエントリはリンクされたデータのコピーを含む(即ち「保持して」いる)。リンクパラレルファイルにおけるこのコピーは直接編集でき、むしろこのデータはそ

-159-

15. マッチメーカー

15.1. マッチメーカーの目的と全体的作用

2個のオブジェクトの間でデータ転送あるいはリンクを発生させるには、ユーザは原始オブジェクトと宛て先オブジェクト並びに実行すべきオペレーションとを識別する。例えば、ユーザは原始データを選択し、COPYキーを押し、次いで宛て先を指し、PLACEキーを押す。原始とデータとが異なるオブジェクトにある場合、(異なるプロセスでそれぞれ実行している)2個のオブジェクトマネージャが介入させられる。しかしながら、あるプロセスが所有するウインドウの外側でのカーソルの移動はそのプロセスには知られていないので、プロセスはオペレーションの他の半分(例えばCOPYあるいはPLACE)がユーザにより実行されたことも知らない。この問題はマッチメーカーにより解決される。

アプリケーションマネージャは、各々の潜在的なオペレーションに対して2側面を有するマッチメーカーを保持する。即ち、サーバ側(即ち何かを

(41) こからリンクされている原始オブジェクトを編集することにより編集される。

宛て先オブジェクトマネージャは、コピーあるいは移動オペレーションを首尾よく実行するためにはコピーされ、あるいは移動されたデータを編集できる必要はなく、単に原始データを何らかの方法で宛て先オブジェクトへはめ込めればよい。コピーあるいは移動したデータを「密閉化」でき、その場合データは適当なタイプの個別のオブジェクトに記憶され、該オブジェクトへのリンクは、コピーあるいは移動オペレーションの終りにあるオブジェクトにはめ込まれる。

共用オペレーションにおいては、宛て先オブジェクトマネージャは共用オペレーションを定義することにより何らかの方法で原始データを編集し、共用されたデータを「マークし保持する」必要がある。共用されたデータはコピー、移動あるいは削除しうるが、一方編集できるのは原始オブジェクトにおいてのみ、かつ原始オブジェクトのオブジェクトマネージャによってのみである。

-160-

有する側)とコンシューマ側(即ち何かを欲している側)である。データ交換オペレーションに対しでは、サーバ側(例えば、COPY、MOVE、SHARE)を通知する。オブジェクトマネージャはデータ交換フォーマットが提供するものを列挙する。コンシューマ側(例えばPLACE)を通知するオブジェクトマネージャはそれが受け入れるデータ交換フォーマットを列挙する。

一旦COPY、MOVE、またはSHAREが通知されると、PLACEが通知されるまで、それ以外のCOPY、MOVEまたはSHAREは受け入れられない。COPY、MOVEまたはSHAREが何ら通知されおらず、PLACEが通知されたとすれば、COPY、MOVEまたはSHAREが受け入れられるまで、(あるいは通知したオペレーションを担当するオブジェクトマネージャがオペレーションを停止するまで、)それ以上のPLACEは通知されない。

その他の明白に区別のつくオペレーションのが定義されるとすれば、これらオペレーションのマッチメーカーの半分が同時に通知され、満足のい

く半分が呼び出されると突き合わせ(マッチ(*match*))が行われる。

マッチングが行われ、(オペレーションのマッチングした側が通知されると)APPACKマッチメッセージがサーバとコンシューマの双方へ送られる。次いで各々がAPm_connect()を呼び出し相互に通信し、直接データを交換するに必要な情報を取得する。次いで、アプリケーションマネージャがマッチメーカーをクリヤし、最初のマッチから発生したデータ交換が進んでいる個別のマッチを受け入れる。

15.2. マッチメーカープロトコル

15.2.1. 亂数プロトコル

オブジェクトマネージャがCOPY、MOVEあるいはSHAREイベントを受けとると、オブジェクトマネージャは次のステップをとる。

(a) オペレーションを通知する。

- APm_reserve()を呼び出し、同じタイプのオペレーションがすでに進行しているか検出する。もしその通りであれば、エラーメッセージを

-169-

いる)、(「何処へ?」)"To where?"の処理をスキップして)オペレーションを開始する。

- もしAPm_post()がまだマッチのなされていないことを示せば、「何処へ?」の処理を行う。

(b) 定て先を決める(「何処へ?」)

- 「何処へ?」を表示する。

- もしPLACE事象が(このオブジェクトマネージャにより)受け取られるとすれば、オペレーションは内部的(即ち单一のオブジェクト内の一方の場所から他の場所)である。APm_clear()を呼び出しマッチメーカーをクリヤにしオペレーションを進行させる。

- もしWATCH事象がマッチメーカーから受け取られるとすれば(以下のように)オペレーションの処理を開始する。

(c) オペレーションの処理を開始

- APm_connect()を呼び出し他のオブジェクトマネージャへ接続する。一旦双方のオブジェクトマネージャがAPm_connect()を呼び出せば、オペレーションへのマッチメーカーの介入が終る。

-165-

(42) 表示し、通常の処理に戻る。

- データを選択するに必要なユーザとのどんな対話でも行う。しかしながら、もしオペレーションがSHAREであり、APm_reserve()を呼び出して他の側が通知されリンクデータを必要としないことを示せば(即ち、SHAREは全体としてオブジェクトへのリンクを作ることであって、オブジェクトのいずれかのデータへのリンクを作成するのではない)、ユーザはデータ選定を急がされるべきでない。

- 情報損失の増える順序で、供給しうる交換フォーマットのリストでAPm_post()を呼び出す。

- もしAPm_post()がマッチは不可能であることを示すとすれば(例えば、共通のフォーマットが無く、定て先はリンクをサポートせず密閉化をさらに不可能とする)、適当なエラーメッセージを表示し、APm_clear()を呼び出し、通常の処理に戻る。

- もしAPm_post()がマッチの行われることを示すとすれば(即ち、PLACEがすでに通知されて

-164-

- 他のオブジェクトマネージャからのリクエストを待機するそのリクエストはリンク、特別の交換フォーマットでのデータあるいは密閉化用かもしれない。

- リンクに対してはリンク仕様を構成し、次いでAPPACKリンク交換ルートを用いてリンク仕様を送る。

- データに対しては、適当なAPPACKあるいは他のデータ交換ルーチンを呼び出し(リクエストされた交換フォーマットに応じて)データを送る

- 密閉化に対しては、

- APm_copy()を呼び出してオブジェクト全体をコピイするかAPm_create()を呼び出して(プロトタイプのコピイを作成し)、かつ(オペレーションにより指示されて)選択したデータを新しく作成されたオブジェクトへ移動あるいはコピイさせる。(オブジェクトのタイプによって、たとえ一部のみをリンクすべきとしても、コピイに全体オブジェクトを含めることが必要かもしれない)

-252-

-168-

いことに注目のこと)。

* リンク仕様を新しいオブジェクトの複数したデータに構成し(新しいオブジェクトにおける全てのデータをリンクするとしても必要)、次いでAPPACKリンク交換ルーチンを用いてリンク仕様を送る。

(d) オペレーションを停止する

- もしオペレーションがcopyまたはSHAREであれば、APopfinish()を呼び出しオペレーションを停止する。(SHAREまたはcopyに対するUNDO(取り消し)オペレーションはコンシューマの介入を必要とせず、したがって通信はもはや必要でなくなる)。

- もしオペレーションがMOVEの場合、オブジェクトマネージャは下記の発生までオペレーションを翻訳させておくこと。

* ユーザがMOVEの可能なUNDOを上回るオペレーションを実行する。この場合、オブジェクトマネージャはAPopfinish()を呼び出しオペレーションを停止し、コンシューマに対して取り消し

-167-

- もしAPpost()がマッチが不可能なこと(例えば共通のフォーマットがない)を示せば、適当なエラーメッセージを表示し、APnuclear()を呼び出し、通常の処理へ戻る。

- もしAPpost()が、マッチのあること(即ち、COPY、MOVEまたはSHAREオペレーションがすでに通知されている)を示せば、("PLACE WHAT?" "処理を飛ばして)オペレーションの処理を開始する。

- もしAPpost()がマッチが未だ無いことを示せば、"PLACE WHAT?"の処理を行う。

(b) データ選定を待機("PLACE WHAT?")

- "PLACE WHAT?"を直ちに表示する。

- もしCOPY、MOVE、またはSHAREオペレーションが(このオブジェクトマネージャにより)受け取られたならば、その場合オペレーションは内部的(即ち單一のオブジェクト内での一方の場所から他の場所まで)である。APnuclear()を呼び出しマッチメーカーをクリヤし、オペレーションを進める。

-169-

(43) はもはや不可能となることを通知する。

* ユーザがオペレーションのUNDOを要求する。この場合、オブジェクトマネージャはコンシューマと通信して運動したデータを検索し、MOVEオペレーションを反転する。

マッチの起る前にCANCEL事象が受けとられた場合、APnuclear()を呼び出しマッチメーカーをクリヤし、通常の処理に戻る。

15.2.2. 場所プロトコル

オブジェクトマネージャがPLACE事象を受け取ると、オブジェクトマネージャは次のステップを踏む。

(a) オペレーションを通知する。

- APnreserve()を呼び出して同じタイプのオペレーションがすでに進行中であるか検出する。そうであれば、エラーメッセージを表示し、通常の処理に戻る。

- APnpost()を、情報損失の大きい順の、受け入れられる交換フォーマットのリストで呼び出す。

-168-

- もしHATCH事象がマッチメーカーから受け取られると、(以下のように)オペレーションの処理を開始する。

(c) オペレーション処理の開始

- APnconnect()を呼び出し他のオブジェクトマネージャへの接続を行う。一旦双方のオブジェクトマネージャがAPnconnect()を呼び出すと、そのオペレーションへのマッチメーカーの介入は終了する。

- 原始オブジェクトマネージャに、リンク、特別の交換フォーマットでのデータあるいは密閉化のリクエストを出す。

- リクエストが確認された後、APPACKの1つあるいは他のタイプのデータ交換専用サービスを用いて交換を進行する。

- もしリクエストがマルチ(多量)オブジェクト転送(APDATANBLTIPLE)のためのものであるとすれば、以下の余分のステップが必要とされる。

* APnreserve()を呼び出しマルチオブジェクト転送用にマッチメーカーを予する。

-253-

-170-

15.2.3. オブジェクト間のMOVEオペレーション

の後のUNDOの処理

* APPACKのマルチ交換サービスを用いて、オブジェクトの開始されたリストを通してループ化し、各々とインタラクションしてその中味を探査する。

(d) オペレーションを終了する

- オペレーションがCOPYまたはSHAREであれば、APopfinish()を呼び出してオペレーションを終了させる。

- もしオペレーションがMOVEであれば、オブジェクトマネージャは下記の発生するまでオペレーションを繼續させるべきである。

* ユーザが、MOVEの可能性のあるUNDOを上廻るオペレーションを実行する。この場合、オブジェクトマネージャはAPopfinish()を呼び出してオペレーションを終了させ、コンシューマに取り消しがもはや可能でない旨通知する。

* ユーザがオペレーションのUNDOをリクエストする。この場合、オブジェクトマネージャはコンシューマと連絡して移動したデータを検索してMOVEオペレーションを反転させる。

-171-

- もしオペレーション終了メッセージが受け取られるとすれば、次にAPopfinish()を呼び出す。MOVEの一方の側のみが取り消ししうる。もしMOVEが却えられる前にUNDO事象が後で受け取られるとすれば、ユーザは、MOVEの半分のみが取り消されうることを警告され、確認を促がされる。

16. データ交換(第9回)

データ交換に関する以下の説明において説明するように、オブジェクト間のデータの交換は原始オブジェクトおよび宛て先オブジェクトにおけるデータのタイプによって左右される。もしデータタイプが同一か、十分近似しているとすれば、データをほとんどあるいは全く交換することなく、かつ情報をほとんどあるいは全く損失することなく直接交換され、かつ宛て先において直接用いることができる。しかしながら、もしデータタイプが十分相違しているとすれば、交換は困難であり、また、データを宛て先オブジェクトで直接使用できない、即ち宛て先オブジェクトのデータの一部部分として使用できなくなる。この場合、情報に

オブジェクト間のMOVEオペレーションを取り消すために、原始および宛て先の双方のオブジェクトマネージャはUNDOがリクエストされるか、オペレーションが(例えば別のオペレーションにより却えられて)もはや反転できなくなるまでオペレーションを繼續させておく必要がある。オブジェクト間の(外部の)MOVEが依然として作用している間オブジェクトマネージャは以下のことを行う。

- もしUNDO事象がユーザから受け取られると、他のオブジェクトマネージャにMOVEUNDOリクエストを送りMOVEの反転に進行する。

- もしMOVEUNDOメッセージが他のオブジェクトマネージャから受け取られると、MOVEを反転するよう進行する。

- もしユーザが外部のMOVEを、現在反転可能なオペレーションとして上廻るオペレーションを実行するとすれば、APopfinish()を呼び出してオペレーションを終了する。

-172-

若干の損失があり、後述するように原始オブジェクトのデータは出来るだけ上手く宛て先オブジェクトのデータに「はめ込む」必要がある。

オブジェクト間のデータ交換は「マッチメーカー」と称されるAPPACK装置により促進することができる。マッチメーカーは2個のオブジェクトマネージャが、それらがデータ交換オペレーションの終りをマッチングさせていることを検出できるようにする。原始および宛て先オブジェクトマネージャとマッチメーカーとのインタラクション(対話)の一部として、これらのオブジェクトマネージャはマッチメーカーに対して、オブジェクトがデータを提供し、かつ受け入れうるフォーマット即ち形式を示す。これらのフォーマットと形式とはオブジェクトの元のデータタイプを含みうる。各オブジェクトに対するオブジェクトマネージャはまた、ある種のデータ交換を行う能力を有し、したがって、それらの元のフォーマット以外のフォーマットや形式でデータの提供あるいは受け取りができる。交換用データフォーマットは原始および宛て先オ

プロジェクトマネージャとマッチメーカーとの間の対話により合意され、交換は、どのようなデータ交換がいずれかのオブジェクトで必要とされようとも合意したフォーマットにより実行される。

リンクを介するデータ交換において、子供のオブジェクトのデータを提供すべきデータタイプは、特定のリンクに対する後でのデータ交換において子供オブジェクト404が後で使用するようリンクのリンクパラレルファイルエントリ404の交換タイプフィールドにおいて記録される。マッチメーカーは最初にリンクを作成する共用オペレーションには介入しうるもの、リンク更新オペレーションでは介入しない。

第9図を参照すれば、データが原始オブジェクトから宛て先オブジェクトまで移動され、コピイされ、あるいは共用される、APPACK218のデータ交換が総図表示されている。原始ユーザオブジェクト232-sと関連のオブジェクトマネージャプログラム240-s、宛て先ユーザオブジェクト232-dとその関連のオブジェクト/マネージャプログラム

-175-

804-d、フォーマットテーブル806-dおよびデータ転送/変換ルーチン808-dを含む。

さて、データ交換オペレーションを検討すると、前述の説明ではデータ交換はデータのコピイおよび移動オペレーション並びにデータ共用に使用できることであった。前記オペレーションの全ては多くの点において類似していることにまず注目すべきである。コピイ、移動および共用オペレーションに関する以下の説明でさらに詳しく説明するが、これらオペレーション間の主なる差は、それらオペレーションが開始される順序と、データがオペレーション後送される順序とにある。

後者に関しては、3種のオペレーション、即ちコピイ、移動および共用オペレーションの全ては基本的にはコピイオペレーションと見做すことができる。即ち、各オペレーションにおいて、あるデータが識別され、原始オブジェクトからコピイされ、宛て先オブジェクトの識別した位置に置かれる。移動オペレーションとコピイオペレーションの相違点は、原始オブジェクトにおけるデータ

(45) 240-d、およびアプリケーションパック(APPACK)218とが示されている。ユーザオブジェクト232-sは原始データ800を含むものとして示され、該データはコピイされ、移動され、あるいはユーザオブジェクト232-dと共用されるデータであり、一方ユーザオブジェクト232-dは宛て先データ802を含むものとして示され、該データは交換されたデータがユーザオブジェクト232-dで占める場所と交換されたデータ自体の双方を示す。

オブジェクト/マネージャプログラム240-sおよび240-dを参照すれば、これらオブジェクト/マネージャプログラム240の各々はそれらの各々のユーザオブジェクト232にオペレートしているものとして示されている。各オブジェクト/マネージャプログラム240-sの実行可能コードはデータ交換ルーチン804-sを含むモジュール、関連のフォーマットテーブル806-sおよびデータ転送/変換ルーチン808-sを含むモジュールを含むものとして示されている。同様に、オブジェクト/マネージャプログラム240-dはデータ交換ルーチン

-176-

がオペレーションの終りにおいて削除される、即ちデータが原始オブジェクトから宛て先オブジェクトへコピイされ、原始オブジェクトにおけるデータの原コピイが削除されることである。共用オペレーションも、原始オブジェクトからのデータの新しいコピイが作られ、前述のようにリンクが更新される毎に宛て先オブジェクトに位置される点を除いてコピイオペレーションと類似である。

データ交換オペレーションの開始に関して、最初のステップはオペレーションの開始と、データが宛て先オブジェクトにおいて現われる位置の識別と、および原始オブジェクトにおいて交換されるべきデータの識別とである。後述のように、コピイ、移動および共用オペレーションは、通常メニュー・ピックアップあるいはキーボードを介して入力される指令によりシステムのユーザが典型的にはマニュアルで開始させる。次に、原始オブジェクトデータおよびデータの宛て先オブジェクトにおける位置との識別の順序は、ユーザの見方で原始オブジェクトと宛て先オブジェクトとの間

を移動しているオペレーションがオペレーション「から」來「のがオペレーション「へ」向うのかによって変わり、オペレーションの順序(即ち、ユーザがまず原始データを識別できるのか、あるいはユーザがまず宛て先データでの位置を識別できるのか)によって変わる。

さらに、リンクを介するデータ交換もリンク更新の発生時に、即ちマニュアルの更新が選択されていた場合はユーザの指令により、あるいは自動的更新が(共用オペレーションが最初にリンクを作成すると発生する更新に加えて)選択されていたとすればリンクされたデータを含む宛て先オブジェクトの部分のディスプレイあるいはプリントによって開始される。

原始オブジェクトのデータのユーザによる選択と、データが行くべき宛て先オブジェクトでの位置の識別とにに関して、原始および宛て先オブジェクトマネージャが呼び出される。

次いで、本明細書の説明の主眼であるが、原始および宛て先オブジェクトは原始オブジェクトか

(46) ら宛て先オブジェクトへデータを交換する必要がある。第9図に示す本明細では、ユーザの行動(即ち宛て先の位置の識別)がすでに実行されているものと想定する。

データ交換オペレーションの開始時、原始および宛て先オブジェクトのオブジェクトマネージャは、データ交換オペレーションを導き、かつ制御するルーチンのグループからなる各データ交換ルーチン804を呼び出す。データ転送/交換ルーチンモジュール808とそれに関連したフォーマットテーブルとがある。データ転送/交換ルーチン808はオブジェクトとAPPACK218のデータ交換装置812との間でデータを転送する、即ちオブジェクトから、かつオブジェクトへデータを読み取ったり、書き込んだりするための、一群のルーチンから構成されている。また、データ交換装置812は、オブジェクトの元のデータフォーマットとある外部のデータフォーマットとの間でデータを交換するデータ交換ルーチンも含む。フォーマットテーブル806の方は、対応するオブジェクトにより、即ちオブ

ジェクトのオブジェクト/マネージャプログラム240のデータ転送/交換ルーチン808により発生され、かつ受け入れられる全てのデータフォーマットのリスト即ちテーブルを含む。これらのフォーマットは少なくともオブジェクトの元のデータフォーマットを含み、かつある外部のデータフォーマットを含みうる。

各オブジェクトマネージャのデータ交換ルーチン804はマッチメーカー810に対して、データ交換ルーチン804の間連のデータ転送/交換ルーチン808が受け入れ、あるいは提供しうる各種のデータフォーマットを記述した、間連のフォーマットテーブル806からの情報を提供する。これらのフォーマットは好みの順に提供され、マッチメーカー810が交換のための共通のデータフォーマットを選択する。マッチメーカー810は交換のために選択したデータフォーマットをデータ交換ルーチン804へ戻し、次いでデータの転送が行われる。

データ交換における次のステップは原始オブジェクトから宛て先オブジェクトへデータを実際に転

送することである。転送はストリームモードで実行される。即ちバイトが転写オペレーションにより相互に区別されず、データのバイトの基本的に制限のないストリームの形で転写される。即ち、ストリームのバイトに対する重要性が、交換オペレーション自体でなく、交換フォーマットにより規定される。

データストリームの転送を実施するために、各々のデータ転送/交換ルーチン808は、それぞれのユーザオブジェクト282とAPPACK218のデータ交換装置812との間で一連の「GET」および「PUT」オペレーションを実行する。即ちデータ転送/交換ルーチン808は原始データから一連のバイトのデータを「GET(取得)」し即ち読み取り、原始データが原始データ800から「取得」されるにつれて必要なデータ交換オペレーションを実行しながら、集められた原始データのバイトをデータ交換装置812に「PUT(置く)」即ち書き込む。データ転送/交換ルーチン808-dは同時に、データ交換装置812から原始データのバイトを「取得」即ち読み取り、再びデータ

が宛て先データ802へ「置かれる」につれて必要なデータ交換オペレーションを実施して原始データのバイトを宛て先データ802へ「置く」即ち書込む。この点に関して、データ交換装置812は一组のレジスタと、例えばデータ転送/交換ルーチン808-aのような原始データを受け取り、データ転送/交換ルーチン808-dのようにデータを宛て先へ転送するデータチャンネルを含むルーチンとから構成されていることに注目すべきである。

さらに、データ転送/交換ルーチン808のオペレーションが例えばリンクマーカのような各種タイプのはめ込みデータを含めることをサポートすることに注目すべきである。ストリーム転送に採用されている規則は、ストリームに対して初期の交換タイプ即ちデータフォーマットがあることである。例えばリンクマーカあるいはリンクされたデータのような別のデータタイプをストリームに挿入すべき場合、データタイプの変更と新しいフォーマットとを示すインジケータコードがストリームに挿入され、適当なデータ転送/交換ルーチン

-183-

はデータを受け取り、必要に応じて交換フォーマットからのデータを宛て先オブジェクトの内部データフォーマットに変換し、即ちデータを宛て先オブジェクトに内部化し、データを宛て先オブジェクトに置く。さらに、交換に含まれるフォーマットの複雑さ、「リッチさ」および互換性が交換の複雑さあるいは容易さ、およびあるとした場合の情報損失あるいは歪の可能性を規定する。

各オブジェクトマネージャはそれが内部的にオペレートするデータのフォーマットや構造を決めることができる。このため各オブジェクトマネージャの最も強力で効率的な実行性を許容する。オブジェクトマネージャは典型的に内部使用のためのシステム定義のデータフォーマットを使用しない。

いずれか所定の対の内部データフォーマットは異なる属性を有しており、所定の原始データフォーマットと所定の宛て先データフォーマットとの交換フォーマットを選択することにより、情報損失あるいは歪みの可能性も含みデータ交換の速度、

(47) チン808のデータフォーマット変換装置が呼び出されてデータ転送/交換ルーチン808のオペレーションを新しいデータタイプに切り換える。データタイプが例えばデータストリームの挿入された部分の終りにおいて再び変更されると同じオペレーションが用いられ、データ転送/交換ルーチン808は元のデータタイプに戻る。

最後に、前述の説明から、データ交換フォーマットは、リンク用であろうと移動あるいはコピイオペレーション用であろうと、あるいは考えうるいずれからの他のタイプのデータ交換に対してであっても、データ交換のあらゆるタイプに対して最も中心的であることが明らかである。前述のように、一旦2つのオブジェクトマネージャが共通のデータ交換フォーマットについて合意すると、原始オブジェクトマネージャは原始オブジェクトの内部データフォーマットからの原始データを必要に応じ交換フォーマットに変換し、データを交換フォーマットにおける宛て先オブジェクトマネージャへ伝送する。宛て先オブジェクトマネージャ

-184-

効率および正確さに直接影響を与えることが上記の説明から明らかである。データの中味の保持、即ち所定のデータフォーマットの属性を表現あるいは変換する能力はデータ交換を達成する上でシステムのユーザに対して最も重要な要素の1つであり、したがって、データ中味を可能な限り最も高度に保持する交換フォーマット、即ち原始および宛て先の内部データフォーマットの属性を最大限取容しうる交換フォーマットを用いて各データ交換を実行することが重要である。そのため、各オブジェクトマネージャは出来るだけ高レベルの交換フォーマットをサポートし、かつ出来るだけ多くの交換をサポートすべきである。このため、所定の各データ交換に対して最も効率的な交換フォーマットを利用できる確率を増し、かつ所定のオブジェクトマネージャが高レベルでデータ交換しうるオブジェクトマネージャの数と範囲などを増大する。このことによりまた、オブジェクトマネージャ間およびオブジェクトマネージャとシステムとの間の結合の程度を向上させる。

-185-

-257-

-188-

交換フォーマットは3レベルに構成される。交換フォーマットレベルの区別は交換において達成されるデータ中味の保持程度、即ち交換が原始および宛て先の内部データフォーマットの異なる属性のサポートしうる度合いに基いている。3種類のフォーマットレベルはそれぞれデータおよび属性の保持レベルの大きい順に「バニラ」フォーマット、「カテゴリ特定」フォーマット、および「専用」フォーマットと指示されている。

まず「バニラ」データ交換フォーマットを検討する。これらフォーマットは、システムに現われうるデータタイプの全スペクトルの間で、但しデータ交換が過度に複雑にならぬレベルでデータ交換を提供する意図のものである。基本的に「バニラ」フォーマットは、例えばASCIIあるいは2進ファイルのように、システムに現われうる全てのデータタイプの中の最低の共通の特徴を示す一般的なデータ交換フォーマットである。即ち、一般的なフォーマットは種々の内部データフォーマットの実用的な最大量の内部データ属性の最大の共通

-187-

タイプの固有の制限内での最大量のデータの中味や属性の範囲をサポートするよう構成されていることに注目すべきである。この点に関して、一般フォーマットが宛て先オブジェクトが受け入れ可能な以上の情報を含みうることもある。しかしながら、一般フォーマットは、宛て先のオブジェクトマネージャがそれが使用しえない、あるいは解説してないデータ中味の部分は無視して各宛て先オブジェクトが提供されたデータを最大限利用できるように構成されている。

現在定義されているバニラ交換フォーマットの例としては、定義されたレコードフォーマット、未定義のレコードフォーマット、テキストフォーマット、ピクチャフォーマット、リンクフォーマットおよびサウンドフォーマットを含む。これら一般フォーマットの各々を検討すれば、定義されたレコードフォーマットは主として数字あるいはテキストである各種タイプの情報を含みうるフィールドを含む、レコード構造の定義を可能とする。このフォーマットは例えば詳細なデータベース交

(48) セットをサポートする。これらの一般的な交換フォーマットは、2個のオブジェクトマネージャ間に間違のデータが基本的に異なるタイプである場合、即ち内部データフォーマットがそれらの属性において著しい程度の共通性を有さない場合を使用する意図のものである。その例としては、グラフィックタイプのオブジェクトとドキュメントタイプオブジェクトとの間の交換あるいはスプレッドシートあるいはデータベースタイプオブジェクトとドキュメントタイプオブジェクトとの間、あるいはスプレッドシートあるいはデータベースタイプオブジェクトとグラフィックタイプオブジェクトとの間の交換である。

これらの場合において、データの内部表示およびデータのユーザモデルの内部表示は、宛て先のオブジェクトが原始オブジェクトデータ表示の、即ち原始オブジェクトデータの相対的に小さい細部分以上のものは解説あるいは表示しえないため高レベルの交換をしようとも単純には実用に供さない。しかしながら、一般フォーマットはデータ

-188-

交換あるいはスプレッドシートフォーミュラ交換を意図したものでなく、レコード向きのオブジェクトマネージャの間で有意な情報の転送ができるようとしたものである。

未定義のレコードフォーマットは前述の定義したレコードフォーマットの変形であるが、レコード配達子は含まず、そのため各レコードの中味はレコードによって変りうる。この未定義のレコードフォーマットは、あるオブジェクトマネージャが未定義のフォーマットのデータを拒否したいと思うこともあるため定義されたレコードフォーマットとは明確に区別されている。

テキストフォーマットは例えばASCIIストリングフォーマットにおけるようにテキストデータを単純に表示するが、あるテキストの属性情報と単純なフォーマット化情報は含むことができるものである。さらに、テキストフォーマットは例えば定義されたレコードフォーマットあるいは未定義のレコードフォーマットにフィールドの中味として含入できる。

-189-

-258-

-190-

ピクチャフォーマットはオブジェクトマネージャが、グラフィック能力がほとんど無い、あるいは皆無の宛て先オブジェクトにより表示しうる表示可能な「エンティティ」を提供できるようにする意図のものである。テキストオブジェクトにリンクされたグラフィックデータの場合、例えば、グラフィック「エンティティ」はリンクパラレルファイルエントリ408のリンクされたデータコピイ458に記憶され、宛て先テキストオブジェクトにおいてアイコン、あるいはタイトルで表示されることによりテキストオブジェクト自体ではグラフィックデータとして実際には介在しない。次いでグラフィックデータは、グラフィックデータを「含む」テキストオブジェクトの部分を表示すべき場合、表示のために、リンクされたデータコピイ458から読みとられる。このタイプのフォーマットの意図は合理的に完全な可視性中味を有するが、意味あるいはグラフィックデータを編集する能力の無いグラフィック表示性を提供することである。

リンクフォーマットは、リンクのコピイと移動

-191-

め、2個の異なるスプレッドシートは一般フォーマットより差しで大きい中味でデータ交換できるが、それらの内部データフォーマットでは直接データ交換できない。

各カテゴリ特定交換フォーマットは、そのカテゴリ特定交換フォーマットを用いるカテゴリの全てのオブジェクトマネージャに有意なデータと記述情報を含む。この点に関して、カテゴリの定義とは、カテゴリは所定のカテゴリ特定フォーマットにおいてデータを提供、受け取り、あるいは提供と受け取りの双方を行なうことを含意した1つ以上のオブジェクトマネージャからなるグループである。

カテゴリ特定交換フォーマットの可能な数は、基本的には無制限であって、新しいカテゴリ特定交換フォーマットを備えた新しいカテゴリは意のままに作成できる。例えば、もし一般フォーマットより大きい中味のデータを交換することを2個の異なるオブジェクトマネージャが必要あるいは希望することが判明した場合、それらのオブジェ

(49) オペレーションについて前述のように、オブジェクトマネージャがリンクを交換できるようにさせるものである。リンクフォーマットは基本的には、前述のリンク構造を表示する。

サウンド(音響)フォーマットはピクチャフォーマットと類似であるが、グラフィックデータではなく、例えば音声メッセージのようにサウンドデータを交換するためのものである。このフォーマットも、合理的に完全なオーディオの中味を以ってサウンドデータを交換したり、「再生」できるが、意味的な中味あるいはサウンドデータを編集する能力は無いものである。

カテゴリ特定フォーマットを検討する。「カテゴリ特定」交換フォーマットは類似のデータモデルを有するが内部データ記憶フォーマットの異なるオブジェクトの間でデータの属性の著しく大きい中味と著しく大きい保持力としてデータ交換する意図のものである。例えば、種々のスプレッドシートオブジェクトは類似のデータモデルを有するが、内部データ表示は極めて相違する。そのた

-192-

クトマネージャに対してカテゴリ特定フォーマットを作成し、新しいカテゴリを定義することができる。次いでいずれの数の、他の異なるオブジェクトマネージャも新しいカテゴリ交換フォーマットを使用するよう選択し、そのカテゴリのメンバとなればよい。この点に関して、いずれの所定のオブジェクトマネージャもいずれかの数のカテゴリのメンバとなりうることに注目すべきである。

定義されたカテゴリ特定フォーマットの例としては、ウォング情報転送アーキテクチャ(Wang Information Transfer Architecture-WITA)、データベースフォーマット、スプレッドシートフォーマットおよびグラフィックフォーマットを含む。再びこれらフォーマットの各々を検討する。WITAフォーマットはマサチューセッツ州ロウエルのウォング・ラボラトリーズ社(Wang Laboratories, Inc. of Lowell, Massachusetts)により開発されたWITAデータ交換アーキテクチャをさらに開発したものである。本発明のシステムにおいては、WITAフォ

一マットは、広範なフォーマット化情報および可能性として各種タイプのその他のオブジェクトへのリンクを含むテキストデータを主として交換する上でドキュメントやテキストエディタが使用する意図のものである。WITAはまた、一方のドキュメントタイプから他方のドキュメントタイプへテキストおよびフォーマット化情報を交換するのに特に適しており、一般的なデータ通信に使用される。

データベース交換フォーマットはデータベースタイプオブジェクトマネージャが使用する意図のものである。このフォーマットは、例えばデータベース定義、レコード構造、レコード間の接続についての情報を有するデータレコード、計算されたフィールドとフォーミュラフィールドおよびリンクを含む考えうる全てのデータベースタイプのデータを交換する上で使用する意図である。データベースフォーマットはまた、例えばドキュメントとスプレッドシートオブジェクトのあるタイプのものを交換したり、通信するのにも使用しうる。

-195-

タ構造とフォーマットとを有するデータオブジェクト間でのデータ交換に用いられる。これらの場合は、正確に何が他のオブジェクトマネージャの内部データ表示や属性であるか知っており、しだがって最大のデータ中継を保持するためにデータをどのようにパッケージにし、かつ通信すべきか知っている。データ構造は基本的に同じであるべきとの要件のために、専用交換フォーマットは同じオブジェクトマネージャにより作成されたデータオブジェクト間のデータ交換に最も一般的に使用される。

専用交換フォーマットにおいては、オブジェクトマネージャは、いずれかの他のオブジェクトマネージャの内部データ構造との互換性の必要が全くないため自由にそれ自体の専用の交換フォーマットを定義すればよい。しかしながら、専用の交換フォーマットを有しているオブジェクトマネージャはその専用フォーマットを発表して、他のオブジェクトマネージャかその専用フォーマット

(50)

スプレッドシート交換フォーマットはスプレッドシートタイプのオブジェクトマネージャが使用する意図のものである。スプレッドシート交換フォーマットにおいて交換されたり変換されるスプレッドシートデータは、例えば行、列、およびセルの定義、公式およびテキストおよびデータフィールドを含む全てのタイプのスプレッドシートタイプデータを含む。

最後に、グラフィック交換フォーマットはグラフィックタイプのオブジェクトマネージャが使用する意図のものである。このフォーマットは、例えばビットマップ化したグラフィックデータ、ペクトルおよび「オブジェクトベースの」グラフィックおよびピクチャ情報の全ての形態を含む考えられる全てのグラフィックタイプのデータを交換する上で使用する意図のものである。(「オブジェクト」という用語はここでは本明細書の残りの部分で使用する意味でなく、グラフィックに関係した視点から使用していることに注目すべきである。)

最後に「専用」交換フォーマットは正に同じデータ

-196-

を使用するよう選択することによって、新しいカテゴリ特定の交換フォーマットを作成できる。専用フォーマットはオブジェクトマネージャの内部データ構造により細部に定義されるので、専用フォーマットをカテゴリ特定フォーマットに変えても、オブジェクトマネージャが後でその内部データ構造を交換する範囲には制限がある。

所定のオブジェクトマネージャはデータオブジェクト間で通信するために専用の交換フォーマットを使用する必要はないが、カテゴリ特定のフォーマットを使用するよう選択でき、あるいは一級フォーマットでの交換に十分なこともありうることに注目すべきである。さらに、所定のいずれかのオブジェクトマネージャは同時に、専用変更フォーマットを有し、いずれかの数のカテゴリに属し、かつ対応するカテゴリ特定フォーマットを用いたり、かつ一級フォーマットを用いてもよい。

最後に、一般、カテゴリ特定あるいは専用フォーマットであろうとも、各交換フォーマットに対して、どのようにデータを並べるか、かつどのように

うにデータ交換を行うかオプションによって決めるいずれかの数の交換オプションのあることに注目すべきである。宛て先オブジェクトマネージャの決めるオプションや原稿オブジェクトマネージャが決めるオプションがある。所定のデータ交換に対して、いずれのオプションを選択するかは交換の行われるときに原稿および宛て先オブジェクトマネージャによって決められ、所定の交換フォーマットを使用する全てのオブジェクトマネージャは出来るだけそのオプションを使用するものと思われる。

17. 資源

前述のように、オブジェクトマネージャは、実行可能なコードと、プログラムにより使用されるデータとから構成されているものと見做しうる。そのようなデータの例としてはアイコン、言語依存テキスト、メッセージ、テキストフォント、フォーム、日付および時間の表示フォーマットを含みうる。本発明によるシステムは、プログラムのコードとは別に変更あるいは共用したいと希望

-199-

に開放されている複数の資源ファイルを有する。資源がリクエストされるとそのプログラムの現在開放している資源ファイルが、リクエストされた資源IDを有する資源に対して検索される。このようにどの資源ファイルをプログラムが開放するか否かにより種々の資源を使用できる。

以下の例はファイルに資源をグループ化することに係る事象のあるものを示す。1個の資源ファイルは、英語でスプレッドシートオペレーションに特に向けられるユーザのプロンプトの全てを含みうる。第2の資源ファイルは仏語におけるプロンプトを含む、第3と第4の資源ファイルはそれぞれ英語と仏語の一一般的なプロンプトを含む。スプレッドシートオブジェクトマネージャは典型的にこれら資源ファイルの2個を開放している。第1と第3のファイルは英語を話すユーザ用であり、第2と第4のファイルは仏語を話すユーザ用である。また、ドキュメントオブジェクトマネージャはドキュメントオペレーションに特有の資源を含む資源ファイルと共に第3または第4の資源ファ

(51) するデータを記憶するために使用しうる「資源」を提供する。したがって、資源はそのようなプログラムを、それが関連しているプログラムとは別に、かつ独立して記憶する手段である。

資源にデータを位置させることによりその中の情報をプログラムの実行可能コードに影響を与えることなくカストマイズあるいは変更できるようになる。この手段により、所定のプログラムに対して多くのバージョンができ、実行可能コードは各バージョンに対して同じであるが関連の資源の常駐する該プログラムのデータのみがバージョンによって変わる。さらに、資源を用いることによりオブジェクトマネージャと他のプログラムとが共通のプログラムデータを共用することにより個々のプログラムのサイズとメモリ要件とを減少させることができる。

17.1. 資源ファイル

資源は典型的には多くの資源ファイルに記憶される。資源は所期の関連に基づき資源ファイルにグループ化される。資源を用いたプログラムは、一時

-200-

イルのいずれかを開放する。

資源IDは資源ファイル内で一意的であるが、種々の資源ファイルを介して一意的である必要はない。資源IDのある範囲が一定の定義を有するように割り当てられる。換言すれば、同じIDを有する1個以上の資源があるかもしれないが(例えば一方が英語資源で他方が仏語資源のファイルにあるが)、これらの定義が一定の資源IDの中の1個を共用する全ての資源は同じ目的である(例えば同じプロンプト)。完全に異なる目的に対して他の資源IDを異なるプログラムにより使用しうる。スプレッドシートに関連の資源のファイルはデータベースに関連の資源のファイルに使用されるように同じ資源IDを使用しうる。

各資源ファイルは3種類のセクション、索引付情報、資源データ、記述情報から構成される。

索引付情報は資源ファイルの前方に記憶される。これは、希望する資源がファイルにおいて探されたか否かを検出するに必要な情報を含む。この索引は、一連のアレイとして構成され、各アレイは

順次の資源 ID のクラスタに対するエントリを含む。資源ファイルの索引部分の各エントリは

- 資源のサイズ、
- 資源ファイル内の資源の位置、
- 資源タイプコード、および
- 対応する資源がカスタマイズできるか否かを指示するフラッグを含むフラッグを含む。

資源ファイルの資源データ部分はいずれかの順序で資源を記憶しうる(資源の各々の位置はファイルの割出し部分に指示される。共に使用されそうな資源は相互に対して物理的に近接させて記憶することが好ましい。このため、リクエストされる資源がすでに主メモリにあり、ディスクでのアクセスを低減させる可能性を増大できる。

記述情報はオプションのものである。これは資源のテキスト名、資源のテキスト記述およびリテラルとを含みうる。

(任意的に介在させうる)リテラルは資源 IDs を備えた資源を探すプログラムの原始コードでシンボルを突き合わせるために使用される。このた

(52) めプログラム原始コードが、その簡略値について選択し、かつ資源 ID の簡略値と独立したシンボルを備えた資源を参照するようにできる。ステディリティプログラムが資源ファイルを読み取り、かつプログラムヘッダファイルを作成する。資源ファイルにおいてリテラルが定義される各資源に対して、エントリが、その値が対応する資源 ID であるシンボルにリテラルがなるよう定義するヘッダファイルに現われる。このように、これらの機械的に発生したヘッダファイルの 1 個を含むプログラムが、資源を識別するために資源 ID でなくむしろリテラルを使用することができる。

17.2. 資源(第10A図)

第10A図を参照すれば、本システムの全ての資源を代表する資源700の雛形が示されている。全ての資源700は、RESPACK222のルーチンを介して資源700をシステムが位置づけ、かつアクセスする情報を含むヘッダ702と、実際の資源データを含む資源の中味704とからなる共通の構造を共用する。以下説明するように、その中に含まれる情

-203-

報は資源を作成したエディタにより検出されるものの、資源の中味704の内部構造が資源のタイプにより検出される。資源のある定義されたタイプがある。また、資源の中味704の中味と内部構造とは資源を作成したエディタにより全体的に検出される自由形態の資源のタイプもある。

各種タイプの資源の資源の中味704の構造と、中味とは資源700のタイプによって変わるが、全ての資源700のヘッダ702は構造ならびに中味が同一である。指示しているように、ヘッダ702はタイプフィールド708、名前フィールド708、識別子フィールド710、リテラルフィールド712、記述フィールド714、一致したフラッグフィールド716としてそれぞれ指示される 3 個のフラッグフィールド、ユーザがカスタマイズしうるフラッグフィールド718およびシステムが修正可能のフラッグフィールド720とを含む。

タイプフィールド708は、例えば資源がフォーム、メッセージ、アルダウンメニュー、アイコン、ウインドウ構造、あるいは例えばテキストあるいは

-204-

はデータのバイトストリングであろうと、特定の資源700に含まれた資源のタイプの識別子を含む。この点に関し、フォームとは典型的にはスクリーンの表示、即ち、有益で明確なテキストフィールドおよび多くの場合ユーザにより埋めることの可能なフィールドを含むCRTディスプレイである。メッセージの方は、例えばイベントあるいはユーザが実施すべき行動の通知のような情報をユーザに提供する手段であって、グラフィック、テキストあるいはオーディオでよい。周知のようにメニューとは、有限の複数の可能な行動あるいは事象の間でユーザが選択できるようにする手段である。アルダウンメニューは、そのメニューが必要なときのみ、即ちユーザの選択あるいはメニュー表示が適当であるとオブジェクトマネージャが検出すると実行されるものである。「アルダウン」とは單に、ユーザが明らかにスクリーンの上部から引き下げるることを意味する。アイコンはテキストストリングの代りにグラフ表示するものであって、テキストがメッセージを提供したり、行動あるいは

-205-

-262-

-206-

は選択を表示し、あるいは何かを識別するために使用されるほとんどの何処の場所においても使用しうる。ウインドウ資源は、ウインドウ、即ちユーザへの可視表示を含むスクリーンの有効の部分を説明するパラメータブロックであり、ユーザに表示すべき対応の窓を発生させる「パック」により使用される。

その他の定義された資源タイプはタイプフォントを定義するフォント資源、特定の言語の該語および文法上のルールを定義する言語ルール資源と、キーボードの各種のキーの機能と用途とを定義するキーボード交換テーブルとを含みうる。最後に、バイトストリング資源は前述の定義したタイプの中の1個の範囲内にない何らかの資源を記憶するための自由にフォーマット化されるバイトストリングである。このタイプの資源において、情報の内部構造は資源を作成するエディタにより完全に検出される。

名前フィールド708は資源700に対する任意に識別する名前を割り当てるために使用される。名

(53) 前フィールド708に常駐す 名前は例えば指令言語を介して資源700をアクセスするために使用しうる。

識別子フィールド710は、識別子がプログラムの実行可能コードにより参照されると資源にアクセスするためにRESPACKにより使用される識別子を含む。プログラムが資源を必要とすると、プログラムは資源IDをRESPACKルーチン(例えばRESget())に通す。資源識別子を用いて、RESPACKの方は現在開放している資源ファイルの1個で資源を位置づけ、資源をプログラムに提供する。

識別子フィールド710に常駐する識別子は、資源がグループ化されているファイル内においてのみ一意的であればよい。典型的には識別子は資源が使用されるべきときのみ資源ファイルのセット内で一意となる。

リテラルフィールド712は、資源を用いるプログラムの原始コード内で識別子フィールド710の資源IDを言及するラベルとして使用されるテキストストリングを含む。資源エディタの方は所定

-208-

の資源ファイルに対応する「INCLUDE(含入)」ファイルを生成する機能を提供する。

記述子フィールド714は資源の表示可能な記述からなるテキストストリングを含む。記述子テキストストリングは、資源エディタの資源のインデックス(索引)に、かつ資源を用いているユーザあるいはオブジェクトマネージャに対してはユーザあるいはプログラムプロファイルに表示できる。

最後に、ヘッダ702のフラッグフィールドを検討すると、一致したフラッグフィールド716は、セットされると資源が資源ファイル内のブロック境界に整合させるフラッグを含む。本発明のシステムにおいては、ブロック境界に整合しないのは新しく資源を作成した省略値である。しかしながら、整合は例えばフロントのようなある資源に対して有利であって、あるいはもし資源ファイルが大きくて、多くの資源を含んでおれば、あるいは資源自体が大きい場合、効率のためにも望ましい。

ユーザがカストマイズしうるフラッグのフィールド718とシステムが修正可能なフラッグのフィ

ールド720とは、双方共、資源のカストマイズしたコピイが作成しうるか否か、および誰によって作成されうるかを示すフラッグを含んでいるという点において類似である。ユーザがカストマイズしうるフラッグのフィールド718は、ユーザが資源のカストマイズしたコピイを作成しうるか否かを指示す。システムが修正可能なフラッグのフィールド720は同様であるが、システムの管理者がシステムプロファイルにおいて資源をカストマイズしうるか否かを示す。

前述のように、資源の中味704は、資源データの構造が資源のタイプにより決められる実際の資源データを含む。さらに、この点に関して、所定の資源は1個以上の他の資源から構成しうることを注目すべきである。即ち、資源700の資源の中味704は基準、即ち複数の他の資源700の識別子710を含むことによってそれらの他の資源700も組み入れればよい。例えば、フォームタイプの資源は、各グループのフィールドが資源700であるフィールドのグループから構成すればよい。各グループ

のフィールド、即ち、グループのフィールドを定義する資源700の各々は別のフィールドあるいはフィールドのグループから構成してよく、これらのフィールドの方は基準、即ちメッセージタイプの資源を識別する識別子710を含めばよい。

資源には複数のタイプがあり、所定の資源700の一部の資源の中味704の構造と中味とは資源のタイプにより変わる。しかしながら全ての資源700のヘッダ702の部分は構造並びに中味が均一であって、タイプのフィールド706を介して資源700のタイプを検出する。一旦資源700のヘッダ702が定義されると、資源の中味704の中味は定義しうる。

17.3. 資源エディタ(第10B図)

第10B図を参照すれば、資源700を作成し、かつ調集するために使用する本発明によるシステムの資源エディタの構造とオペレーションなどが示されている。第10B図には、資源タイプによりグループ化され、かつタイプa資源700a、タイプb資源700b…タイプn資源700nとそれぞれ指示した複数の資源700が示されている。

-211-

資源エディタ722は、実際の資源操作の多くを達成する責任のあるRESPACK機能への呼び出しをよく利用する。その他のプログラムはRESPACE機能への呼び出しにより資源を作成したり修正したりできる。しかしながら、資源エディタ722は資源を作成したり修正する一次手段である。

18. 資源カストマイゼーション

18.1. カストマイズした資源による一般的なカストマイゼーション

本発明のシステムにおいて、本システムの挙動の多様な局面を、適当な原始資源に対して自動的にカストマイズした資源で代替させる單一の機能を用いて個々のユーザに対してカストマイズできる。

カストマイズ可能特性を有するプログラムを構成する場合、プログラムは各カストマイズ可能特性についてのデータを記憶するために1個以上の資源を使用するようにされる。ユーザが特性を変えると、対応する資源のカストマイズされたバージョンが作成され、そのユーザのユーザプロファイル

(54) 資源エディタ722は主資源エディタ724と複数のタイプを特定したサブエディタ726とから構成されている。各資源タイプにはタイプxのサブエディタ726があり、第10B図に示すタイプxサブエディタ726は、例えばタイプaサブエディタ726a、タイプbサブエディタ726b、…タイプnサブエディタ726nに対応するよう指示されている。

図示のように、主資源エディタ724はユーザ728に対する一次インタフェースを提供し、資源700を作成し、資源700のヘッダ部分702を定義し、調集する装置を含む。主資源エディタ724は、資源700の中味704を調集し、管理するために直接使用されないが、一旦資源700が作成され、ヘッダ702が定義され、調集されると、タイプxサブエディタ726の中の対応するサブエディタを呼び出し、呼び出されたタイプxのサブエディタ726へのインターフェースを提供する。呼び出されたタイプxサブエディタ726は次いで、資源700の中味部分704に常駐する資源データを定義し調集するために使用される。

-212-

ルに記憶される。その後そのユーザに対してカストマイズした形で特性が現われ、一方他のユーザには元の形で現われる。この作用は、カストマイゼーションを示すプログラムとは独立したメカニズムにより達成される。換言すれば、カストマイゼーションを示すプログラムが、カストマイズした特性を含むオペレーションを実行している場合、そのプログラムがカストマイゼーションがあったか否かについて心配する必要はない。これは、一般的な特性のカストマイゼーションはカストマイズした資源を利用して達成されるからである。RESPACKは自動的に、必要とされた変更のみ実行する、即ちRESPACKは自動的に、適当なときに(即ち、現在のユーザのユーザプロファイルに適当なものが介在するときに)資源のカストマイズしたバージョンと代替する。

RESPACKは特定の資源を(例えばRESget()呼び出しに応答して)検索するとき、特定の資源の資源IDに対応するエントリに対して、現在開放されている資源ファイルで調り出し情報を探索する。

もし現在のカストマイゼーション I D (詳ち `RESPtceesId()` を呼び出すことによりセットした) があり、かつ前記エントリにおいてカストマイゼーションフラッグが、資源のカストマイズしたバージョンが介在しうることを示すとすれば、`RESPACE` はユーザのユーザプロファイルが、特定の資源 I D と現在のカストマイゼーション I D を備えたカストマイズした資源を含むか否か検出する。`RESPACK` はもしカストマイズした資源が介在するとすればそれを検索するか、あるいは適当なエントリが見つかった資源ファイルにおいて資源を検索する。

18.2. カストマイゼーション I D。

ユーザが資源をカストマイズすると、資源の新しいバージョンが作成される。この資源のカストマイズしたコピイはユーザのユーザプロファイルの一部として記憶される。資源のそれぞれのカストマイズしたコピイはそれにカストマイゼーション I D と資源 I D とを関連づけている。資源 I D はカストマイズされた資源のそれと同じである。カ

-215-

のオブジェクトマネージャおよび全てのドキュメントオブジェクトマネージャ) により使用される。ユーザはドキュメントオブジェクトマネージャのカストマイゼーションの能力を利用して資源をカストマイズし、資源の修正したコピイを作成する。このカストマイズしたコピイはドキュメントオブジェクトマネージャのカストマイゼーション I D 特性と関連する。ドキュメントにオペレートしているときはいつでも、資源のカストマイズしたバージョンが使用される。スプレッドシートに対してオペレートするときはいつでも、スプレッドシートオブジェクトマネージャが別のカストマイゼーション I D を使用するであろうから資源の元のバージョンが用いられる。

19. APPACK機能呼び出し

以下はアプリケーションパック(APPACK)により提供される機能のあるものについての詳細説明を提供する。これは当該技術分野の専門家に「PACK」の概念と用途の双方を示し、かつ本発明のシステムの前述した特徴やオペレーションを更に詳細に

(55) ストマイゼーション I D は、ユーザがカストマイゼーションを行ったプログラムにより割り当てられる。

カストマイゼーション I D はいずれのカストマイズした資源に対しては一意でない。同じカストマイゼーション I D は同じ範囲のカストマイゼーションが好ましいグループの資源に対して用いられる。典型的には、各オブジェクトタイプに單一のカストマイゼーション I D が関連している。このように、オブジェクトのあるタイプに対するオブジェクトマネージャの全ては同じユーザのカストマイゼーションを明示する。しかしながら、もし特定のプログラムがその單一のプログラムに対してのみ現われるカストマイゼーションを提供することが好ましい場合、そのプログラムに関連した 1 個以上の個別のカストマイゼーション I D がありうるはずである。

以下の例はカストマイゼーション I D の用途を例示する。最初に、資源は多くの種々のオブジェクトマネージャ(例えば全てのスプレッドシート

-216-

説明する。

19.1. 呼び出しサービス

19.1.1. APstart()スタートリクエストを出す

この機能は所定のリンクにより特定されたアプリケーションを呼び出し、それにSTARTリクエストを送る。このリクエストに対してはリクエストのオプションは何らない。呼び出されたアプリケーションがAPinit()を呼び出すと、リンクと、任意のリンク仕様とを受け取る。この機能は呼び出されたアプリケーションからの応答を期待し、その応答が受け取られると復帰する。それは呼び出されたアプリケーションとは連絡をしない。

入力パラメータ

—このリンクに対する親オブジェクトのオブジェクト I D へのポインタ

—呼び出すべきオブジェクトへのリンクの I D、もしこの値が零の場合、オブジェクト I D へのポインタにより識別されたオブジェクトが直接呼び出される

-217-

-265-

-218-

—リンク仕様の長さ、もし何ら提供されない
なら零

—希望に応じリンクを備え、呼び出されたア
プリケーションへ送られるべきリンク仕様へのボ
インタ。これはもしリンクが間違のデータを有す
るとすればLRFgetspec()を呼び出すことにより得
ることができる。もしこのボインタがNULLの場合、
仕様は何ら送られない。

出力パラメータ

—無

19.1.2. APread()—読み取りリクエストを 出す

この機能は所定のリンクにより規定されたア
プリケーションを呼び出し、それにEDITリクエスト
を送る。このリクエストに対しては何らリクエス
トのオプションはない。呼び出されたアリケー
ションがAPinit()を呼び出すと、リンクを任意の
リンク仕様とを受け取る。この機能は呼び出しさ
れたアリケーションからの応答を期待し、応答
が受け取られると復帰する。それは呼び出された

—219—

帰する。それは呼び出されたアリケーションと
は通信を設定しない。

19.1.5. APrgenerate()—作成リクエストを 出す

この機能は所定のリンクにより規定されたア
プリケーションを呼び出し、それにCREATEリクエス
トを送る。リンクは新しく作成されたオブジェクト
へのものであると規定する。リンクの他に呼び
出し元は、サーバアリケーションから受け取り
可能なリンクに対するデータタイプ仕様のリスト
を提供する必要がある。規定されたリンクデータ
タイプのみを提供すべきである。呼び出されたア
プリケーションがAPinit()を呼び出すと、リンク
とデータタイプ仕様とを受け取る。この機能は呼び
出されたアリケーションからの応答を期待し、
該アリケーションとの通信を設定する。この機能
は、否定的な答が得られるか、満足に通信が設
定されると復帰する。この呼び出しを行った後、
アリケーションはオブジェクト作成プロトコル
の残りの部分と共に進行すべきである。

19.1.6. APreqchangelink()—リンク変更リク エストを出す

(56) アプリケーションとの通信は設定しない。

19.1.3. APread()—読み取りリクエストを 出す

この機能は所定のリンクにより規定されたア
プリケーションを呼び出し、それにREADリクエスト
を送る。このリクエストに対しては何らリクエス
トのオプションは無い。呼び出されたアリケー
ションがAPinit()を呼び出すと、それはリンクと
オプションのリンク仕様とを受け取る。この機能
は呼び出されたアリケーションからの応答を期
待し、応答が受け取られると復帰する。それは呼
び出されたアリケーションとの通信は設定しな
い。

19.1.4. APrgen()—実行リクエストを出す

この機能は所定のリンクにより規定されたア
プリケーションを呼び出し、それにRUNリクエスト
を送る。呼び出されたアリケーションがAPinit
()を呼び出すと、リンクおよび任意のリンク仕様
とを受け取る。この機能は呼び出されたアリケ
ーションから返答を期待し、応答を受け取ると復
帰する。

—220—

エストを出す

この機能は所定のリンクにより規定されたア
プリケーションを呼び出し、それにCHANGELINKリク
エストを送る。リンクは既存オブジェクトに対する
ものと想定する。リンクの他に、呼び出し元は、
サーバアリケーションから受け取り可能なリンク
に対してデータタイプの仕様のリストを提供す
る必要がある。規定したリンクデータタイプのみ
提供すべきである。呼び出されたアリケーション
はAPinit()を呼び出すと、リンクと、任意のリ
ンク仕様とおよびデータ仕様リストとを受け取る。
この機能は呼び出しされたアリケーションから
の応答を期待し、かつ該アリケーションとの通
信を設定する。この機能は、否定的な応答が受け
とられるか、通信が首尾よく設定されると復帰す
る。この呼び出しを行った後、アリケーション
はリンク変更プロトコルの残りの部分と共に進
られるべきである。

19.1.7. APreqprint()—プリントリクエスト を出す

—221—

—266—

—222—

この機能は所定のリンクにより規定されたアプリケーションを呼び出し、かつそれにPRINTリクエストを送る。リンクの他に、呼び出し元はそのリクエストが実行される要領を示す多數のリクエストのオプションを提供する必要がある。呼び出されたアプリケーションがAPInit()を呼び出すと、リンクと、任意のリンク仕様と、リクエストのオプションとを受け取る。この機能は呼び出されたアプリケーションからの応答を期待する。もしプリントリクエストモードがPRINT INTERACT以外のものであれば通信がなされる。この機能は、プリントリクエストモードに応じて、応答が得られるか、あるいは通信が首尾よく設定されると復帰する。

19.1.8. APrequpdate()—リンク更新リクエストを出す

この機能は所定のリンクにより規定されたアプリケーションを呼び出し、それにLINKUPDATEリクエストを送る。このリクエストに対しては何らリクエストのオプションは無い。呼び出されたア

-223-

ジェクトタイプの定義にそのような指示がなされていないとすれば、オブジェクトマネージャが呼び出され実際のコピイオペレーションを実行する。もっともAPreqcopy()の呼び出し元はこの事実に気が付かない。

19.1.9. APreqdeletelink()—リンクを削除する

この機能は特定した親オブジェクトからのリンクを削除する。削除後子供のオブジェクトがもはや親のリンクを有していないならば、子供のオブジェクト自体も削除される。オブジェクトタイプの定義にそのように指示されておれば、オブジェクトマネージャが呼び出され実際のオブジェクト削除オペレーションを実行する。呼び出し元はこの事実に気が付いていないが。

19.1.10. APreqrelocate()—オブジェクトを再配置する

この機能は所定のリンクにより規定されたオブジェクトあるいはオブジェクトIDを特定された物理的位置まで動かす。再配置されたオブジェク

(57) アプリケーションがAPInit()を呼び出すと、リンクとリンク仕様とを受け取る。この機能は呼び出されたアプリケーションからの答を期待し、それとの通信を設定する。この機能は、否定的応答が受け取られるか、あるいは通信が首尾よく設定されると復帰する。この呼び出しを行った後、アプリケーションはリンク更新プロトコルの残りの部分と共に進められるべきである。

19.1.9. APreqcopy()—オブジェクトをコピイする

この機能は所定のリンクにより規定されたオブジェクトあるいはオブジェクトIDをコピイする。リクエストされるとすれば、新しく作成されたコピイへのリンクが特定された親から設定される。新しいオブジェクトは以下の3箇所の中の1箇所に即ち呼び出し元により規定された箇所、親オブジェクトの近く、あるいは原始オブジェクトの近くで作成できる。もしオブジェクトが他のオブジェクトに対してリンクを有しておれば、セットコピイ状態フラグを担持するリンクを有する子供オブジェクトのいずれからもコピイできる。オブ

-224-

トまで。あるいはそこからの全てのリンクは、このオブジェクトの他の親や子供が見出せるように調整される。オブジェクトタイプ定義にそのように指示されるとオブジェクトマネージャは呼び出され、呼び出し元は気付かないものの実際の再配置オペレーションを実施する。

19.1.12. APreqimport()—外部のオブジェクトをインポートする

この機能はAPPACKオブジェクト環境の外部で作成されたファイル用のオブジェクトカタログにエントリを作成する。この機能は情報をオブジェクトレコードに追加するためにOBJPACKと共に使用しうる有効なOBJIDを戻す。オブジェクトタイプの定義にそのように指示されるとすれば、オブジェクトマネージャが呼び出されて、呼び出し先が気が付かないものの実際のオブジェクトレコード作成オペレーションを実行する。この機能は新しいオブジェクトへのリンクは作成しない。

19.1.13. APreqinvoke—アリケーションを呼び出す

-225-

-267-

-226-

この機能は特定のオブジェクトのマネージャを呼び出し所定のリクエストを送る。アプリケーションにはリンク、いずれかの関連リンク仕様および呼び出し者供給のリクエストのオプションが提供される。呼び出し者はまた、再に通信するため呼び出したアプリケーションとの接続が設定されるまで待機を依頼できる。この機能はアプリケーションがスタートされ、リクエストを確認すれば復帰する。

この機能はプログラム間で特殊なインタラクションが要求されるときのみ呼び出されることに注目のこと。その他アプリケーションの呼び出しのほとんどは標準的なリクエスト機能を用いることにより実行すべきである。

入力パラメータ

—このリンクに対する親オブジェクトのオブジェクトIDへのポインタ

—呼び出すべきオブジェクトへのリンクのID、もしこの値が零であるとすれば、オブジェクトIDへのポインタにより識別されるオブジェクト

-227-

場合IKEPgtSpec()を呼び出すことにより得られる。もしこのポインタがNULLであれば、何ら仕様は送られない。

—リクエストと共に送るべきリクエストオプションの長さ、何も提供されなければ零。

—リクエストと共に送るべきリクエストオプションへのポインタ。もしこのポインタがNULLであれば、何らオプションは送られない。

—その「環境」のパラメータとして新しいアプリケーションへ置すべきテキストストリングへのポインタのリストへのポインタ。このリストはNULLのポインタであるべきである。

出力パラメータ

—このオペレーションの間に更に通信すべく使用するために、APOPID(APPACKオペレーションID)を受け取る変数に対するポインタ。何ら通信が期待も望もされないとすれば、このポインタはNULLであるべきである。

19.2. オペレーションサポート

19.2.1. ApInit()—アプリケーションリクエ

(58) トが直接呼び出される

—呼び出されたアプリケーションへ送られるべきリクエストコード。このコードは標準リクエストコードのいずれかとコンプリクトしてはならない。

—応答フラッグ:呼び出されたアプリケーションから応答が期待されるとTRUE。そうでなければFALSE。もしTRUEであれば、成功か否かは問わず新しくスタートしたアプリケーションから応答が受け取られるまで機能は待機する。

—接続フラッグ:呼び出されたアプリケーションとの通信が希望されるとすればTRUE。そうでなければFALSE。もしTRUEであれば、接続が設定されるまで、あるいはリクエストに対する否定的応答が受け取られるまで機能は待機する。

—リンク仕様の長さ、何も提供されなければ零。

—希望に応じ、リンクと共に呼び出されたアプリケーションへ送るべきリンク仕様へのポインタ。これは、もしリンクが関連のデータを有する

-228-

ストリームを初期化する

この機能はAPPACK通信を初期化し、そのため呼び出し者はスタートアップリクエストを処理し、マッチメーカーのオペレーションを実行し、あるいは他のアプリケーションを開始できる。このAPPACKは他のAPPACKサービスが使用される前に呼び出す必要がある。これは、アプリケーションマネージャにより呼び出されたアプリケーションに送られたスタートアップリクエストを解釈し、意味を呼び出し者へ戻す。この機能はこのリクエストのそれ以上の処理に使用すべきオペレーションIDを戻す。もし呼び出し者がアプリケーションマネージャにより呼び出しされてなかったとすれば、戻されるリクエストコードはNONEであり、何らAPOPIDは戻されない。

リクエスト自体の他に、この機能はリクエストに関連したいずれのリンクをも戻し、かつリクエストと共に供給されたリクエスト特定のオプションも戻してしまう。アプリケーションは初期化の間この機能を呼び出すものと想定され、リクエ

トが非インクルチブ処理に対するもの場合いずれかのユーザには可視のオペレーションを実行する前に機能の呼び出しを行うべきである。

入力パラメータ

一無

出力パラメータ

一呼び出しアリケーションにより発行されるリクエストコード。もし呼び出しプログラムがアプリケーションマネージャにより呼び出されていたとすれば、この値はNONEである。

一このリクエストに対する応答フラグもし応答が期待されればTRUE、もしそうでなければFALSE。

一このリクエストに対する接続希望フラグもし通信が希望されるならばTRUE、もしそうでなければFALSE。

一このオペレーションの間それ以上のアクティビティに使用するAPOPID。このIDは、もし応答を発するならばAPreply()に提供すべきである。

一提供されたOBJIDにより規定されるオブジェ

(59) クトタイプ。もしオブジェクトの名前がリクエストと関連していないならば零。

一リクエストを実行すべきオブジェクトのオブジェクトID。このフィールドはもしオブジェクトタイプフィールドが零であれば埋められない。

一省略値ヒープから割り当てられ、特定されたオブジェクトを記述するオブジェクトカタログレコードからの属性に関する情報を含むデータのブロックに対するポインタ。このポインタはオブジェクトに関する詳細情報を抽出するためOBJPACKまで通される。もはや必要がなくなれば、このブロックに割り当てたスペースはBPFree()を呼び出すことによりヒープに戻すべきである。NULLのポインタは何らオブジェクトが提供されなかつたことを示す。

一アリケーションを呼び出すことにより送られるリンク仕様の長さ。もしこの値が零であれば、リクエストに伴い何らリンク仕様が送られなかつたことを示す。

一省略値ヒープから割り当てられたリンク仕

-231-

様に対するポインタ。もはや必要とされなければ、リンク仕様に割り当てられたスペースはBPFree()を呼び出すことによりヒープに戻すべきである。NULLのポインタはリンク仕様が何ら送られなかつたことを示す。

一アリケーションを呼び出すことにより送られたリクエストオプションの長さ。もしこの値が零であれば、リクエストを共に何らオプションが送られていなかつた。

一APPACKオプション構造の1つあるいは非識別のバイトのストリングとして、発せられたリクエストに応じてフォーマット化され、省略時ヒープから割り当てられたリクエストオプションに対するポインタ。NULLポインタは、リクエストオプションが何ら特定されなかつたことを示す。

19.2.2. APReply()—リクエストに対して応答する

この機能はAPinit()から受け取られたリクエストに対して、あるいは実行中のオペレーションに対して応答を送る。この機能は、呼び出しアリ

-232-

ケーションは応答を待機しているので、APINITの「返答」フィールドがTRUEにセットされると常に呼び出される。APinit()の後呼び出され、応答がSUCCESSでないとすれば、オペレーションは停止され、通信は設定されない。もし返答がSUCCESSであり、呼び出しアリケーションと呼び出し者の双方が通信を設定したいと所望すれば、使用可能な接続が設定される。もし呼び出しアリケーションあるいは呼び出し者のいずれかが通信を所望しなければ、何ら通信は設定されない。APinit()後以外で呼び出しされるとすれば、「CONNECT」パラメータが否定される。

注:もし応答状態がSUCCESS以外であれば、あるいはもし接続が希望されなければ、オペレーションIDはこの呼び出しにより無効とされる。そのような場合に、APopfinish()を呼び出す必要はない。

入力パラメータ

一APinit()またはAPreserveにより戻される、応答を送るべきオペレーションのID。

-233-

-269-

-234-

—リクエストしているアプリケーションに戻すべきエラーコード。あるいはリクエストが受け入れられたとすればSUCCESS。

—接続フラグ:もし呼び出しアプリケーションとの通信が所望されればTRUE、あるいは何ら接続が必要とされなければFALSE。

出力パラメータ

—無

19.2.3. APevent()—APPACKイベント仕様を初期化する

この機能は、呼び出し者がAPPACKメッセージを待機できるようUIPACKイベント仕様構造を初期化する。この機能は「マッチ」メッセージ、オペレーションリクエストおよび返答、およびバッファマネジメントイベントとを含む。この機能は構造のアレイの1エレメントを充てんする。呼び出し者はUIVSPEC構造のアレイに対してスペースを割り当てるか、とておき、かつこれら構造の1個に対するポインタをこの機能に渡す。リストターミネータを含む、アレイの他のエレメントを充てん

—235—

クションを支援する高レベルのイベント処理パッケージに提供すべき場合に呼び出すべきである。

入力パラメータ

—APevent()により準備されていたUIVSPEC構造に対するポインタ

—APPACKイベントに関連すべきアクションコード

—APPACKイベントに関連すべきアクションデータ

出力パラメータ

—無

19.2.5. APeventremove()—APPACKイベント仕様を除去する

この機能は、APPACKメッセージを待機するためにイベント仕様エレメントに割り当てられたスペースを空ける。この機能は、もし前に準備されたイベント仕様がそれ以上使用されないと呼び出すべきである。

入力パラメータ

—APevent()により準備されたUIVSPEC構造

(60) するのは呼び出し者の責任である。この使用を用いて受け取られたイベントは、それらの目的や意味を検出するためAPmsgtest()へ渡すべきである。APinit()はこの機能を呼び出す前に首尾よく呼び出されたものと想定する。

入力パラメータ

—無

出力パラメータ

—APPACKメッセージイベントを待機できるようにするに必要な情報で充てんすべきUIVSPEC構造に対するポインタ

19.2.4. APeventaction()APPACKイベントに対するアクションコードをセットする

この機能は所定のUIPACKアクションコードとデータとを前に準備されていたAPPACKイベント仕様リストエレメントに関連づける。このエレメントは1個以上のリストエントリを含みうるので、呼び出し者がこれらコードをセットするのは実用的でない。この機能は、APPACKイベントリストエレメントと共にイベント仕様リストが、イベントア

—236—

に対するポインタ

出力パラメータ

—無

19.2.6. APmsgtest()—APPACKメッセージイベントをテストする

この機能は提供されたUIPACKイベントレコードをテストして、それが進行しているオペレーションと関連しているAPPACKメッセージイベントであるか否か検出する。もしそうであれば、この機能は関連のメッセージの性質を示すフラグと、それが属するオペレーションのオペレーションIDとを戻す。その結果によって、呼び出し者は多数の他のAPPACK機能の中の1つを呼び出し、メッセージをさらに解釈するものと思われる。

入力パラメータ

—テストすべきイベントレコードに対するポインタ

出力パラメータ

—メッセージイベントが属するオペレーションのIDを受け取る変数へのポインタ。この変数

は、もしイベントレコードがAPPACKオペレーションに属していないければNULLにセットされる。

一提供されたメッセージイベントのタイプを示すフラグを受け取る変数に対するポインタ。以下は可能なタイプのリストである。

* APPACKマッチメーカーのマッチメッセージ
一通知されたオペレーションは別のアプリケーションによりマッチングされた。

* APPACKリクエストメッセージメッセージを解釈するためAPmsgrequest()を呼び出す。

* APPACKオペレーション終了メッセージ
APopFinish()を呼び出しオペレーションを終了させる。

* 最近完了した運動オペレーションを取り消すリクエスト—MOVE UNDOプロトコルに従う。

* 新しいオペレーションに対するリクエストを含むAPPACKメッセージAPmsgnewreq()を呼び出してメッセージを解釈する。

* データ交換ストリームメッセージ—現在の交換取得機能を呼び出す。

(61) * オペレーションの他方の終りにおけるアプリケーションにより送られた専用プロトコルメッセージAPPACKにより解釈されます。

* APPACKにより扱われる内部コントロールメッセージ—それを否定し、無効する。

* APPACKでないメッセージ。

19.2.7. APmsginit()—アクチブオペレーションに対するRIOIDを取得する

この機能は、RIOPACKサービス(その上に各種のデータ交換機能が構成される再方向交換可能I/D)を用いる標準的なデータ交換サービスのいずれかとのデータ交換を実施するために使用しうるRIOIDを返す。提供されたRIOIDは特定のオペレーションIDと関連した、前に設定された接続に基いている。データ交換が完了すると、呼び出し者は他のAPPACKアクティビティ用のオペレーションIDを使用し続けるか、あるいはオペレーションを終了するためにAPopFinish()を呼び出すことができる。

入力パラメータ

-240-

入力パラメータ

—メッセージが期待されているオペレーションのID。

—希望するメッセージが到来する前にこの機能を戻すようにさせるべきイベントを記述した。イベント仕様のアレイに対するポインタ。詳細についてはUIPACK仕様を参照のこと。もしこのポインタがNULLであるとすれば、この機能はメッセージが到来するか、タイムリミットが消滅するまで待機する。

—受け取りの待機を停止する前に待機すべきミリ秒の数。零の値は、この接続のAPPACK省略値が用いられるべきことを示す。WAIT FOREVERの値はその意味するところを意味する。

出力パラメータ

—提供されたメッセージイベントのタイプを示すフラグを受け取る変数に対するポインタ。メッセージタイプはAPmsgtest()により戻されるものと同じである。

—本機能を早期に戻してしまったイベントレ

-239-

—そのためにRIOIDを戻すべきオペレーションのID。

出力パラメータ

—このオペレーションと関連したRIOIDを受け取るための変数に対するポインタ

19.2.8. APmsgwait()—APPACKメッセージを待機する

この機能は、特定のオペレーションと関連したイベントを特に待機したいアプリケーションの利益のために提供される。この機能は、このオペレーションと関連した使用可能の接続があるものと想定する。この機能はオペレーションの他方の終りにおいてアプリケーションから到来するメッセージを待機する。呼び出し者は、希望するメッセージが到来する前にAPmsgwait()が戻るようさせるイベントのリストを供給しうる。さらに、呼び出し者は待機のためのタイムリミットを想定しうる。次いで、イベントレコードポインタが、さらに処理するための(APmsgtest())のようなAPmsg()解釈機能の1つに渡すことができる。

-241-

-271-

-242-

コードで充てんすべき構造へのポインタ。このコードは、希望するメッセージが到来するかあるいは属性がタイムアウトすれば充てんされない。このポインタは、もしイベントコードが希望でなければNULLでよい。

19.2.9. APsrequest() - オペレーションリクエストを送る

この機能は、呼び出し者が供給したいずれかのリクエストオプションと共に、オペレーション機能の他端においてアプリケーションに特定されたリクエストを送る。他端におけるアプリケーションはAPmsgtest()がタイプAPMSGREQUESTと解釈するメッセージイベントを受け取る。もし応答が希望されると、この機能は、他方のアプリケーションがリクエストを受け取り確認すると復帰する。

入力パラメータ

一リクエストを送るべきオペレーションの I.D.

一他のアプリケーションに送るべきリクエストコード。

-243-

が処理される前に、送り出されているアプリケーションがこのリクエストに対する応答を期待しているか否か指示する。

入力パラメータ

一APmsgtest()により戻された際、リクエストを適用すべきオペレーションの I.D.

一メッセージ用のイベントコードに対するポインタ。

出力パラメータ

一他方のオペレーションにより送られるリクエストを受け取る変数に対するポインタ。

一他方のオペレーションにより送られる応答フラグを受け取る変数に対するポインタ。もし応答が期待されるならTRUE、そうでなければFALSEである。

一他方のオペレーションにより送られるリクエストオプションの長さを受け取る変数に対するポインタ。もし戻された長さが零であれば、リクエストと共に何らオプションが送られなかったのである。

-245-

(62) 一応答フラグ:もし応答が呼び出したアプリケーションから期待されるとTRUE、もしそうでなければFALSE。もしTRUEであれば、本機能は成功の如何を問わず新しく開始したアプリケーションから応答が受け取られるまで待機する。

一リクエストと共に送るべきリクエストオプションの長さ。

一リクエストと共に送るべきリクエストオプションを含む構造に対するポインタ。もしこのポインタがNULLであるとすれば、オプションは何ら送られない。

出力パラメータ

一無

19.2.10. APsrequest() - リクエストメッセージを解釈する

この機能はタイプAPMSGREQUESTのAPPACKメッセージを解釈し、リクエストについての詳細を戻す。リクエスト自体の他に、この機能はリクエストと共に供給されたいずれかのリクエスト特定のオプションを戻す。応答フラグは、リクエスト自体

-244-

一発せられたリクエストに応じて、APPACKオプション構造の1つとして、あるいは非識別のバイトのストリングとしてフォーマット化された、リクエストオプションに対するポインタを受け取る変数のポインタ。NULLのポインタは何らリクエストが特定されなかったことを示す。

19.2.11. APsfinish() オペレーションを停止する

この機能は進行中のオペレーションを停止させる。この機能は理由を問わず、オペレーションの現在の状態にかかわらずオペレーションを停止すべきときはいつでもこの機能が呼び出される。もしオペレーションが現在2つの接続されたアプリケーションから構成されているとすれば、タイプAPMSGFINISHのメッセージが他方のアプリケーションに送られる。この呼び出し者は停止の理由を指示するエラーコードを供給し、SUCCESSが文字通りの意味であればオペレーションの終りにおいてオペレーションの停止を同意する。もしタイプAPMSGFINISHのAPPACKメッセージが受け取られる

-272-

-246-

とすれば、他方のアプリケーションの停止信号と、該オペレーションに割り当てられたフリーメモリを取得するためにこの機能も呼び出すべきである。この場合、SUCCESSは状態を示すものとして送るべきである。

入力パラメータ

—停止すべきオペレーションの ID

—他方のオペレーションに送るべき状態のコード

出力パラメータ

—他方のアプリケーションにより送られた停止状態コードを受け取るための変数へのポインタ、この値はもし呼び出し者が最初にオペレーション停止するのであれば、戻されない。

19.3. マッチメーカーのオペレーション

19.3.1. APnareserve()—オペレーションに対するマッチメーカーを予約する

この機能は特定のオペレーションに対するマッチメーカーの一方の側を予約する。マッチメーカーは、オペレーションの半分の初期についてのユーザ仕

-247-

- * 共用オペレーション
- * マルチコピオペレーション
- * オブジェクトコンバートアウトオペレーション
- * アレースオペレーション
- * リンクのみ許容したアレースオペレーション

- * リンクを許容していないアレースオペレーション
- * オブジェクトコンバートインオペレーション

出力パラメータ

—所定のオペレーションに対応するマッチメーカーの他方の側の現在の状態を示すフラグを受け入れる変数のポインタ。この変数はマッチメーカーを予約できない場合変更されない。

- * 他方の側はまだ通知せず

- * 他方の側はすでに通知し、待機中

- * 他方の側は通知し、リンクのみ期待中

- * 他方の側は通知したが、リンクを受け入

(63) 機が進行している間マッチメーカーを予約しておくべきである。一旦ユーザ仕様が完了すると、APnarepost()を呼び出すことによりオペレーションに通知すべきである。このオペレーションの他のAPnareserve()またはAPnarepost()リクエストは、マッチメーカーの予約されている間は許容されない。このリクエストを受け入れないようにするオペレーションが現在通知されると、進行中のオペレーションを記述したエラーコードが戻され、そのためユーザに適当に通知できる。もしマッチメーカーの状態がAPNMYOURSELFであれば、同じプロセスが通知されたマッチメーカーの対応する他方の側を有していることを示す。呼び出し者はこの点でオペレーションを停止するか、APnarepost()を越後しマッチをチェックするか選択できる。

入力パラメータ

—マッチメーカーを予約しておくべきオペレーションのコード：

- * コピオペレーション
- * 移動オペレーション

-248-

れること不可能

- * 他方の側は自身により通知すみ

—進行中のオペレーション IDを受け入れる変数のポインタ、この ID はいずれか他の使用がなされる前にAPnarepost()またはAPnaclear()まで戻る必要がある。

19.3.2. APnarepost()—マッチメーカーに対する

オペレーションを通知する

この機能は、マッチメーカーに対する進行中の交換オペレーションの半分を通知する。APnareserve()はそのオペレーションに対してマッチメーカーを予約するために先に呼び出しうまっている。呼び出し者は、本オペレーションを完成させることに合意する別のアプリケーションに対して提供しうる、あるいはそこから受け取られうるデータ交換のタイプを記載した情報を提供する必要がある。もしこの機能がSUCCESS戻し、かつ戻されたマッチメーカーの状態がAPNMATCHまたはAPNMYOURSELFであるとすれば、マッチが発生したこと、およびマッチイベントが何ら到来していない

いものと想定しうる。状態がAPNNONMATCHであるとすれば、呼び出し者はAPopfinish()を呼び出し、ユーザに通知すべきである。

入力パラメータ

- 通知すべきオペレーションのID。
- 通知アプリケーションにより提供あるいは受け入れ可能のデータタイプを記述し、APDATALISTENDにセットされた「データタイプ」を備えたエントリにより停止されたAPDATASPEC構造のアレイに対するポインタ。

出力パラメータ

- 所定のオペレーションに対応するマッチメーカーの他方の現在の状態を示すフラグを受け入れるポインタへのポインタ。マッチメーカーに通知できなければこの変数は変わらない。

- * 他方の側はまだ通知されず-特機
- * 他方の側は通知されたがマッチメーカーは可能でない
- * 他方の側は通知され、一致が判明した
- * 他方の側は通知され、自身でマッチング

-251-

(64) された

- もしマッチメーカーの状態がAPNNMATCHまたはAPNNYOURSELFであれば、他方のアプリケーションが通知したオペレーションコードを受け取る変数へのポインタ。

19.3.3. APmconnect()マッチしたアプリケーションに接続する

この機能は、呼び出し者の通知したオペレーションとマッチしたアプリケーションとの通信を設定する。この機能の呼び出しへ、アプリケーションマネージャからAPNSGMATCHメッセージを受け取り、あるいはAPmconnect()からAPNNMATCH状態を受け取った後であるべきである。この機能は他方のアプリケーションにより通知されたオペレーションコード、およびマッチしたデータ仕様のカウントとリストとを戻す。(通信PLACE側にある)コンシューマアプリケーションはこの機能を呼び出した後データに対する特別のリクエストを出すものと思われる。この機能により戻されたAPOPIDはAPPACKリクエスト機能のいずれか、およびデータ交換サ

-252-

使用されたスペースをヒープへ戻すようIPfree()を呼び出すべきである。

19.4. リンク交換19.4.1. LNXinit() - リンクストリームの構成を開始する

この機能はリンク交換ストリームの構成を開始する。新しいストリームが現在の交換ストリームとなる。一時に使用中のリンクストリームは1個のみしかありえないことに注目のこと。この機能を呼び出した後、他方のLNXp()機能を用いてリンクおよびリンクデータとをストリームに入れることができる。

19.4.2. LNXprestart() - リンクヘストリームをリセットする

この機能はリンク交換データを受け入れるために、特定の接続に対して現在使用中のストリームをリセットする。この機能ははめ込まれたリンクを交換データの別のタイプへ挿入するか、あるいは前のリンクのデータに対して別のデータタイプに切り換えた後リンクを送り始めるために呼び出

ビスを用いて、データを送ったり、受け取ったりするために使用できる。APopfinish()はこの機能が不首尾のときに呼び出すべきである。さもなければ、接続が設定されるとマッチメーカーがクリヤーされる。

入力パラメータ

- 接続が希望されるオペレーションのID

出力パラメータ

- 他方のアプリケーションが通知したオペレーションコードを受け取る変数に対するポインタ
- 2種類のアプリケーションの間でマッチしたデータタイプの数のカウントを受け取る変数に対するポインタ

- 2種類のアプリケーションの間でマッチしたデータタイプを記述し、「データタイプ」をAPDATALISTENDにセットしたエントリにより停止されたAPDATASPEC構造のアレイへのポインタを受け取る変数に対するポインタ、もしポインタがNULLであるとすれば、仕様は何ら戻されない。これ以上必要とされないのであれば、アレイにより

-253-

-274-

-254-

しできる。この機能は新しいストリームを作成することができない。ストリームは現在のリンク交換ストリームとなる。この機能を呼び出した後、他のLNKp()機能を用いてリンクとリンクデータとをストリームに投入することができる。

19.4.8. LNKpLink()—リンクをストリームに入れる

この機能は既存のリンクを現在のリンクのストリームに入れる。親のオブジェクトは前に定義したリンクを有しており、いずれかの関連したリンク仕様とデータとが前に識別したリンクファイルに記憶されているものと想定される。リンクの他に、該リンクに関連した仕様とデータとがストリームに入れられる。リンクの挿入を完了させるために、他の交換サービスへの呼び出しは必要でない。この機能は多数のリンクを現在のストリームに投入するため繰返し呼び出せばよい。

19.4.4. LNKpnewlink()—新しいリンクをストリームに入れる

この機能は現在のリンクのストリームで新しい

-255-

()機能を使用してデータを送り続けるべきである。もしストリームが最初にリンク交換ストリームであった場合、この機能がストリームを完成させ、バッファされたいずれかのデータを接続の他端でコンシューマへ送る。この機能は接続を終了させはしない。

19.4.6. LNKpinit()—リンクストリームの読みを開始する

この機能は新しいリンク交換ストリームの読み取りを開始する。新しいストリームが現在交換ストリームとなる。一時に使用中のストリームは1個しかありえないことに注目のこと。リンク交換データは所定の接続上を到来しているものと想定される。この機能を呼び出した後、他方のLNKg()機能を使用してストリームからリンクおよびリンクデータを取得できる。

19.4.7. LNKprestart()—ストリームをリンクにリセットする

この機能は特定の接続にストリームをリセットしてリセット交換データを読み取る。この機能は、

(65) リンクを構成する。呼び出し者は、リンクを設定すべきオブジェクトのIDを供給する。受け取る方のアプリケーションは、それがリンク交換情報を受け取るとオブジェクトへリンクを正式に設定する。リンクに関連したリンクデータがあるとすれば、データフラグはセットし、かつ有効なデータタイプとリンク仕様を提供すべきである。次いで呼び出し者は適当な交換サービスを用いてリンクデータをストリームにセットすべきである(XXXprestart()機能への呼び出しから開始する)。LNKprestart()は終了するとリンクストリームへ戻るよう呼び出される。この機能は多数のリンクを現在のストリームに入れるために繰り返し呼び出せばよい。

19.4.5. LNKpfinish()—リンクストリームの構成を終了する

この機能は現在のリンク交換ストリームの構成を終了する。もしリンク交換が別のデータタイプ内にはめ込まれていたとすれば、再びそのデータタイプは現在のデータタイプとなり、XXXprestart

-256-

別のタイプの交換データにはめ込まれたリンクを読み取り、あるいは前のリンクのデータに対して別のデータタイプに切り換えた後リンクの読み取りを再開するよう呼び出すことができる。この機能を呼び出した後、他のLNKg()機能を用いてストリームからリンクおよびリンクデータを読み取ることができる。

19.4.8. LNKgLink()—次のリンクをストリームで取得する

この機能は現在のリンク交換ストリームで次のリンクを取得する。この機能は指示された親オブジェクトに対するリンクを作成し、いずれかのリンク仕様と関連のデータとを指示されたリンクファイルに記憶し、新しいリンクを識別すべくリンクIDを戻す。リンクに関連したコピーフラグが指示すれば、オブジェクトはコピイされ、リンクは新しいオブジェクトに対して設定される。新しいリンクはオブジェクトカタログと整合し、そのため親オブジェクトが新しいリンクを保持するものとして整合する。またこの機能はリンクされた

-257-

-275-

-258-

オブジェクトのオブジェクトタイプと、データがリンクに関連しているか否か指示するフラッグと、介在した場合のデータのデータタイプとを戻す。LNKginit()またはLNKgrestart()を呼び出しているときに何らリンクファイルが特定されていなかったとすれば、リンク仕様とデータとは離却される。データを記憶するためのリンクファイルが全く利用できないとしてもフラッグとデータタイプとは戻される。現在のストリームから多数のリンクを取得するためにこの機能を繰り返し呼び出せばよい。

19.4.9. LNKgskip()—ストリームで次のリンクをルックアップする

この機能は現在のリンク交換ストリームにおける次のリンクについての情報を戻す。この機能は実際にはリンクを作成しない。この機能は、リンクのオブジェクトタイプあるいはデータタイプをリンクを受け取る前に検査する必要のある場合に使用すべきである。この機能を呼び出した後は、LNKglink()またはLNKgskip()を呼び出してリンク

(66)を処理すべきである。

19.4.10. LNKgskip()—ストリームで次のリンクをスキップする

この機能は現在のリンク交換ストリームで次のリンクをスキップする。LNKgskip()が丁度リンクを検査するために呼び出され、かつエラーを戻していないものと想定する。この機能を呼び出した後、LNKglink()またはLNKgskip()のいずれかを呼び出して次のリンクを処理すべきである。

19.4.11. LNKgfinish()—リンクストリームの読み取りを終了する

この機能は現在のストリームからのリンク交換データの読み取りを終了する。もし別のデータのタイプにリンク交換がはめ込まれていたとすれば、そのデータタイプは再び現在のデータタイプとなり、そのXXXgrestart()機能を用いてデータの読み取りを継続すべきである。もしストリームが初めはリンク交換ストリームであったとすれば、この機能はストリームの処理を終了し、それ以上は使用できない。通常この機能は、LNKglink()または

-259-

LNKgskip()がLNXEENDを戻した後のみ呼び出されるべきであるが、リンク交換ストリームを処理している間はいつでも呼び出すことができる。

19.5. テキストの交換

19.5.1. TXPinit()—テキストのストリームの構成を開始する

この機能はテキストストリームの構成を開始する。新しいストリームが現在の流れとなる。所定の接続に対して作用するのは1個のストリームのみであることに注目のこと。この機能を呼び出した後、他のTXP()機能を用いてテキストとテキストデータをストリームに入れることができる。告警がストリームでのヘッダ情報の一部として転送され、かつ後で転送できるように記憶される。

19.5.2. TXPrestart()—ストリームをテキストにリセットする

この機能は特定の接続において現在使用中のストリームをリセットしてテキストを受け入れる。この機能はテキストを別のタイプの交換データへ挿入するか、あるいは前にはめ込んでいたデータ

-260-

用の別のデータタイプに切り換えた後テキストの転送を再開するために呼び出すことができる。この機能は新しいストリームの作成はできない。ストリームは現在の交換ストリームとなる。この機能を呼び出した後、その他のTXP()機能を用いてテキストをストリームに入れることができる。

19.5.3. TXPstring()—テキストストリングをストリームに入れる

この機能はテキストのストリングを現在のテキストストリームへ入れる。このストリングはテキストのレイアウトを制御するためにラインフィードとフォームフィードとを含みうる。これらのキャラクタを備えないストリームは、受け取る方のアプリケーションと文脈とに応じて異なる要領で扱われる。この機能はまた、行間の間に明らかに垂直降下移動指令が与えられると有用なキャラクタリターンを含むこともできる。

19.5.4. TXPchar()—單一キャラクタをストリームへ入れる

この機能は單一のキャラクタを現在のテキスト

-261-

-276-

-282-

のストリームへ入れる。

19.5.5. TXXfont()—現在のフォントを変える

この機能はセットされたフォント指令を現在のテキストストリームへ挿入し、後続のキャラクタのフォントを変える。もしフォントのidとして0の値が選されると、フォントは伝送の開始時に特定された省略時フォントにセットされる。

19.5.6. TXXpattr()—テキストの属性をセットする

この機能は使用可能／使用不能属性指令を現在のテキストのストリームに挿入する。この指令は、保持、アンダライニング、ダブルアンダライニングおよびストライクスルーというテキストの属性をセット／リセットするために使用される。これらの値は再びこの指令により変えられるまで有効のままである。

19.5.7. TXXpdiseritic()—区別の発音符を挿入する

この機能は区別の発音符を備えたキャラクタを現在のテキストの流れに挿入するために使用され

-263-

に対して、あるいは大きな白紙の部分をスキップするために使用される。この移動は水平位置には影響を与えないため、前のテキストにキャリッジを戻して後続させるべきである。

19.5.11. TXXphorizontal()—水平移動指令を出す

この機能は水平移動指令を現在のテキストストリームへ挿入する。水平移動指令により左右への運動を許容する。ストライクスルーとアンダライン属性とを白紙部分に適用したり(ペンドゥンで移動)あるいは適用しない(ベンアップ移動)ようになる。

19.5.12. TXXpspacing()—行間間隔指令を出す

この機能はセットされた行間間隔指令を現在のテキストストリームへ挿入する。セットされた行間間隔指令が所定のフォントに対して省略時間隔をオーバライドするよう使用される。もし得られた値が正であればその値は自動スペーシングに使用され、もし得られた値が0であれば、自動スペーシングは何らなされない。もし得られた値が負であれば、

(67) 5.

19.5.8. TXXstrikethru()—ストライクスルーキャラクタをセットする

この機能はストライクスルーキャラクタ命令を現在のテキストストリームへ挿入する。

19.5.9. TXXscript()—スクリプトオフセットをセットする

この機能はセットされたスクリプトオフセット指令を現在のテキストストリームへ挿入する。セットされたスクリプトオフセット指令はテキストのベースラインに対する次のスクリプト(スーパー、あるいはサブ)の距離と方向とをセットするために使用される。(スクリプトオフセットをフォントサイズの省略値にセットし戻すために)プリントする際に有効である零の値は、テキストの伝送時に選されるとエラーを戻す。

19.5.10. TXXprerelief()—垂直隣下移動指令を出す

この機能は垂直隣下移動指令を現在のテキストの流れへ挿入する。垂直隣下移動指令は行間間隔

-264-

省略時値が再び使用される。

19.5.13. TXXplanguage()—言語変更指令を出す

この機能は言語変更指令を入力ストリームへ挿入する。この指令はその後のテキストが異なる言語であることを指示するために使用される。

19.5.14. TXXplink()—リンクをストリームへ入れる

この機能は別のオブジェクトへのリンクを現在のテキストのストリームへ挿入する。この機能を呼び出した後、LNXprestart()を呼び出して他のLNXp()機能への呼び出しを準備すべきである。リンクを挿入することは、リンクの実際のデータを合入するために他のデータ交換タイプも含むことができる。全体のリンクが送られた後、TXXprestart()が呼び出されテキストストリームを再び送り始めるべきである。

19.5.15. TXXplinish()—テキストストリームの構成を終了する

この機能は現在のストリームへのテキスト交換

-265-

-277-

-266-

テキストにリセットする

データの構成を終了する。もし別のデータタイプにテキスト交換がはめ込まれると、そのデータタイプが再び現在のデータタイプとなり、その`XXX_prestart()`機能を用いてデータを送り続けるべきである。もしストリームが初めテキスト交換ストリームであったとすれば、この機能はストリームを完成させ、いずれかのバッファしたデータを接続の他端においてコンシューマへ送る。

19.5.16. `XXXinit()`—テキストストリームの読み取りを開始する

この機能はテキスト交換ストリームの読み取りを開始する。この機能はストリームの第1の部分が接続の他端から到来し、次いでテキストについての省略時の情報をストリームに戻すのを待機する。新しいストリームは現在の交換ストリームとなる。所定の接続において使用可能な流れは1つのみでありえない。この機能を呼び出した後、他の`XXXg()`機能が使用され流れからテキストデータを取得するために使用できる。

19.5.17. `XXXgrestart()`—ストリームをバニ

-267-

機能を`XXXgrestart()`への呼び出しに統いてリンクを取得するよう用いてテキストの取得を続行すべきである。

19.5.19. `XXXgstringsize()`—次のストリングの長さを取得する

この機能は、ストリームにおいて次にあるテキストのストリングの長さを戻す。この長さを用いて`XXXtext()`への呼び出し用バッファを準備すべきである。

19.5.20. `XXXgstring()`—ストリームからテキストストリングを取得する

この機能は現在のテキストストリームからテキストのストリングを取得する。

19.5.21. `XXXgchar()`—ストリームからキャラクタを取得する

この機能は入力ストリームから單一のキャラクタを取得する。

19.5.22. `XXXgfont()`—現在のフォントを取得する

この機能は、入力ストリームにおいて次である。

この機能は特定の接続で現在使用中のストリームをリセットしてテキスト交換データを読み取る。この機能は別のタイプの交換データにはめ込まれたテキストを読み取り、あるいは前にはめ込んでいたデータに対する別のタイプに切り換えた後テキストの読み取りを再開するよう呼び出しできる。ストリームは現在の交換ストリームとなる。この機能を呼び出した後、他の`XXXg()`機能を用いてストリームからテキストデータを読み取ることができる。

19.5.18. `XXXgnext()`—データの次のタイプを入力ストリームで取得する

このルーチンは入力ストリームにおけるデータの次のタイプを検出する。次いで、そのデータを処理するのは呼び出し者の責任である。データを検索することのないこのルーチンへの第2の一連の呼び出しはデータをスキップし、入力ストリームにおける次のデータのタイプに戻す。この機能はデータ指示の終りに戻す。

注:もしタイプが`XXXLINK`であるとすれば`LINKg()`

-268-

セットされたフォント指令に規定されたフォントに戻す。もしセットされたフォント指令が入力ストリームにおける次のデータタイプでないとすれば、最後にセットされたフォント指令に規定された現在のフォントが戻される。もし省略時のフォントがセットされていないとすれば、零フォントが戻される。

19.5.23. `XXXgattr()`—テキストの属性を取得する

この機能は、入力ストリームにおいて次である。使用可能/使用不能属性指令からの属性値を戻す。そのような指令が次でないとすれば、この機能はこれまで出会った最後のそのような指令からの値あるいは省略値(即ち全ての属性が無い)を戻す。

19.5.24. `XXXgdiscritic()`—区別的発音符を取得する

この機能は、キャラクタと入力ストリームで次にある区別的発音符を取得するために使用される。

19.5.25. `XXXgstrikethru()`—ストライクスルーキャラクタを取得する

-269-

-278-

-270-

この機能は現在のテキストストリームから新しいストライクスルーキャラクタを取得する。

19.5.26. TXXscript()—スクリプトオフセットを取得する

この機能は、入力ストリームで次にある、セットされたスクリプトオフセット命令からのスクリプトオフセットの値を戻す。もしそのような指令が次にないとすれば、この機能は最後のそのような指令からの値を戻す。

19.5.27. TXXvertical()—垂直降下移動指令を取得する

この機能は、入力ストリームにおいて次にある垂直降下移動指令取得する。

19.5.28. TXXhorizontal()—水平移動指令を取得する

この機能は、入力ストリームにおいて次にある水平移動指令を取得する。水平移動指令により左右の移動を許容する。ストライクスルーよりアンダーライン属性を白紙に適用するか(ペンダウンで移動)あるいは適用しない(ペンアップ移動)よ

(69) うにできる。

19.5.29. TXXspacing()—行間スペーシングを取得する

この機能は、入力ストリームにおいて次にあるセットされた行間スペーシング指令における行間距離の値を戻す。もしそのような指令が前記ストリームにおいて次になれば、最後に出会ったそのような指令の値が戻される。

19.5.30. TXXlanguage()—ストリームから言語変更指令を取得する

この機能は入力ストリームにおいて次にある言語変更指令を取得する。もし言語変更指令が次にないとすれば、この値は最後のそのような指令あるいはヘッダからの値を戻す。

19.5.31. TXXfinish()—テキストストリームの読み取りを終了する

この機能は現在のストリームからのテキスト交換データの読み取りを終了する。もしテキスト交換が別のデータタイプ内にはめ込まれていたとすれば、そのデータタイプは現在のデータタイプとな

-271-

り、そのTXXrestart()機能を用いてデータの読み取りを継続すべきである。もし次のストリームが頭切からテキスト交換ストリームであったとすれば、この機能はストリームの処理を停止させ、それ以上は使用できない。

19.6. レコードの交換

19.6.1. REXPinit()—バニラレコードストリームの構成を開始する

この機能はバニラレコード交換ストリームの構成を開始する。新しいストリームが現在の交換ストリームとなる。所定のオペレーションには1個のストリームしか使用できないことに注目のこと。この機能を呼び出した後、その他のREXP()機能を用いてレコードをストリームに投入することができる。

19.6.2. REXPrestart()—バニラレコードストリームをリセットする

この機能は特定のオペレーションにおいて現在使用中のストリームをリセットするバニラレコード交換データを受け入れる。この機能は、はめ込

-272-

まれたレコードを別のタイプの交換データへ挿入するか、あるいは前にはめ込まれたデータに対して別のデータタイプに切り換えた後レコードを再び送るために呼び出すことができる。この機能を呼び出した後、他のREXP()機能を用いてレコードをストリームに投入することができる。

19.6.3. REXPheader()—ヘッダレコードを構成する

この機能はヘッダレコードを現在の交換ストリームへ構成する。レコードは入力パラメータ値に基き構成される。不明の値はNULLとして通過させるべきである。

サブタイプフィールドはアプリケーションに柔軟性をもたらせるためのものである。もしアプリケーションがサブタイプ修飾子付のレコードを生成させる意図の場合、サブタイプidsをAPPACKに整合させるべきである。このためサブタイプフィールドは全てのアプリケーションを過して一意のままとしうる。

19.6.4. REXPinit()—レコード記述子を開

-273-

-279-

-274-

並する

この機能は現在の交換システムにおいてレコード記述子を開始させる。この機能はレコード記述子当り1回呼び出される。

サブタイプのフィールドはアプリケーションに柔軟性を提供するためのものである。アプリケーションがサブタイプ修飾子を備えたレコードを生成させる意図の場合サブタイプidをAPPACKに整合させるべきである。このためサブタイプフィールドは全てのアプリケーションを通して一意のままとしうる。

19.6.5. REXpdesc()—フィールド記述子を構成する

この機能は現在の交換ストリームにおいてフィールド記述子を構成する。この機能はレコード記述子の各フィールドに対して1回呼び出すべしである。

19.6.6. REXpfini()—レコード記述子を終了する

この機能は完全なレコード記述子の終りをマー

(70) クする。本機能はレコード記述子当り1回呼び出される。

19.6.7. REXpdimi()—データレコードを構成する

この機能はデータレコードを初期化する。この機能はデータレコード当り1回呼び出される。

サブタイプフィールドはアプリケーションに柔軟性を提供するためのものである。もしアプリケーションがサブタイプ修飾子付のレコードを生成させる意図であれば、サブタイプidをAPPACKに整合させるべきである。このため全てのアプリケーションを通してサブタイプフィールドが一意のままとしうる。

19.6.8. REXpdata()—データフィールドを構成する

この機能は現在の交換システムにおいてデータフィールドを構成する。入力データタイプは対応する標準的な交換フォーマットに変換される。この機能はデータレコードの各フィールド当り1回呼び出される。

-275-

-276-

19.6.9. REXpfini()—データレコードを終了する

この機能は完全なデータレコードの終りをマークする。この機能はデータレコード当り1回呼び出される。

19.6.10. REXpfinish()—バニラレコードストリームの構成を終了する

この機能は現在のストリームにおけるバニラレコード交換データの構成を終了する。もしバニラレコード交換が別のデータタイプ内にはめ込まれたとすれば、そのデータタイプは再び現在のデータタイプとなり、そのAPIXpreset()機能を用いてデータを送り続けるべきである。もしストリームが最初からバニラレコード交換ストリームであったとすれば、この機能はストリームを完成させ、バッファされたいずれかのデータをオペレーションの値方の終りにおいてコンシューマに送る。次いでストリームが了し、それ以上使用されない。

19.6.11. REXginit()—バニラレコードストリームの読み取りを開始する

この機能はバニラレコード交換ストリームの読み取りを開始する。この機能はストリームの最初の部分がオペレーションの値方においてサーバから到來するのを待機する。新しいストリームが現在の交換ストリームとなる。所定のオペレーションで使用できる流れは1つのみであることを注目のこと。バニラレコード交換データのリクエストがすでにサーバへ送られており、満足な応答が受け取られたものと想定する。この機能を呼び出した後、他のREXg()機能を用いてストリームからレコードを取得するよう使用できる。

19.6.12. REXgrestart()—ストリームをバニラレコードにリセットする

この機能は特定のオペレーションにおいて現在使用中のストリップをリセットしてバニラレコード交換データを読み取る。この機能は、はめ込まれたレコードを別のタイプの交換データから読み取るか、あるいは前にはめ込んだデータに対して別のデータタイプに切り換えた後レコードの読み取りを再開するために呼び出すことができる。このスト

-277-

-280-

-278-

リームは現在の交換ストリームとなる。この機能を呼び出した後、他のREXg()機能を用いてストリームからレコードを読み取ることができる。

19.6.13. REXgtype()—次のレコードタイプを取得する

この機能はレコードタイプの値とサブタイプとを戻す。どのタイプのレコードが後続するかを検出し、それを正確に処理するのはコンシューマの責任である。データ転送の終りはエラーとしてこの機能により戻されることに注目することが重要である。

19.6.14. REXgheader()—ヘッダレコード情報を取得する

この機能は現在の交換ストリームにおいてヘッダレコード情報を戻す。

19.6.15. REXgfdesc()—次のフィールド記述子を取得する

この機能は次の順のフィールド記述子を戻す。レコード記述子の終りはこの機能からエラーとして戻されることを注目することが重要である。

(71) フィールド記述子をデータタイプに基いて正確に処理することはコンシューマの責任である。

19.6.16. REXgdata()—次のデータフィールドを取得する

この機能はフィールドデータとタイプとを戻す。データレコードの終りはこの機能から戻されることを注目することが重要である。どのタイプのデータを処理すべきか検出することはコンシューマの責任である。タイプ依存型情報についてはAPRXFDATA構造の定義を参照のこと。またバニラレコードデータ構造を参照。

19.6.17. REXgnext()—次のレコードタイプにスキップする

この機能は所定タイプの次のレコード、レコード記述子あるいはデータレコードを見付ける。タイプはユーザが指定する。

19.6.18. REXgfinish()—バニラレコードストリームの読み取りを終了する

この機能は現在のストリームからバニラレコード交換データの読み取りを終了する。もしバニラ

コード交換が別のデータタイプにはめ込まれていたとすれば、そのデータタイプが再び現在のデータタイプとなり、そのAPXgreset()機能を用いてデータの読み取りを継続すべきである。もしストリームが最初バニラレコード交換ストリームであったとすれば、この機能はストリームの処理を停止し、それ以上は使用されない。

20. RESPACK機能呼び出し

20.1. 資源ファイルアクセス機能

20.1.1. RESopen()—資源ファイルを開ける

この機能は読み出し専用アクセスのために既存の資源ファイルを開ける。アプリケーションは資源ファイルを何枚開けててもよい。

20.1.2. RESfinish()—資源ファイルのリストを開ける

この機能は呼び出し者が特定する資源ファイルのリストを開ける。各ファイルの名前は呼び出し者が選んだストリング、プログラムの省略時言語コード、およびプログラム自体がそこから来たカタログあるいはライブラリからの情報の経路から

構成される。ファイルは読み出し専用アクセスに対して開かれる。

この機能に選択されたパラメータリストは不变であって、実行すべきアクションによって決まる。第1のパラメータは常にインターナショナル位置コードである。これに続き、多数のフラッグ/ストリングのペアがあり、ここでフラッグが聞くべきファイルのタイプ(システム資源ファイル、言語依存型アプリケーション資源ファイルあるいは言語とは独立したアプリケーション資源ファイル)を特定し、ストリングが開けるべきファイルの名前または接頭語を特定する。あるフラッグの値は後続のストリングポインタを必要としない。パラメータリストは常にRESPENDのフラッグと共に終了する。

パラメータストリングのフォーマットとファイル名前を構成する方法とはシステムによって決まる。この機能は開かれたファイルのファイルIDは戻さない。プログラムは、各資源に対して入手可能な全ての資源ファイルを逐一探索するも

のと想定される。もしファイルの1箇を開ける際エラーを経験すると、その他全てのファイルも開かれ、エラーは戻される。

20.1.8. RESclose()—資源ファイルを閉じる

この機能はRESopen()により開かれた資源ファイルを閉じる。

20.2. 資源アクセス機能

20.2.1. RESget()—資源を取得する

この機能はユーザのファイルあるいは資源ファイルにおいて資源を見つける。タイプがマッチすれば、この機能は資源用の省略時ヒープからのスペースを割り当て、メモリへ読み取り、ポインタをその資源のメモリコピイまで戻す。タイプがマッチしなければエラーが戻される。

タイプパラメータがRESTANYであるとすれば、いずれの資源タイプともマッチし、ミスマッチエラーは戻されない。

成功すれば、資源はユーザのプロファイルあるいは、もしユーザプロファイルで見つからなければ開かれた資源ファイルの1箇から読み取られる。呼び

(72) 出し者が資源を見つけると、本機能はRESrelease()
()を呼び出すことにより解放され、そのためヒープの前記スペースは再生利用しうる。

入力パラメータ

—検索すべき資源の I D

—実際の資源タイプを妥当化すべき資源の期待されるタイプあるいはRESTANY

出力パラメータ

—資源に対するポインタが記憶されている領域へのポインタ

—資源のサイズが記憶されている変数へのポインタ。もしNULLであれば、サイズは戻されない。

20.2.2. RESget()—多数資源を取得する

この機能は多数の資源を省略時のヒープへ読み取り、それらのポインタを戻す。ある環境下では、この機能はアクセスすべき各資源に対して、RESect()
()を呼び出すことよりも顕著な性能上の利点を提供しうる。タイプの妥当性が得られないと資源のサイズは戻されない。もし資源が見つからなければ、資源へのポインタはNULLにセットされ、

エラーが戻されるが、その他全ての資源はいずれにしても読み出される。もしRESUNDEFINED以外の何らかのエラーが読み取りの間に発生すれば、全てのポインタはNULLにセットされ、全ての割り当てられたスペースが自由とされ、エラーが戻される。

資源がもはや必要とされないと、RESrelease()
()を読み取られた各資源に対して呼び出しそれにより占有されていたスペースを割り当て直すようにすべきである。

入力パラメータ

—検索すべき資源 I D のアレイの始まり

—検索すべき資源の数

出力パラメータ

—資源へのポインタが記憶されるアレイの始まり

20.2.3. RESpoint()—資源へのポインタを取得する

この機能は資源の一部へのポインタは戻す。この機能は、資源が潜在的に極めて大きく、かつア

プリケーションがそれをバッファにコピイするというオーバヘッドを排除したいと希望するときに呼び出すべきである。資源の断片はアプリケーションに提供しうるが、修正はできない。資源を修正しようと試みても予想の出来ない結果をもたらす。資源がもはや必要とされなくなれば、RESrelease()
()を呼び出すべきである。

一時にマッピング可能な資源の断片の数は極限されている。最大数の断片数に達すると、既存の断片に対してRESrelease()
()を呼び出すことなく別の断片のポインタを得ようとしてもエラーを発生させる。

特定されたオフセットが資源サイズより大きい場合、エラーは戻される。長さをプラスした特定オフセットが資源のサイズより大きいならば、異なるエラーが戻され、資源はいずれかにマッピングされる。

入力パラメータ

—検索すべき資源の I D

—検索すべき資源内のオフセット

-必要な資源データの量(バイト)

出力パラメータ

一資源へのポインタが記憶される領域へのポインタ

20.2.4. RESrelease() - 資源を解放する

この機能はメモリでの資源のコピーを解放することによって、必要ならスペースを再生利用できる。この機能はHPfree()直接呼び出しでなくむしろ常に利用すべきである。

入力パラメータ

一RESget()、RESaget()あるいはRESpoint()により戻される資源データポインタ

出力パラメータ

一無

20.2.5. RESread() - 資源を読みる

この機能は資源の全部または一部をユーザが特定の領域へ読み取る。もし提供されたバッファが要求された資源のサイズより大きいか、あるいは資源がバッファより大きければエラーが戻されるが、資源は依然としてバッファに置かれる。

-287-

ユーザが特定した情報構造は要求された情報と共に充てんされるユーザの変数に対するポインタを含むべきである。もし前記構造におけるフィールドがNULLの場合、その情報は戻されない。さもなければ情報はフィールドにより指摘された変数にセットされる。もし名称、記述あるいはリテラルフィールドがセットされるとすれば、適当なテキストストリングが省略時のヒープに読み取られ、零で終り、呼び出し者のポインタはそこを指すようセットされる。この場合、呼び出し者は、ストリングがもはや必要とされないならばHPfree()で割り当てられたスペースを解放する必要がある。そのようなストリングの無い場合、呼び出し者のポインタはNULLにセットされる。

20.3. 資源ファイル管理機能20.3.1. REScreate() - 資源ファイルを作成する

この機能は新しい資源ファイルを作成し、そのファイルに対して編集オペレーションが実行できるようにする。minidおよびmaxidがファイルで作

(73) 入力パラメータ

一検索すべき資源の I D

一読み取りされている資源内のオフセット

一読み取るべき資源のバイト数

出力パラメータ

一資源データが記憶される領域へのポインタ

20.2.6. RESlookup() - 所定の名前で資源を見つける

この機能は、特定の名前を有する資源の I Dと、その内で資源が発見されたファイルの I Dとを戻す。その名前の資源がない場合、エラーが戻される。特定の名前で資源が見つかるが、より最近に開かれたファイルには同じ資源 I Dを有する別の資源がある場合、資源とファイルの I Dがセットされるが、エラーは依然として戻される。この理由は、資源 I Dを資源のアクセスに使えないからである。

20.2.7. RESgetinfo() - 資源に関する情報を取得する

この機能は資源に関する情報を戻す。

-288-

成しうる最小と最大の資源 I Dsを定義する。この範囲より外の I Dでファイルに資源を作成しようととしてもエラーを戻すことになる。一旦ファイルが作成されると、これらの値は決して変更できない。

20.3.2. RESredit() - 資源ファイルを修正する

この機能は資源エディタが既存の資源ファイルの中味を修正できるようにする。この機能は該ファイルに対する最低および最高の合法的な資源 I Dを戻す。

20.3.3. RESview() - 資源ファイルを検査する

この機能は資源エディタがユーザファイルから干渉されることなく、RESgetnext()、およびRESgetprev()による走査を含み、資源ファイルの中味を検査できるようにする。ファイルは脱出し専用に開かれているので、資源は何ら修正されないが、編集されたファイルに適用されるその他の機能のいずれも使用可能である。

20.3.4. REScommit() - 資源ファイルの修正を行う

-289-

-283-

-290-

(74)

情報を取得

この機能は、RESFILEIDを戻す機能のいずれかにより開けられた資源ファイルへの修正を完了する。もしファイルがユーザプロファイルである場合、それも閉じられる。

資源ファイルになされた変更はファイルのパーマネントコピーに組み込むことができ、あるいは変更を捨てファイルを変えないままとし。もしファイルがRESredit()により開けられ、非変更パラメータがTRUEであれば、ファイルに対してなされた全ての変更は棄却される。もしファイルがRESfcreate()を用いて開けられたとすれば、それも削除される。もしパラメータがFALSEであれば、変更はファイルのパーマネントコピーへ組み込まれる。

このルーチンに通されて来た資源ファイルIDがRESappendt()を介して作成されたとすれば、ファイルIDは削除されるが、関連のプロファイルは影響されない。呼び出し者は依然としてプロファイルを閉じる責任がある。

20.3.5. RESgetinfo()—ファイルに関する情報

-291-

が戻される。

20.3.7. RESavail()—未使用の資源IDを取得する

この機能は、すでにある資源により使用されていない、ある特定範囲内の、ファイル内の最小または最高資源を戻す。この機能は、システムが生成の資源IDを選択する上で資源エディタにより使用される。

20.3.8. RESgetnext()—次の資源情報を取得する

この機能は、特定のファイルの特定の資源の後で物理的に位置した資源に関する情報を戻す。その引き数はRESIDBOFとなり、その場合そのファイルの最初の資源は戻される。もし特定の資源がファイルにおける最後の資源である場合、エラーは戻される。

20.3.9. RESgetprev()—以前の資源情報を取得する

この機能は、特定ファイルの特定資源の直前の資源に関する情報を戻す。引き数はRESIDEOFでよ

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

.

を自分自身で決定する必要がある。

20.3.11. RESrevert() - 最後のチェックポイント

この機能により、特定の資源ファイルを、それが最後のREScheckRpt()としておかれていいたのと同じ状態に戻されるようにする。その時点以来なされた全ての調査上の修正は棄却する。

20.3.12. RESfreeze() - 資源ファイルバージョンを凍結する

この機能は資源ファイルを修正して解放および分配の準備をさせる。もしnewverフラグがセットされると、外部のバージョン番号が増分される。もしelralterフラグがセットされるとすれば、(現在の調査セッションの間修正された資源を含む)全ての資源のRESPALTEREDフラグがクリヤされる。もしstripplitフラグがセットされるとすれば、全てのリテラルはサイズを小さくするために資源ファイルから除去される。

20.3.13. RESgtfver() - 資源ファイルバージョン番号を取得する

-285-

エラーは戻されるが、資源は依然としてバッファに位置される。

20.4.2. RESgtcur() - 現在の資源情報を取得する

この機能は、資源の情報になされたバージョンについての情報を戻すRESgtinfo()とは対照的に、資源の現在の状態についての情報を戻す。

呼び出し者は、資源に対しどのファイルを探索すべきか選定するか、調査のために用いている全てのファイル内での探索を規定しうる。この機能は、ファイルの間で資源の探索を行いうる唯一の調査機能である。その他の全ての調査機能に対して探索すべきファイルは明確に特定する必要がある。

情報構造は、要求された情報で充てんされるユーザ変数に対するポインタを含むべきである。前記情報構造におけるいずれかのフィールドがNULLであるとすれば、その情報は戻されない。さもなければ、情報はフィールドにより指摘された変数へセットされる。もし名称、記述あるいはリテラ

(75) この機能は資源ファイルに記憶されたバージョン番号のストリングを検索する。このバージョン番号は8キャラクタのフラッグでなければならぬ。資源ファイルがRESPACKにより作成されると、バージョン番号は「00.00.00」にセットされるが、いつでもRESptfver()を用いて変更しうる。

20.3.14. RESptfver() - 資源ファイルバージョン番号を入れる

この機能は8キャラクタのバージョン番号ストリングを資源ファイルにセットする。このストリングはRESgtfver()により検索できる。

20.4. 資源編集機能

20.4.1. RESrdcur() - 資源の現在のバージョンを読み取る

この機能は特定の資源ファイルから、資源の現在の値を読み取る。この機能は、バッファの未調査バージョンのみを戻すRESread()と対照的である。資源はユーザが提供したバッファへ読み取られる。もし提供されたバッファが要求された資源より大きいか、あるいは資源がバッファより大きければ、

-286-

ルフィールドがセットされるとすれば、適当なテキストストリングが省略時ヒープへ読み取られ、かつNULLで終るようにされ、呼び出し者のポインタは該ストリングにセットされる。この場合、呼び出し者は、ストリングがもはや必要とされなければEPfree()で割り当てたスペースを解放する必要がある。そのようなストリングがないとすれば、呼び出し者のポインタはNULLにセットされる。

20.4.3. RESrecreate() - 資源を作成する

この機能は特定ファイルにおいて新しい資源を作成する。資源は特定のパラメータで作成され、データは何ら含まない。もし資源が非常サイズで作成されるとすれば、そのデータ領域は零で充てんされる。資源はファイルにおけるいずれかの希望する相対位置で作成できる。

これは新しい資源を作成しうる唯一の機能である。

情報構造は新しい資源の属性に対するある値を含む。タイプおよびフラグフィールドは情報構造内で特定せねばならず、あるいはエラーが戻さ

れる。全ての他のフィールドは任意である。もしバージョンが特定されないとすれば、資源バージョンが内部資源ファイルバージョンにセットされる。

20.4.4. RESwrite() - 資源を書き込む

この機能はユーザにより提供されたデータを特定ファイルの設定資源に書き込む。資源にすでに介在している必要がある。資源にすでにデータが介在しているとすれば、古いデータを捨て、資源サイズが特定のカウントにセットされる。

20.4.5. RESrewrite() - 資源を重ね書きする

この機能はユーザにより提供されたデータを特定ファイルの既存資源に書き込む。これは、すでに資源にあるデータに追加するか部分的に重ね書きできる。

書き込みが始まるオフセットは資源の現在のサイズより小さいか、あるいは等しくあらねばならない。いずれのより大きい値もエラーを戻すようになる。特定のオフセットプラス長さが現在の資源サイズより大きいとすれば、このサイズは新しいデータを容容するためには増大する。

-299-

イルと同じ情報およびデータで宛て先ファイルにおいて作成される。コンフリクトがあれば、宛て先ファイルにすでにある資源が最初に取り消される。もしインデックスがコピイされつつあるとすれば、呼び出し側は古いインデックスを保持すべきか、複すべきかあるいは古いインデックスと新しいインデックスの中味を併合すべきか指定するオプションを有する。

この機能はそれ以上の構成を必要としない。

20.4.10. RESdelete() - 資源を削除する

この機能はファイルから資源を削除する。

20.5. 資源索引機能

資源インデックスは、任意的に分類され、全て单一の資源 I.D. に上り識別された单一の資源に記憶された均一サイズのエントリの単純なリストである。インデックスエントリは 3 種類の情報、即ちキー、データの任意チャヤンクおよび資源 I.D. を含む。キーが与えられると、呼び出し者は資源インデックスにおけるそのキーでエントリを探し、その結果そのキーと関連したデータと資源 I.D. と

(76)

20.4.6. RESputinfo() - 資源に関する情報を入れる

この機能は資源に関する情報をセットする。もし資源のサイズが増えると、新しい資源スペースは席で充てんされる。

この情報構造はセットすべき値へのポインタを含むべきである。情報構造におけるいずれのフィールドも NULL であるとすれば、資源の対応する属性は不变のままとされる。フラグの中の RESPHANED フラグが使用されず、情報構造に記憶された名前ポインタから再び取り出される。

20.4.7. RESmove() - 資源を新しい位置へ移す

この機能は既存の資源を資源ファイルの新しい位置まで移す。

20.4.8. RESputnum() - 資源の番号を付け直す

この機能は特定の資源の資源 I.D. を変える。

20.4.9. RESmerge() - 資源リストをファイルに併合する

この機能は一方のファイルから他方のファイルへ資源のリストを併合する。資源は通常原始ファ

-300-

を受け取ることができる。もしインデックスが分類されるとすれば、全てのエントリはそれらのキーの順に配列される。もしエントリの資源 I.D. が別の資源インデックスの I.D. と定義されるとすれば、インデックス構成者は多くのレベルの階層の関連資源インデックスを作成することができる。

20.5.1. RESixinit() - 資源インデックスの構成を開始する

この機能は資源インデックスの構成過程を初期化させる。呼び出し者はキー・タイプを特定し、インデックスの挙動を分類して、資源インデックスが構成されるにつれて資源を識別するために使用すべき I.D. を受け取る。この機能は資源を資源ファイルに入れない。呼び出し側は資源のファイルへの投入を別のオペレーションにおいて行う必要があり、そうする前に RESixfini() を呼び出す必要がある。

minid、maxid および restype パラメータが割り出すべき資源に関する情報を提供する。これらの

フィールドはRESPACKによっては全く使用されず、呼び出し側の便宜上インデックスに関する情報を記憶するためのものである。

20.5.2. RESixprep()—既存インデックスの修正を開始する

この機能は、ファイルから読み出されるにつれて資源インデックスへのポインクを取り、その修正可能なコピイへのポインタを戻す。この機能は他のRESix()機能のいずれかか呼び出される前に行うべきである。いずれにしても入力ポインタは修正されない。もし(例えばRESget()により)ヒープから割り当てられたとすれば、呼び出し側はそれを解放すべきである。

20.5.3. RESixadd()—資源インデックスエントリを追加する

この機能は特定のキー、データおよび資源IDで新しい資源インデックスエントリを構成し、所定の資源インデックスへ挿入する。分類したリストに対して、エントリは組合順序内の適正位置で挿入される。未分類のリストに対しては、エント

(77) リはリストの表りに付属される。提供されたRESIXIDはRESixexit()またはRESixprep()への呼び出しにより戻されたものと想定する。

20.5.4. RESixdelete()—資源インデックスエントリを削除する

この機能は資源インデックスから特定のエントリを削除する。提供された資源IDはRESixexit()またはRESixprep()の呼び出しにより戻されたものと想定する。

20.5.5. RESixfini()—資源インデックスの構成を終了する

この機能は資源インデックスの構成過程を完了させ、かつ資源ファイルに追加可能な資源を戻す。この機能は実際にはRESixprep()により実行されたオペレーションの逆である。戻された資源はヒープから割り当てられ、そのため資源ファイルに挿入された後、EPfree()を呼び出すことにより解放すべきである。

20.5.6. RESixlookup()—資源インデックスエントリをルックアップする

-303-

この機能は特定の資源インデックスを取得し、所定のキーで該インデックスを通してエントリを探索し、そのキーに関連したデータと、資源IDとを戻す。この機能は探索を終った後資源インデックスを解放する。もし単一の資源インデックスを通してのマルチパスが必要であれば、RESget()、RESixprep()およびRESixget()を用いる方が速くなる。

20.5.7. RESixulookup()—USHORTエントリをルックアップする

この機能は特定の資源インデックスを取得し、所定のキーで、該インデックスを通してエントリを探索し、そのキーに関連した資源IDを戻す。この機能はUSHORTのキータイプを備えた資源インデックスに対してのみ使用可能である。インデックスデータはこの機能によって戻されないので、エントリデータを取得するにはRESixget()を使用のこと。この機能により探索を終った後資源インデックスを解放させる。単一の資源インデックスを通してのマルチパスが必要であるとすれば、

-304-

RESget()およびRESixufind()を用いる方が速い。

20.5.8. RESixllookup()—ULONGエントリをルックアップする

この機能は特定の資源インデックスを取得し、所定のキーで該インデックスの中でエントリを探索し、そのキーに関連した資源IDを戻す。この機能はULONGのキータイプを備えた資源インデックスに対してのみ使用可能である。インデックスエントリはこの機能によって戻されず、エントリデータを取得するにはRESixget()を用いること。この機能は探索終了後資源インデックスを解放する。もし単一の資源インデックスを通してのマルチパスが必要であるとすれば、RESget()およびRESixfind()を用いる方が速い。

20.5.9. RESixslookup()—ストリングエントリをルックアップする

この機能は特定の資源インデックスを取得し、特定のキーで該インデックスの中でエントリを探索し、該キーに関連した資源IDを戻す。この機能はストリングのキーを備えた資源イン

デックスに対してのみ使用可能である。インデックスエントリデータはこの機能によって戻されず、エントリデータを取得するにはRESixget()を用いること。この機能は探索終了後、資源インデックスを解放する。もし単一の資源インデックスを通過するマルチパスが必要であるとすれば、RESget()およびRESixfind()を用いる方が速い。

20.5.10. RESixfind()—USHORTエントリをルックアップする

この機能は所定のキーで所定の資源インデックスのエントリを探索し、そのキーに関連した資源IDを戻す。この機能はUSHORTのキータイプを備えた資源インデックスに対してのみ使用可能である。インデックスエントリデータはこの機能によって戻されないので、エントリデータを取得するにはRESixget()を用いること。

20.5.11. RESixfind()—ULONGエントリを見出す

この機能は所定のキーで所定の資源インデックスのエントリを探索し、そのキーに関連した資源

-307-

でエントリを取得する

この機能はインデックス内のその位置により特定された、資源インデックスのエントリを戻す。もし特定のエントリが存在していないとすれば、何ら情報は戻されない。

20.5.15. RESixinfo()—資源インデックスに関する情報を取得する

この機能は資源インデックスを記述した情報を戻す。資源インデックスは資源アクセス機能の1つを呼び出すことによりすでに集められているものとする。

20.6. バッチスタイルの資源作成機能

このセクションはバッチスタイルの資源ファイル構成に使用する一連の資源ファイル作成機能を記述する。これらの機能は資源ファイルを作成するより単純な手段を提供する。但しファイル構成プロセスは非インクルクチブスクリプトから推進されるものとする。既存のファイルを開放したり、あるいはすでに資源ファイルに入れられた資源を修正する機能は何ら提供されていない。

(78) IDを戻す。この機能はULONGのキータイプを備えた資源インデックスに対してのみ使用可能である。インデックスエントリデータはこの機能によって戻されず、エントリデータを取得するにはRESixget()を用いること。

20.5.12. RESixfind()—ストリングエントリを見出す

この機能は所定のキーで所定の資源インデックスのエントリを探索し、そのキーに関連した資源IDを戻す。この機能はストリングのキータイプを備えた資源インデックスのみに対して使用可能である。インデックスエントリデータはこの機能によって戻されず、エントリデータを取得するにはRESixget()を用いること。

20.5.13. RESixget()—資源インデックスエントリを取得する

この機能は所定のキーで所定の資源インデックスのエントリを探索し、そのキーに関連したデータと資源IDを戻す。

20.5.14. RESixindex()—資源インデックス

-308-

20.6.1. RESereate()—バッチスタイルの資源ファイルを作成する

この機能は新しい資源ファイルを作成し、資源を挿入すべく準備する。このファイルは既存のものではない。資源の範囲は定義した限度内に入る必要がある。

20.6.2. RESadd()—資源ファイルに資源を追加する

この機能は所定の資源を現在開いている資源ファイルに追加する。資源のデータ部分は前に挿入された資源のすぐ後に挿入し、所定の資源IDを関連させる。この機能により挿入された全ての資源は「可視」「修正可」および「カストマイズ可」とフラグされる。

20.6.3. RESclose()—資源ファイルの構成を終了する

この機能は現在の資源ファイルの構成を終了し、該ファイルを閉じる。

20.7. ユーザプロファイルサポート機能

このセクションはユーザプロファイルとRESPACK

-309-

-288-

-310-

を介して対話するよう機能する。RESPACKは資源を読み取っている間、もしユーザのプロファイルにカストマイズされたバージョンがあるとすればオリジナルの代りに資源のカストマイズしたバージョンを代替させるよう選択しうる。また、ユーザプロファイル内の資源は、それらが資源ファイルにあたかも記憶されているように編集しうる。

20.7.1. RESputedit()—カストマイゼーションIDをセットする

この機能は、ユーザファイルからカストマイズされた資源を検索する上でRESPACKにより使用されるカストマイゼーションIDをセットする。このカストマイゼーションIDを介してカストマイズされた資源のみが別のRESPACK呼び出しにより戻される。IDは現在のプログラムの実行の残りの部分を通して使用される。もしこの呼び出しが行われないとすれば、カストマイズされた資源は戻されることはない。

20.7.2. RESappendit()—プロファイルで資源を編集する

—311—

細書に示し、かつ記述した特定の詳細、代表的装置並びに例示には限定されない。むしろ特許請求の範囲は本発明の真正な特特や範囲に入る前述のような変更や修正を網羅することである。

4. 【図面の簡単な説明】

第1A図、第1B図および第1C図は本発明を組み入れうる情報処理システムの構図、

第2図は本発明のシステムデータベースの構図、

第3図は本発明のオブジェクトマネージャの構図、

第4図は本発明のオブジェクトプロトタイプテーブルの構図、

第5図は本発明のオブジェクトカタログの構図、

第6図は本発明のオブジェクトテーブルの構図、

第7図は本発明のリンクテーブルの構図、

第8図は本発明のリンクに含まれる各種のデータ構造の構図、

第9図は本発明のマッチメーカーを含む、本発明のデータ交換の構図、および

第10A図と第10B図とは本発明の資源および資

(79) RESPACKはユーザプロファイルに記憶された資源が、あたかも資源ファイルに記憶されていたごとくに編集できるようにする。この機能は、実際に使用されているファイルのタイプとは関係なくRESPACKルーチンを全体的に通して資源編集が実施できるようする。

この機能はユーザプロファイルに関する情報を取得し、RESEFIDを必要とする他のRESPACK機能に対する引き数として使用可能のRESEFIDを戻す。全ての修正はプロファイルファイルに適用される。

プロファイルを編集するためにRESPACK機能のサブセットのみが使用できる。これらの機能とは、REScommit(), RESdecur(), RESetcur(), REScreate(), RESerite(), RESreerite(), RESinfo()、およびRESdelete()である。その他の全ての機能は、プロファイルを修正するよう呼び出されるとエラーコードRESBADFIDを戻す。

前述の説明は本発明の特定実施例に限定してきただ。さらに別の利点や修正が当該技術分野の専門家には明らかである。したがって、本発明は本明

—312—

源エディタの構図である。

代理人 弁理士 渡 浩 勝 三
(外4名)

四画面の構成 (内容に変更なし)

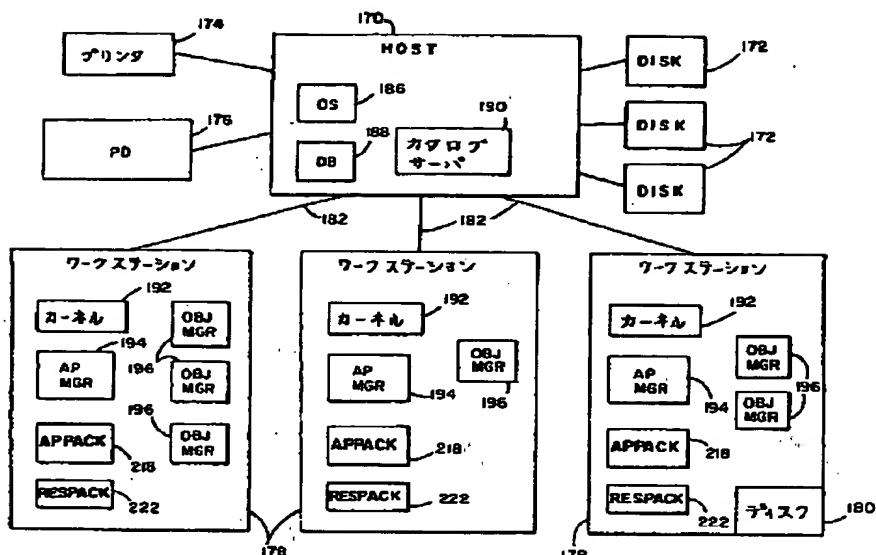


FIG. 1A

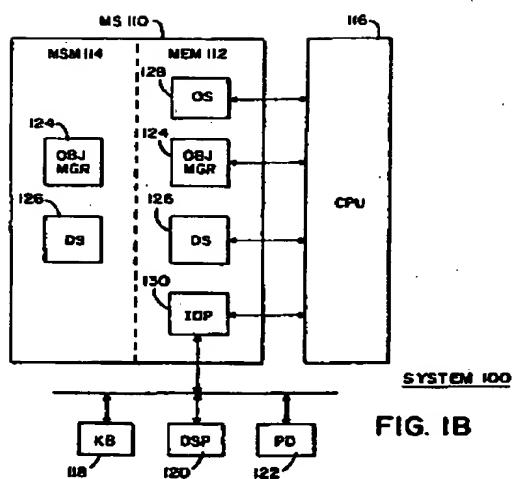


FIG. 1B

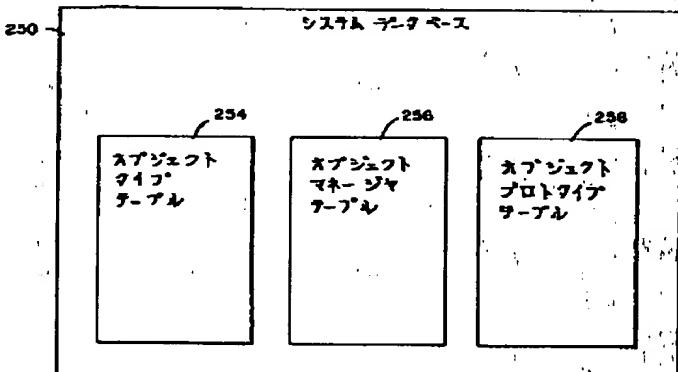


FIG. 2

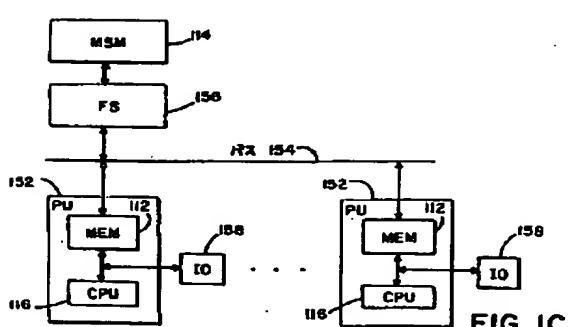


FIG. 1C

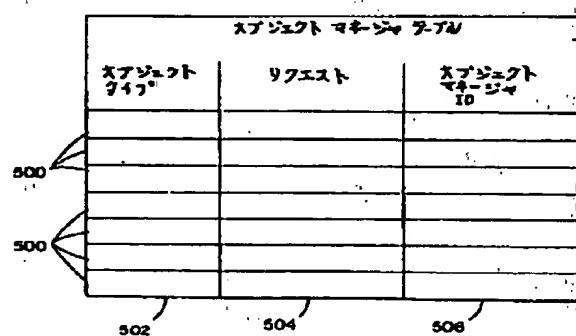


FIG. 3

(81)

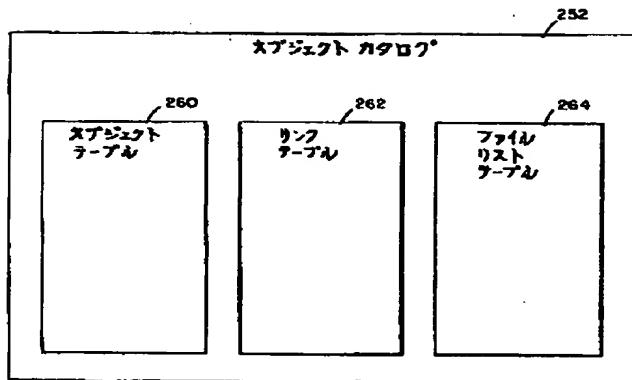


FIG. 5

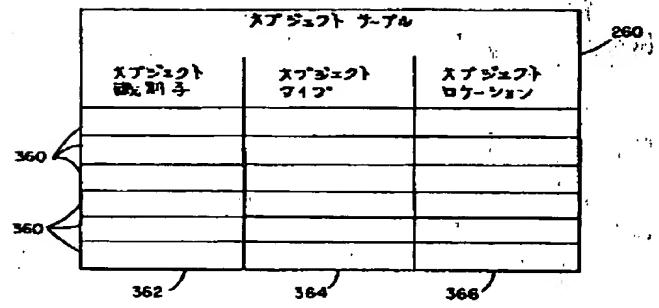


FIG. 6

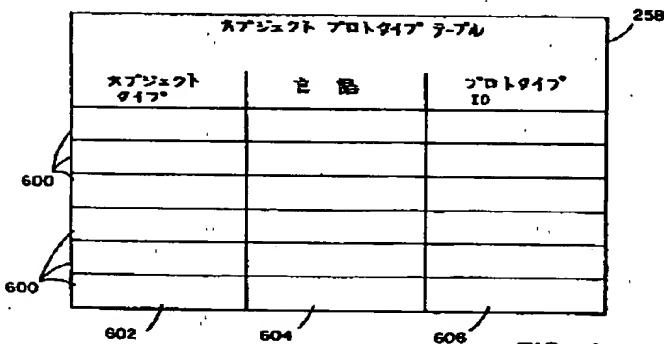


FIG. 4

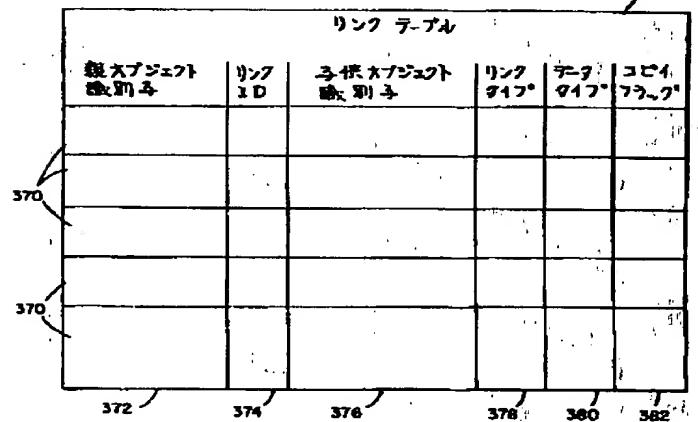


FIG. 7

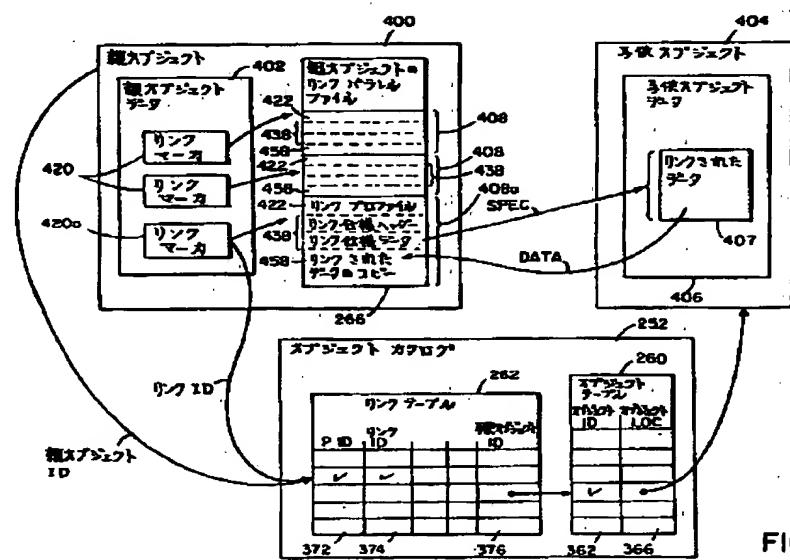


FIG. 8

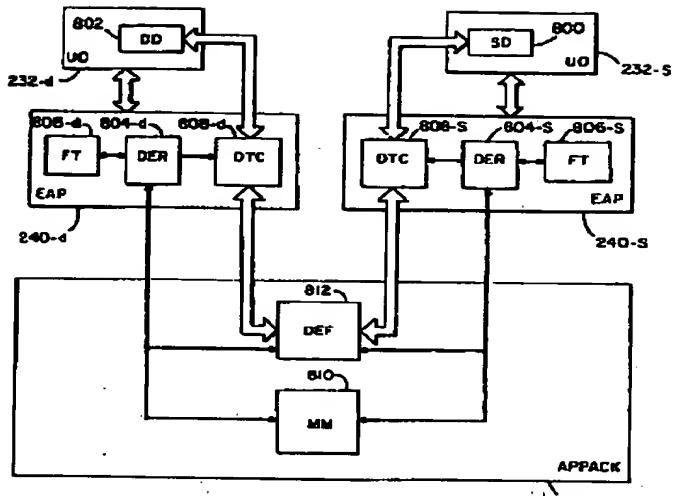


FIG. 9

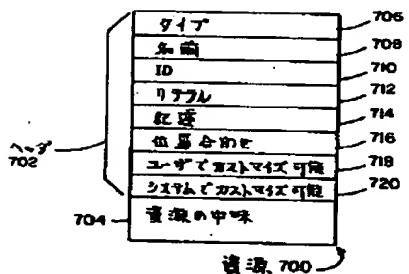


FIG. 10A

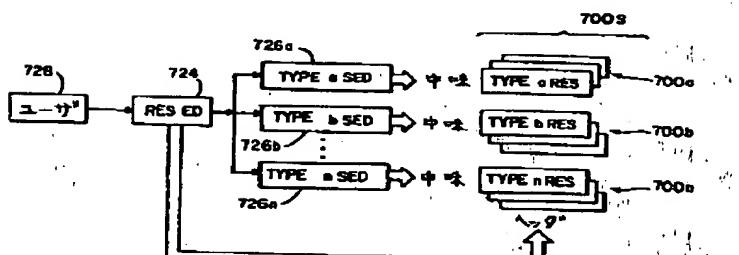


FIG. 10B

第1頁の続き

②発明者 キヤロライン・イー・
サブリナント アメリカ合衆国マサチューセッツ州01826, ドラカット,
コロニアル・ドライブ 28

②発明者 ローラ・オー・スター
ン アメリカ合衆国マサチューセッツ州01801, ウォバーン,
マンロー・アベニュー 26

②発明者 リーフォン・シ・ファ
ム アメリカ合衆国マサチューセッツ州01824, チエルムスフ
オード, グリーンバレー・ドライブ 9

手続補正書

(83)

手続補正書

昭和63年11月14日

特許庁長官 吉田文毅 殿



1. 事件の表示

昭和63年特許願第 207998号

2. 発明の名称

データ処理システム

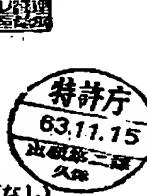
3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人
 住 所
 名 称 ウォング・ラボラトリーズ・インコーポレーテッド

4. 代理人

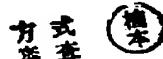
住 所 東京都千代田区大手町二丁目2番1号
 新大手町ビル 206区
 電 話 270-6641~6

氏 名 (2770) 弁理士 湯浅 基



5. 補正の対象

タイプ印書きにより添付した明細書
 適正な図面



(別紙)

(1) [特許請求の範囲] を次の通りに補正する。

(1) データがタイプされたオブジェクトとして表示されるデータ処理システムであって、

(A) 少なくとも1タイプのオブジェクトに対して少なくとも1オペレーションを各々が実行するようにされた複数のオブジェクトマネージャと、
 (B)

(a) リクエストしているオブジェクトマネージャからオブジェクトの識別とオペレーションの識別とを受け取り、

(b) 前記の識別されたオペレーションを、前記の識別されたオブジェクトのタイプのオブジェクトに対して実行できるオブジェクトマネージャ、を識別し、および

(c) 前記の識別されたオブジェクトマネージャを呼び出し、かつ前記の識別されたオブジェクトに対し、識別されたオペレーションを実行するようにとのリクエストを識別されたオブジェクトマネージャに連絡するマネジメント手段と、

特許庁長官 吉田文毅 殿

昭和63年11月14日

1. 事件の表示

昭和63年特許願第 207998 号

2. 発明の名称

データ処理システム

3. 補正をする者

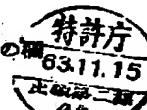
事件との関係 特許出願人
 住 所

名 称 ウォング・ラボラトリーズ・インコーポレーテッド

4. 代理人

住 所 東京都千代田区大手町二丁目2番1号
 新大手町ビル 206号室 電話 270-6641~6

氏 名 (2770) 弁理士 湯浅 基



5. 補正の対象

明細書の [特許請求の範囲] の欄



6. 補正の内容

別紙の通り



を含むことを特徴とするデータ処理システム。

2. 他のオブジェクトへのリンクを有するタイプされたオブジェクトを処理するデータ処理システムであって、

(A) 各々が少なくとも1タイプのオブジェクトに対して少なくとも1オペレーションを実行するようにされた複数のオブジェクトマネージャと、

(B) オブジェクト間のリンクを識別し、かつ各リンクと関連する前記オブジェクトを識別する情報を記憶する記憶手段と、

(C) 前記の記憶されたリンク情報をアクセスし、かつ前記の複数のオブジェクトマネージャの全てに対するリンク情報を供給するために使用可能なアクセス手段と、

(D)

(a) リクエストしているオブジェクトマネージャからリンクの識別およびオペレーションの識別を受取り、

(b) 前記の識別されたリンクによって指示された前記オブジェクトに対して前記の識別され

たオペレーションを実行できるオブジェクトマネージャ、を識別し、

(a) 前記の識別されたオブジェクトマネージャを呼び出し、

(d) 前記の識別されたオブジェクトに対して、前記の識別されたオペレーションを実行するようとのリクエストを、前記の識別されたオブジェクトマネージャに連絡するマネジメント手段と、

を含むことを特徴とするデータ処理システム。

3. 各々が少なくとも1タイプのオブジェクトに対して少なくとも1オペレーションを実行するようになされた複数のオブジェクトマネージャを有するオブジェクトベースのデータ処理システムにおいて、アプリケーションマネージャが、

(A) リクエストしているオブジェクトマネージャからオブジェクトの識別とオペレーションの識別とを受け取る手段と、

(B) 前記の識別されたオブジェクトのタイプのオブジェクトに、前記の識別されたオペレー

-3-

ションが定義されており、かつ前記の複数のオブジェクトマネージャが、各タイプのオブジェクトに対して前記の対応する省略時オペレーションを実行できる少なくとも1個のオブジェクトマネージャを、含むことを特徴とするデータ処理システム。

7. 請求項2に記載のシステムにおいて、各タイプのオブジェクトに対して省略時オペレーションが定義されており、かつ前記の複数のオブジェクトマネージャが、各タイプのオブジェクトに対して前記の対応する省略時オペレーションを実行できる少なくとも1個のオブジェクトマネージャを、含むことを特徴とするデータ処理システム。

8. 請求項1に記載のシステムにおいて

(i) 前記マネジメント手段がマネージャプロセスからなり、

(ii) 前記のマネジメント手段による受け取りが、前記のマネージャプロセスによる、リクエストしているオブジェクトマネージャからのプロセス回送の受け取りを含み、および

(84) ションを実行できるオブジェクトマネージャ、を識別する手段と、

(C) 前記の識別されたオブジェクトマネージャを呼び出し、前記の識別されたオブジェクトに対して、前記の識別されたオペレーションを実行するようとのリクエスト、を前記の識別されたオブジェクトマネージャに連絡する手段とを含むことを特徴とするデータ処理システム。

4. 請求項1に記載のシステムにおいて、前記の複数のオブジェクトマネージャが、各タイプのオブジェクトに対して1組の標準オペレーションの各々を実行できるオブジェクトマネージャを含むことを特徴とするデータ処理システム。

5. 請求項2に記載のシステムにおいて、前記の複数のオブジェクトマネージャが、各タイプのオブジェクトに対して1組の標準オペレーションの各々を実行できるオブジェクトマネージャを、含むことを特徴とするデータ処理システム。

6. 請求項1に記載のシステムにおいて、各タイプのオブジェクトに対して省略時のオペレー

-4-

(iii) 前記のマネジメント手段による呼び出しが結果的に前記マネージャプロセスにオブジェクトマネージャプロセスを生成させるようになることを特徴とするデータ処理システム。

9. 請求項1に記載のシステムにおいて、前記マネジメント手段が、オブジェクトをオブジェクトタイプに連絡させるデータベースをアクセスする手段を、含むことを特徴とするデータ処理システム。

10. 請求項1に記載のシステムにおいて、前記マネジメント手段が、オブジェクトタイプをオブジェクトマネージャに連絡させるデータベースをアクセスする手段を、含むことを特徴とするデータ処理システム。

11. 請求項1に記載のシステムにおいて、前記のリクエストしているオブジェクトマネージャにより提供されたオブジェクトの識別がリンク識別子からなることを特徴とするデータ処理システム。

12. タイプされたオブジェクトとしてデータが表示されるデータ処理システムにおいて、

(A) 少なくとも1タイプのオブジェクトに対して少なくとも1オペレーションを各々実行するようになされた複数のオブジェクトマネージャと、

(B)(a) オブジェクトをオブジェクトタイプと関連させ、

(b) リンク識別子を特定のオブジェクトと関連させ、

および(c) オブジェクトタイプをオブジェクトマネージャと関連させる

システムデータベースと、

(C)(a) リクエストしているオブジェクトマネージャからリンク識別子とオペレーションの識別とを受け取り、

(b) システムデータベースにアクセスして、前記リンク識別子が参照しているオブジェクトを識別し、

(c) 前記システムデータベースにアクセスして、識別されたオブジェクトのタイプを検出し、

(d) 前記システムデータベースにアクセスして、前記の識別されたオブジェクトのタイプの

-7-

含むことを特徴とするデータ処理システム。

14. 請求項13に記載のシステムにおいて、前記記憶手段が、前記リンクがデータリンクであるか否かの指示を各リンクに対して含むことを特徴とするデータ処理システム。

15. 請求項13に記載のシステムにおいて、リンクの中の少なくともあるリンクは子供オブジェクトからのデータを親のオブジェクトにリンク結合させ、前記の記憶手段が各リンクに対して、

(i) 前記の子供オブジェクトからリンクされたデータが修正されるとき、

(ii) 前記の親オブジェクトが開放されたとき、あるいは

(iii) 特別の更新リクエストがなされたときのみ、

リンクが更新されるべきことを各更新状態が指示できる更新状態の値を記憶することを特徴とするデータ処理システム。

16. リンクされたオブジェクトを含むデータ処理システムにおいて、

(85) オブジェクトに対し、前記の識別されたオペレーションを、実行できるオブジェクトマネージャを識別し、および

(e) 前記の識別されたオブジェクトマネージャを呼び出し、前記の識別されたオブジェクトに対し、前記の識別されたオペレーションを実行するようとのリクエストを前記の識別されたオブジェクトマネージャに連絡する

マネジメント手段、

とを含むことを特徴とするデータ処理システム。

18. リンクされたオブジェクトを含むデータ

処理システムであって、

(A) 複数のオブジェクトマネージャと、

(B) 複数のオブジェクトと、

(C) 各リンクと関連した前記のオブジェクトを識別する情報を記憶する記憶手段と、

(D) 前記の記憶されたリンク情報にアクセスする手段であり、前記の複数のオブジェクトマネージャの全てに対してリンク情報を供給しうるアクセス手段と、を

-8-

(A) 複数のオブジェクトマネージャと、

(B) リンクマーカを含む複数の親オブジェクトと、

(C) リンクマーカを含むオブジェクトからは分離しており、子供のオブジェクトをリンクに関係づける情報を記憶する手段と、

(D)(i) リクエストが、前記リンクを識別することにより、リンクされたオブジェクトを識別する場合に、リンクされたオブジェクトに対してオペレーションを実行すべきとのリクエストを受け取り、および

(ii) 前記の記憶されたリンク情報にアクセスし、どのオブジェクトが前記のリクエストで識別された前記リンクの子供であるか検出するため、前記のオブジェクトマネージャの各々にとつて利用可能なリンクマネジメント手段と、を含むことを特徴とするデータ処理システム。

17. 請求項16に記載のシステムにおいて、前記リンクマネジメント手段が、受け取られたりクエストに応答して、前記の識別されたリンク結合す

みオブジェクトに前記のリクエストされたオペレーションを実行するようオブジェクトマネージャを呼び出すことを特徴とするデータ処理システム。

18. 請求項17に記載のシステムにおいて、前記リンクマネジメント手段が応答するリクエストは、リンク更新リクエストであることを特徴とするデータ処理システム。

19. 請求項16に記載のシステムにおいて、各リンクマーカは、該マーカが記憶されているオブジェクト内では一意であるリンク識別子を含み、かつリンクは、前記既オブジェクトと、対応するリンクマーカの前記リンク識別子と、を識別することにより識別されることを特徴とするデータ処理システム。

20. 請求項19に記載のシステムにおいて、リンクされたデータのコピーを記憶する、リンクされたデータのコピーの記憶手段をさらに含むことを特徴とするデータ処理システム。

21. 請求項20に記載のシステムにおいて、前記のリンクされたデータのコピーの記憶手段が、別

(86) のオブジェクトへのデータリンクを有する各オブジェクトに対応する個別のファイルにおいて記憶することを特徴とするデータ処理システム。

22. ユーザの入力のあるものが第1のプロセスに導かれ、ユーザの入力の他のものが第2のプロセスに導かれるマルチ処理システムにおいて、マッチメーカーが、

(A) 複数のプロセスのいずれかから、指示しているプロセスの果すデータ交換の役割の指示を受け取る手段と、

(B) 受け取られた役割の指示を記憶する手段と、

(C) 各々の受け取られた役割の指示が、記憶された役割の指示と適合するか否かを検出する突き合わせ手段と、

(D) そのプロセスから受け取った役割の指示が別のプロセスから受け取られた役割の指示と適合した旨をプロセスに通知する手段とを含むことを特徴とするマルチ処理システム。

23. 請求項22に記載のシステムにおいて、その

-11-

突き合わせデータ交換の役割を有するプロセスの間の通信をアレンジする手段をさらに含むことを特徴とするマルチ処理システム。

24. 請求項22に記載のシステムにおいて、データ交換の役割が、コピー、移動、共用および位置づけオペレーションを含むことを特徴とするマルチ処理システム。

25. ユーザの入力のあるものが第1のプロセスに導かれ、ユーザの入力の他のものが第2のプロセスに導かれるマルチ処理システムにおいて、マッチメーカーのサポートを得て第1のプロセスと第2のプロセスとの間でユーザ主導のデータ交換を行う方法が、

(A) 前記第1のプロセスがデータ交換オペレーションにおいて果すべき役割を規定した入力を、前記第1のプロセスに前記ユーザが供給するステップと、

(B) 前記第1のプロセスに対して規定された役割の指示を前記マッチメーカーに前記第1のプロセスが通知するステップと、

-12-

(C) 前記第2のプロセスがデータ交換オペレーションにおいて果すべき役割を指示する入力を前記第2のプロセスにユーザが供給するステップと、

(D) 前記第2のプロセスに対して規定された前記役割の指示を、前記マッチメーカーに前記第2のプロセスが通知するステップと、

(E) 前記第2のプロセスに対して規定された役割が前記第1のプロセスに対して規定された役割と適合することを前記マッチメーカーが検出するステップと、

(F) 前記マッチメーカーが前記第1と第2のプロセスの間の通信をアレンジするステップと、を含むことを特徴とするデータ交換の方法。

26. 請求項25に記載の方法において、前記の通信をアレンジするステップが各プロセスに適合したことの検出を通知し、かつ各プロセスに、該プロセスが他のプロセスとの通信において用いるコードを供給することを特徴とするデータ交換の方法。

27. 請求項25に記載の方法に いて、データ交換の役割が、コピイ、移動、共用および位置づけオペレーションを含むことを特徴とするデータ交換の方法。』

(87)

以 上

-15-